

平成27年度
政策提言書



継続的なキャリア教育による郷土愛～新たな浜松の価値観の創造



浜松商工会議所青年部
Hamamatsu Young Entrepreneurs Group

ご挨拶

製造業のまち「浜松」は、その時代時代に応じ、繊維・楽器・二輪・自動車・光産業と様々な変化を遂げながら、誇るべき先達の弛まぬ努力によって発展して参りました。しかしながら、リーマンショック・東日本大震災をはじめとする様々な自然災害・企業の海外進出・少子化等をうけ、他の地方都市同様“元気がない”状況が続いています。この閉塞感を打破するためには「若い力」が重要です。300名を超える青年経済人が集う浜松商工会議所青年部（浜松YEG）は、その使命を大きく背負っています。本年度基本方針を「新たな時代の扉を開けよう！地域を元気にする我ら浜松YEG」と定め“地域を元気にする”をキーワードに、今年度30周年の節目をむかえた浜松YEGはさまざまな活動に務めて参りました。そして、ここに青年部創立以来、毎年継続している政策提言書が今年度も完成しました。社会情勢・経済環境はますます激しく、更にスピード的に変化しています。それに呼応して厳しさを増す都市・地域間競争の中、私たちが愛する故郷「浜松」は必ず生き延びていく、もとい、勝ち続けなければなりません。30周年記念誌の制作を同時担当いただいた政策委員会と、過去の提言を振り返ることからはじめました。さまざまな調査・研究、そして各地への視察を重ねながら整えた「地方創生社会への渾身の提言」です。長文になりますが、どうか最後までお目通しいただければ幸甚にございます。末筆において誠に恐縮ですが、今日に至る迄にいただいた各地各方面の皆々様方のご協力に一同を代表して心より感謝申し上げますとともに、当提言書が市政・市民にとっての一助となりますことを祈念いたし、巻頭のご挨拶とさせていただきます。



浜松商工会議所青年部
会長 中山彰人

浜松商工会議所青年部 平成27年度政策提言書

目 次

■ご挨拶	1
■序章	3
■提言 1 キャリア教育を通じた「郷土愛」「職業観」の育成 ～産学官連携のキャリア教育実施～	13
■提言 2 高校生が主役のまちづくりを ～浜松市高校生連盟（仮）プロジェクト～	27
■提言 3 全国の大学生。浜松に注目！ ～浜松やらまいか学生プランコンテスト～	37
■提言 4 「浜松の魅力」を発見・発信 ～U・I・Jターン対策 若者世代へ就職に対する新しい「ものさし」を明示～	49
■まとめ 戦略マップ（A3 3つ折り）	63
■卷末資料 (提言1) 資料1-1 アンケート 「子供たちへの職=仕事に関する教育・体験」 資料1-2 科目別職業選択一覧表 資料1-3 職業選択重要科目一覧表 資料1-4 2014年静岡新聞掲載キャリア教育 関連イベント実施調査 資料1-5 調査記録「浜松市教育委員会」 資料1-6 調査記録「福井市教育委員会」 資料1-7 調査記録「福井商工会議所青年部」 資料1-8 調査記録「鯖江商工会議所青年部」	69
(提言2) 資料2-1 アンケート「高校生の意識調査」 資料2-2 調査記録「高校生グループミーティング」 資料2-3 調査記録「鯖江市役所市民協働課（JK課）」	
(提言3) 資料3-1 アンケート「学生が考えるビジネスプランについて」 資料3-2 全国ビジネスプランコンテスト一覧表 資料3-3 調査記録「鯖江市地域活性化プランコンテスト」 資料3-4 調査記録「学生まちづくりコンペティション」 資料3-5 調査記録「はままつ起業家カフェ」	
(提言4) 資料4-1 アンケート「浜松に住もう・働く・生きる～地方代表『浜松』の価値観～」 (取材記録写真等)	
■あとがき	112

序章

『ちいき。げんき。人づくり。』

継続的なキャリア教育による郷土愛
～新たな浜松の価値創造

- ・「元気な地域」とは何か?
- ・浜松市は人口減少中
- ・18~24歳の人口減が顕著
- ・どうして若者が浜松市から出ていってしまうのか?
- ・浜松市の「人づくり」は…
- ・他の地域はどうしているのか?
- ・4つの要素に注目
- ・青年部30年の歩みの中から
- ・継続的かつ段階的な働きかけが必要
- ・4つの提言

「元気な地域」とは何か？

今年度、創立30周年を迎えた私たち浜松商工会議所青年部は、「新たな時代の扉を開けよう！地域を元気にする。我ら浜松YEG」をスローガンに掲げ、「地域を元気にする」ための活動を行いました。その中で私たち政策委員会も「地域を元気にするための提言を行う」ことを目標に平成27年4月、委員会活動をスタートしました。

しかしながら、そもそも「『元気な地域』とはどのような地域のことを呼ぶのか？どのような状態の地域を『元気』と呼ぶのだろうか？」という疑問にぶつかり、その答えを求めるところから委員会活動をスタートしました。

私たちは35～46歳の“地域経済の次世代を担う青年経済人”という立場であり、その視点から、「元気な地域（浜松）とは？」という問い合わせに対し、数ヶ月間の議論を重ね（図-1）、その結果以下の定義を導くことができました。

元気な地域とは

- ・持続的な発展と成長をしている
- ・次世代を担う若い人材が多くいる

という状態の地域のことを指す。

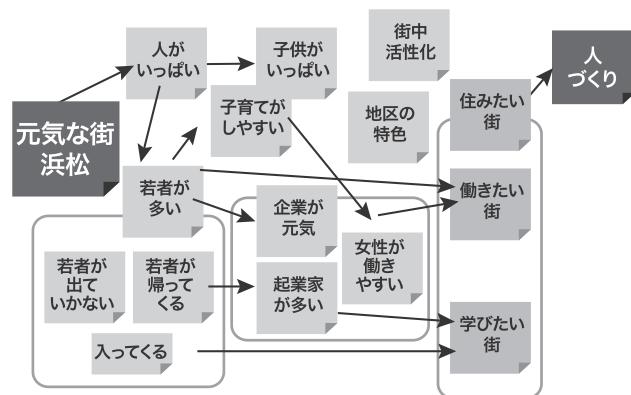
つまり

「元気な地域とは『若くて元気な人がたくさんいる。』『住みたい街』『働きたい街』である」と定義づけを行いました。

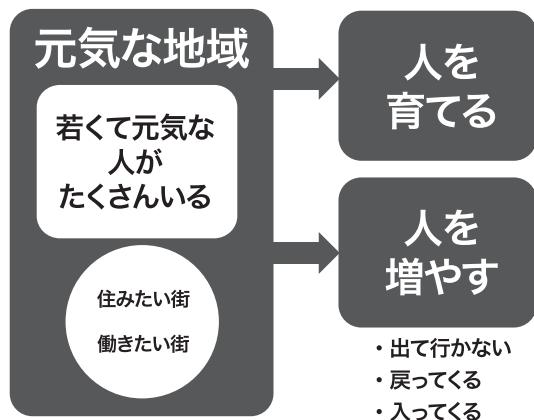
さらに、その「元気な地域」を実現するためには、「人を育てる」ことが必要であり、その結果として、「人を増やす」必要があるという結論を導き出しました。（図-2）



(写真-1)例会風景
ワールドカフェ形式のディスカッションを採用



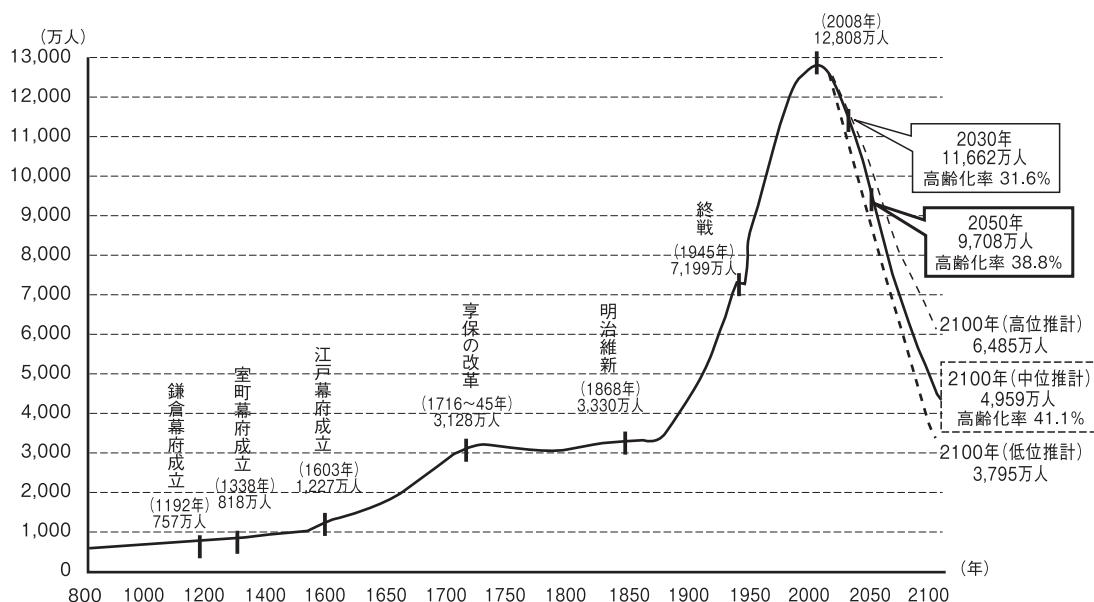
(図-1)元気な街浜松のイメージ



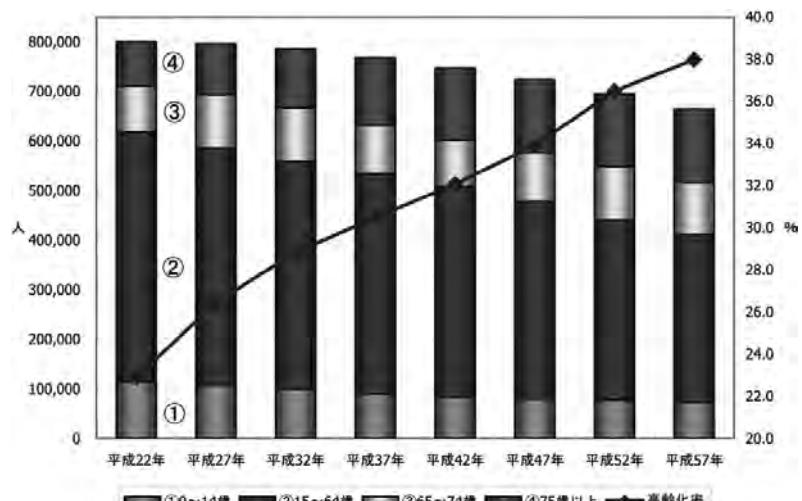
(図-2)『元気な地域』定義づけイメージ

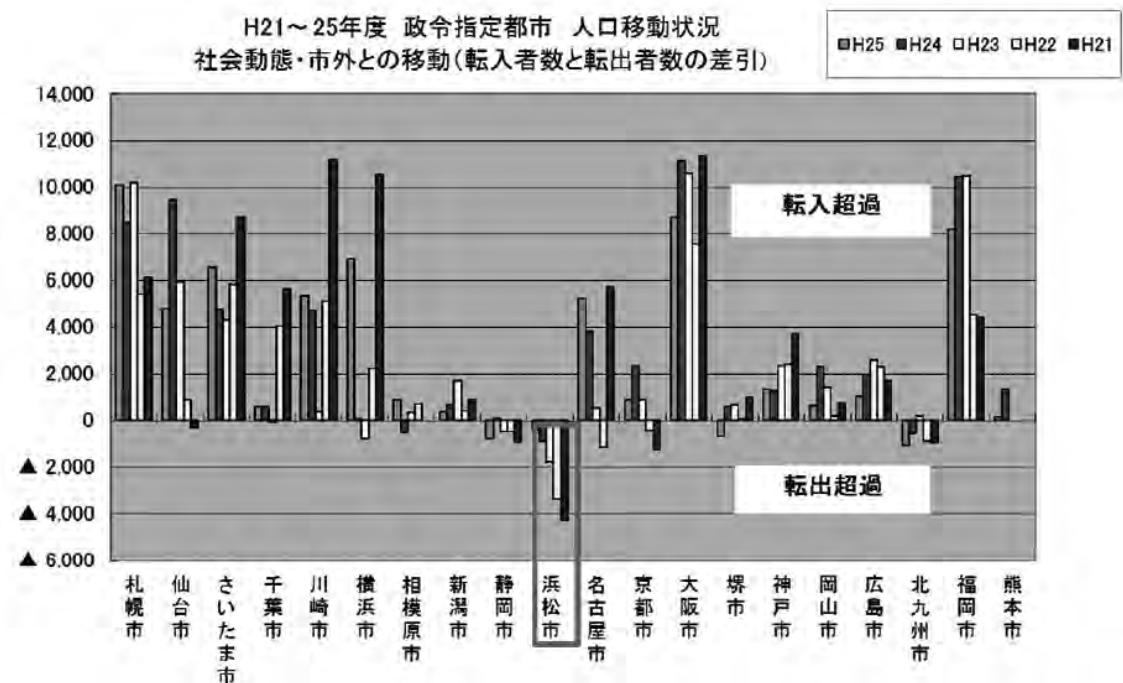
浜松市は人口減少中

2014年、日本創生会議が発表した通称「増田レポート」によれば、日本全体が本格的かつ急激な人口減少時代に突入し（図-3）、さらには大都市への一極集中が進み地方都市は消滅の危険に晒されていると警告されました。それを受け、日本全体が「地方創生」を合言葉に、県・市町村といった各地域ごとに“地域再生計画”が立てられ、それぞれが対策を始めました。



私たちの住む浜松市が現在おかれている状況を顧みると、浜松市においても平成22年（2010年）をピークに人口減少がはじまっています。（図-4）また、「増田レポート」においては、“政令指定都市のような街は周辺市町村からの人口流入により人口減少が生じにくい”とされていますが、その政令指定都市の中で浜松市は唯一、“5年連続で転出超過の状態”に陥っています。（図-5）これは、浜松市の産業構造が輸送機産業を中心であることや、円高をはじめとする経済環境の変化に伴い、各メーカーの製造拠点が海外移転にシフトしたり、リーマンショックを機にした景気の低迷等により、地域としての求心力を失い始めていることが一因であると考えられます。





(図-5) 平成21～25年度政令指定都市人口移動状況（出典：浜松市人口ビジョン浜松市総合戦略策定方針）

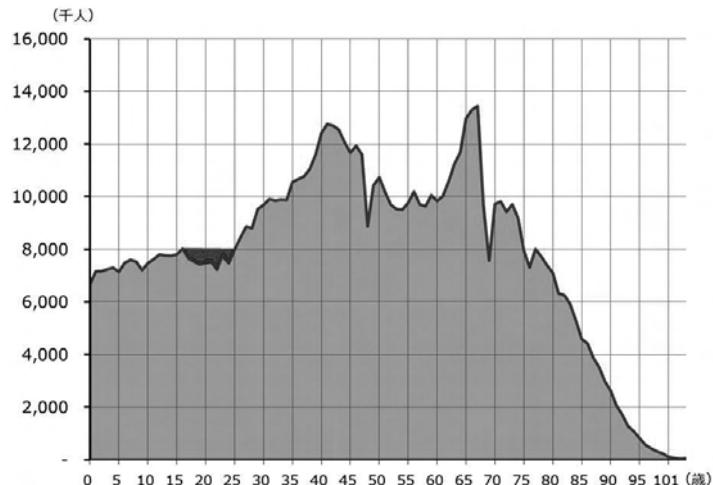
18～24歳の人口減少が顕著

さらに、現在の浜松市の人口分布状況（図-6）を確認すると、18～24歳の人口減少が著しい事が分かります。このままの状況を許していくには、若者が浜松市を去るだけでなく、その一方で高齢化が加速し、「高齢者の街」となることは明らかです。

これでは、先に私たちが定義付けした「元気な地域」の実現は難しい状況下にあるといえるでしょう。

やはり「元気な地域」を実現するためには、地域の未来を支える若い世代の人材確保が必要不可欠であり、そのためにも、「18～24歳の若年層の人口流出を抑制すること」は浜松市の喫緊の課題であると考えました。

それでは、なぜ18～24歳の若年層の人口が減少しているのでしょうか？



(図-6) 浜松市の人口分布状況（浜松市HP・年齢別人口表より作成）

どうして若者が浜松市から出ていってしまうのか？

人口の減少、流出という重い課題を抱える浜松市ではありますが、実は浜松市には全国に誇ることができる魅力が数多く存在します。

浜松市には“ものづくりの街”に代表される輸送機・楽器を中心とした製造業だけでなく、光産業、航空産業、医療、農業など多種多様な産業があります。その中には、世界的有名な大企業、そしてそれらを支える高度な技術やサービスを持つ優秀な中小企業が数多くあることが特徴です。

さらには山や海、川、湖などの自然環境にも恵まれているなど、都市としての魅力・能力は他の都市とくらべてもかなり高いものであると思います。

しかしながらこのように数多くの魅力があるにも関わらず、浜松市における人口流出は止まる気配がありません。

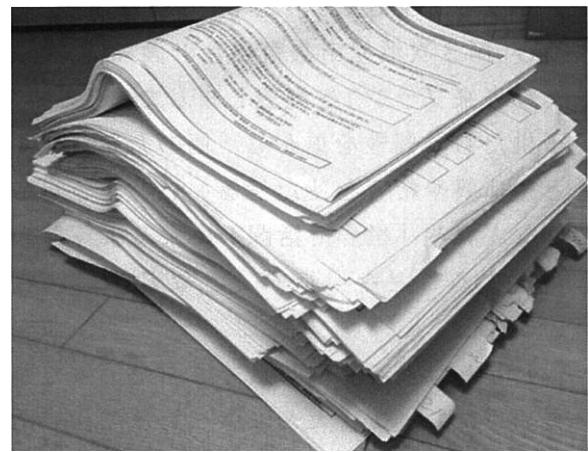
今回私たちが実施した「浜松市内の進学校6校の高校2年生2102名に対するアンケート（以下「高校生アンケート」）」（写真-2）（資料2-1）では、高校生たちの進学先・就職先の“大都市圏志向”が著しく現れる結果となりました。

その理由としては「浜松市内には行きたい大学がない」「浜松市内の企業をよく知らない」「浜松市には魅力がない」などが挙げられていました。このことから、浜松市が持つ魅力や価値に気づかず浜松市を離れていく人が多いことが浜松市の人口流出の一因であると考えました。

彼らは、成長過程において浜松市の魅力を知らず、価値に気づく機会がないために、

「浜松市で自分たちが大人（社会人）になった時、浜松市でやりがいを持って働き、幸せな家庭を築く、というような“明るい未来”を描くことができない。」のです。（図-7）

その結果、メディア等の情報などの影響により、浜松市よりも大都市に憧れを抱き、大都市圏を、そして大企業を目指すのではないでしょうか。



（写真-2）高校生アンケート

浜松市内6校の進学校高校2年生2102名に実施



（図-7）若年層流出イメージ

浜松市の「人づくり」は・・・

平成27年3月、浜松市は「浜松市総合計画」と「第3次浜松市教育総合計画“はまつ人づくり未来プラン”」を発表しました。その中では、子供たちの個性を重んじ「個の力を伸ばす」ことや「夢や希望を持たせる」こと、そして国際的な人材や「世界で活躍」できるような人材を育成することを目指すことが掲げられています。

しかしながら、現時点ではまだ子供たちが成長過程において「大人になったら浜松で活躍したい！」と思うビジョンや施策までは打ち出されていないのが現状です。このままでは、若年層の人口流出に歯止めをかけることはできません。



(図-8) 浜松市総合計画・はまつ人づくり未来プラン

他の地域はどうしているのか？

一方で、他の地域ではどのような取組みをしているのでしょうか。浜松市のモデルケースを求め調査研究を進めていく中で私たちは書籍（図-9）やインターネット等による情報収集を進める中で、北陸3県、その中でも福井県、富山県に注目しました。

北陸3県はかつて政府が提唱した「豊かさ指標（新国民生活指標）」による「幸福度ランキング」で毎年上位にランクインされていました。また、小中学校の学力テストにおいても全国上位の常連である「教育先進都市」です。

例えば「富山市」の「コンパクトシティ」に代表される先進的なまちづくりへの取り組み。福井県で唯一人口が増加している「鯖江市」における市民協働の取り組み、そして外部の大学生の知恵を取り入れる仕掛け。「福井市」における商工会議所青年部主導による街全体を巻き込んだ先進的なキャリア教育。など数多くの先進的で独創的な取り組みが行われていることが分かりました。その中で私たちは「これらの取り組みの中に、きっと浜松市を元気にするためのヒントがあるのではないか」と考え、商工会議所青年部の繋がりを通じ、富山市、福井市、鯖江市へ調査研究を目的とした取材・視察に伺いました。



(図-9) 「福井モデル」

(著：藤吉雅春 文芸春秋出版)

調査の詳細については、後述する提言及び巻末資料に記載しましたが、今回の調査から概ね以下の様な特徴・共通点を見出すことができました。

- ・地域を知り、興味をもたせている
- ・地域を好きになる
- ・行政のみならず、産業界、市民が参加している
- ・外部の人を積極的に活用している

以上の視点をベースに、私たちは浜松市を今一度見つめ直すことにしました。

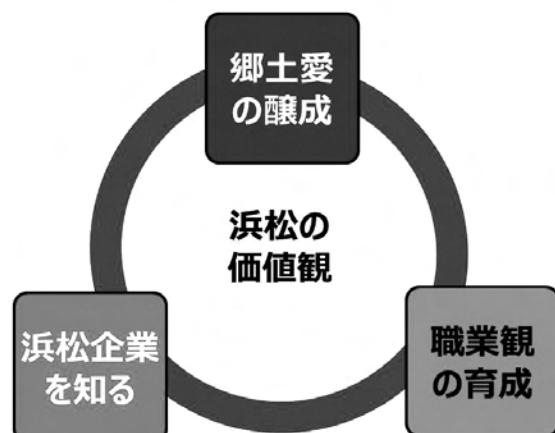
4つの要素に注目

高校生アンケート（資料2-1）によると現在、浜松市内には高校生たちが「行きたい」と考える大学・専門学校は多く存在していないことが分かります。そのため彼らが進学する際に、一旦は大都市をはじめとする他地域への転出することはやむを得ないかもしれません。

それでも、小学校・中学校・高校と成長する過程において、彼らが将来大人（社会人）になった時に、浜松市でやりがいを持って働き、幸せな家庭を築くというような“明るい未来”を描くことができれば、「いつかは浜松市に戻りたい」というイメージから、「大人になったら浜松で活躍したい」「浜松で家庭を築きたい」と考えるようになるのではないでしょうか。

その具現化のために私たちは次の4つの要素に注目しました。（図-10）

- ①郷土愛の醸成
- ②職業観の育成
- ③浜松市の企業を知る
- ④浜松市の価値観を「見える化」し、共感、共有する



（図-10）4つの要素イメージ図

①郷土愛の醸成

私たちは福井県、富山県をはじめとする今回の調査研究を通じて、「郷土愛」の強さが「地域に戻ってくる最大の動機」であると考えました。

「高校生アンケート」から、浜松市内の約7割の高校生たちは、大都市圏に進学、就職しても「いつかは浜松に戻ってきたい」と考えていることが分かりました。

このことは、現在の浜松市の施策・教育が、多くの子供たちの浜松市に対する「郷土愛」をしっかりと醸成できていることの裏付けであると考えます。

それ故に、今よりもさらに郷土愛を強化し、「いつかは浜松に住みたい」という子供たちの割合を、7割から8割、9割と高めるような働きかけをすることを目指したいと思います。

② 職業観の育成

変化の激しい時代において、未来を担う子供たちには将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。

成長する過程において、彼らが将来大人（社会人）になった時に、浜松市でやりがいを持って働くイメージを持たせるためにも、現在浜松市で活躍する大人たちが積極的に子供たちと関わり、彼らの「職業観」を育成する必要があると思います。

また、地域で活躍する“輝いている大人”たちを知ることは、子供たちが憧れを抱くとともに「職業観の育成」と併せて「郷土愛の醸成」にも効果があると思います。

③ 浜松市の企業を知る

高校生アンケート（資料2－1）で判明したように、彼らは浜松市の企業の名前、そしてその企業がどんな仕事をしているのかを知りません。「浜松市で働きたい」と考えるためには、浜松市に「魅力ある“働きたい場（会社等）”がある」必要があるとともに、まずは「浜松市にある企業を知ってもらう」必要があると思います。

かつての子供たちは、自分の両親、親戚、近所のおじさんなどの職業を中心に、社会にある仕事に対するイメージを膨らませて育ちました。しかしながら、昨今のインターネット社会の膨大な情報量の中においては、大都市中心の企業情報に触れる機会が増え、身の回りにある仕事に対する情報に触れる機会が減っているのが現状です。

そこで私たちは今回、職業選択をする前の世代に、より積極的な働きかけをすることで、少しでも多くの「浜松市の企業を知る」機会を創出したいと思います。

④ 浜松市の価値観を「見える化」し、共感、共有する

上記を通じ、浜松市への「郷土愛を醸成」した子供たちの多くが、正しい「職業観」をもった上で「浜松市内の企業を知る」ことで、「将来的に浜松市でどんな仕事ができるか」を想像することができ、「将来、できれば浜松市で働きたい」と考えるようになるのではないかでしょうか。

しかしながら一旦外部の価値観に触れた後に、再度浜松の魅力を思い出すためには、浜松市に住むこと・浜松市で働くことの価値観をしっかりと「見える化」し、彼らに共感させたうえで、その価値観を共有する必要があると考えます。

そこで私たちは今回、政府やビジネス誌が定義付ける大都市、大企業主導の価値観ではなく、浜松市独自の評価軸を設け、浜松市独自の価値観を指標として見える化し、それに共感させ、共有する試みを行い、より多くの子供たちが、将来浜松で活躍し、幸せな生活を送るイメージができるようにしたいと思います。

青年部30年の歩みの中から

私たち浜松商工会議所青年部は、創立から今日にいたるまでの30年間で、数多くの「人づくり」に関する政策を提言してまいりました。

年度毎に提言の切り口こそ違いますが、その時代ごとに青年経済人としての立ち位置から「地域を元気にするためには人づくりが重要である」という視点は普遍のものであり、継続的に訴え続けてきました。

年度	提言タイトル	概要
平成 4年	『夢の街づくり、人づくり』における調査研究	高齢者対策
平成 6年	県西部100万都市圏の魅力あるまちづくり	若者が集う大学のある街づくり
平成11年	起業家創生都市「はままつ」構想	起業家創生カレッジの開校
平成12年	みんなが住みたくなる魅力あるまち 浜松	教育・文化の充実
平成13年	生きがいのある街 はままつ	はたらく歓びの追求（高齢者就労）
平成17年	将来を担う子ども達にとって豊かな郷土“浜松”の創造 ～Hearts,Hands,Kids,はままつ～	企業が携わる子育て支援
平成18年	新浜松市の遊和 子供を核とした交流	キッザニア浜松
平成22年	中山間地域の活性化	交流人口・定住人口の増加策
平成24年	やらまいかのまち・浜松を目指して ～Envisioning Hamamatsu “Yaramaika” Start-Up City～	起業家支援スクール・コンシェルジュ 目利き委員会・メンター制度
平成26年	観光都市の発展 ～地域の総合力「観光」から笑顔溢れるまちづくり～	観光教育のススメ

(表-1) 浜松商工会議所青年部の「人づくり」に関する主な政策提言

また政策提言を具現化する試みとして、小学生対象の職業体験事業「浜松こども do 楽市（2013年）」「ハマワクキッズ！（2014年）」、高校生への企業経営者との交流事業「企業知っ得フェスタ（2012年）」を開催するなど、若者世代の職業観や起業家精神を醸成することを目的とした「キャリア教育」事業を試行してきました。

年度	事業名	概要
平成18年	Hearts,Hands,Kids 浜松 2006	小学生親子対象の職業体験等
平成20年	集え！起業家の卵たちよ！	高校生対象アイデアコンテスト
平成24年	企業知っ得フェスタ !!	高校生対象の企業博
平成25年	飛び込め！浜松こども do 楽市	小学生対象の職業体験
平成26年	ハマワクキッズ！～はたらくってなあに？～	小学生対象の職業体験・講習

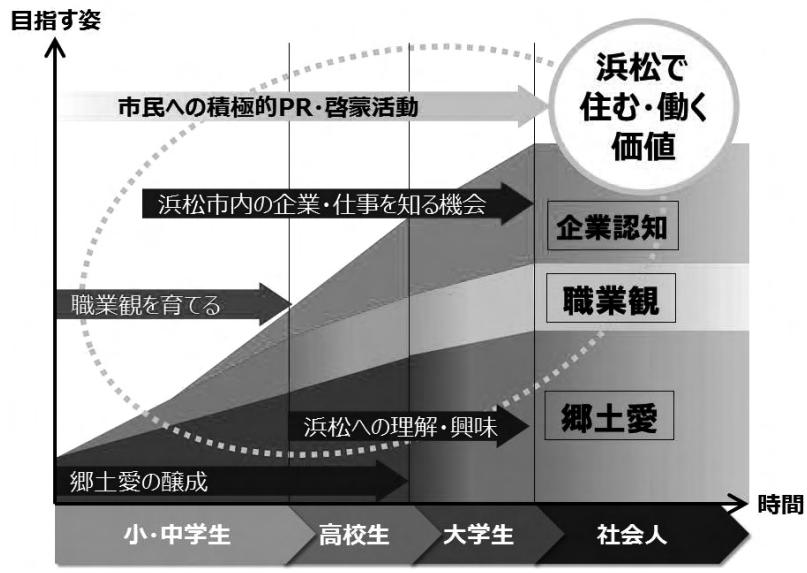
(表-2) 浜松商工会議所青年部の「人づくり」に関する主な全体事業

しかしながら、このキャリア教育に関する事業も単年度事業での実施に留まり、継続的な実施とその効果についての検証にまでは至っていないのが現状であり、1団体が開催するのみでは効果においても、事業の継続性についても課題があることが分かります。

継続的かつ段階的な働きかけが必要

「元気な地域」の実現のためには、「郷土愛」を強く持ち、正しい「職業観」を持った「人を育てる」必要性があります。その上で、浜松市内の企業とその魅力を知り「浜松市で自分たちが輝いて活躍出来る・幸せに暮らせる」将来像を描けるようになれば、多くの若者たちが浜松に戻り、集まつてくるのではないかでしょうか。(図-11)

そのためには、浜松市の明確な価値を示し、それを共有するとともに、産学官が一体となったキャリア教育を、各世代に計画性を持って、段階的かつ継続的に実施することで実現できるのではないかと考え、その具体策として以下の4つの施策を提言させていただきます。



(図-11) 提言イメージ

4つの提言

提言1（小・中学生）

キャリア教育を通じた「郷土愛」「職業観」の育成～産学官連携のキャリア教育実施～

提言2（高校生）

高校生が主役のまちづくりを～浜松市高校生連盟（仮）プロジェクト～

提言3（大学生）

全国の大学生。浜松に注目！～浜松やらまいか学生プランコンテスト～

提言4（社会人・子どもたちの将来）

「浜松の魅力」を発見・発信
～U・I・Jターン対策 若者世代へ就職に対する新しい「ものさし」を明示～

提言 1

キャリア教育を通じた 「郷土愛」「職業観」の育成

～産学官連携のキャリア教育実施～

「浜松人づくりネットワークセンター ＝(仮称) 職バーチャル・スタジオ・はままつ」

を開設し、専従の職業コーディネーターを配置し、体系的に多様なキャリア教育の構築及び実行のために以下のメニューを提供する。

【提供メニュー】

- ①小学生キャリア教育カリキュラム
- ②中学生キャリア教育カリキュラム
- ③若手就労希望者就職支援制度

小中学校におけるキャリア教育の現状

小中学校におけるキャリア教育の現状を確認してみると、文部科学省や教育委員会が主になって行う「教育界主導」のキャリア教育と、商工会議所等の経済団体が主になって行う「経済界主導」のキャリア教育の大きく分けて2種類が混在していることが分かりました。まずはそれぞれの状況・課題等を確認してみることにしました。

教育界主導のキャリア教育

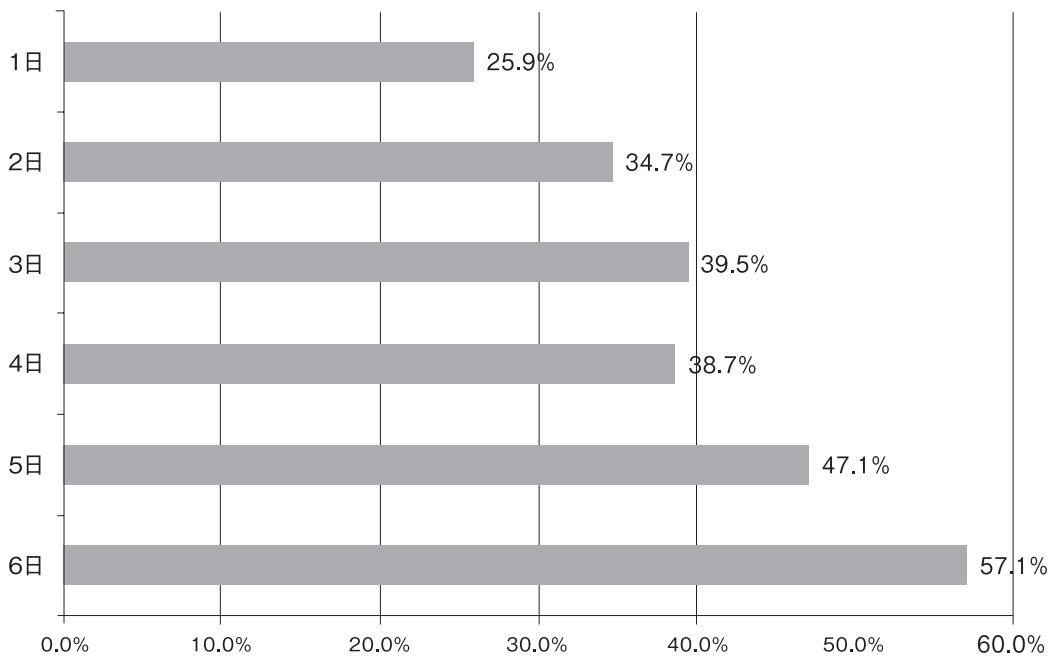
教育界主導のキャリア教育については、平成25年3月に国立教育政策研究所が発行した「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第一次報告書」に、現在の「小学校キャリア教育と課題」、「中学校キャリア教育と課題」について記載されています。主な内容は以下のとおりです。

小学校

- 約8割の学校がキャリア教育担当者を配置しており、小学校においてもキャリア教育推進への対応が進みつつある。しかし、担当者の多くがほかの担当との兼任であること、担当者が一人のみの割合が高いこと等の課題もある。
- キャリア教育の全体計画の作成は6割、年間指導計画の作成は5割程度の学校にとどまっている。児童の発達の段階に応じた系統的なキャリア教育の実践のため、指導計画の作成を推進する必要がある。
- 年間指導計画に「キャリア・カウンセリングが含まれている」割合は極めて低く1割を下回る。キャリア・カウンセリングは、単に卒業直後の進路決定のための相談ではなく、児童のキャリア発達を促す上で欠かせない個別支援であることを認識する必要がある。
- 「基礎的・汎用的能力」に関する教員の理解が不十分であり、キャリア教育に関する校内研修に参加したことがない教員も6割を超えている。学校全体での系統的なキャリア教育の実践に向け、キャリア教育の理解を共有するため、研修機会の拡充を図る必要がある。
- 児童の多くは、「友達の考え方や気持ちを考えながら話を聞こうとする」など「人間関係形成能力」に関わる事柄について日常的に留意しつつ生活しているが、「キャリアプランニング能力」や「課題対応能力」に関わる事柄について留意して生活している児童は少ない。
- 9割以上の保護者は小学校で職業や仕事について学習することを有意義だと捉えている。
- キャリア教育の新たな課題ともいえる「自己管理能力」、「課題対応能力」を向上させる上で、職業に関する学習やキャリア・カウンセリングの充実が効果を發揮する。

中学生

- ・キャリア教育の全体計画・年間指導計画とも、約8割の学校で作成されており、計画的な実践の定着が進んでいる。
- ・ほぼ全ての学校にキャリア教育の担当者が配置されているが、在任期間は1年目が4割を占め、第3学年の学級担任等との兼任も約4割に及んでいる。卒業学年に焦点を当てた組織体制である可能性があり、中学校3年間の継続性や系統性の確保の面から改善が望まれる。
- ・キャリア教育に関する校内研修に「参加したことがない」担任は約5割に及んでいる。教育活動全体を通じた系統的なキャリア教育の実践のため、研修への参加により、全ての担任の理解を深めることが課題である。
- ・職場体験活動はほとんどの学校で実施されており、第2学年での実施率が89.5%と最も高い。また、約9割の卒業者が「有意義だった」と評価している。その一方で、多くの生徒や卒業者が将来の生き方や進路を考える上で日々の授業が役立つと回答していることを踏まえると、職場体験活動にとどまらず、教育活動全体を通じたキャリア教育の充実を図る必要がある。
- ・保護者の期待は進学支援に限定されてはおらず、生徒の社会的・職業的自立を目指した多様なキャリア教育を望んでいる。保護者の幅広い期待に応える実践の充実が求められる。
- ・キャリア教育の全般的な充実、職場体験活動の日数の増加は、ともに生徒の学習意欲を向上させる可能性があり、キャリア教育の一層の拡充が期待される。(図-1)



(図-1) 職場体験活動(中学2年生)日数別に見た学習意欲向上認識率

以上の内容を踏まえると、教育界主導のキャリア教育の現状は次のように考えることができます。

- ①生徒、保護者とともに、キャリア教育は将来の生き方や進路を考える上で有意義であると思っていますが、数日間の職場体験活動のみにとどまっており、職場体験活動にとどまらない教育活動全体を通じた体系的で多様なキャリア教育の充実が求められています。
- ②教育界としては、キャリア教育の充実、職場体験活動の日数の増加は、子供達の学習意欲を向上させる可能性もあると捉えていますが、学校現場でのキャリア教育への理解がまだまだ不十分であり、十分な理解を得られる環境整備が必要です。

また、浜松市内の小中学校におけるキャリア教育の現状は以下のようになっています。

小学校（浜松市）

1～2年生は、生活科で自分自身に身近な自宅近所について勉強しています。

3年生以降は、社会科で徐々に社会範囲を広げて勉強しています

（3・4年生はスーパーマーケット、工場、清掃工場、水道局、消防署等、
5年生は自動車組立工場等）。

中学校（浜松市）

主に2年生時に3日程度企業受入れによる職場体験を実施しています。

このことから、浜松市においても全国的な取組み状況と同様であり、教育活動全体を通じた体系的で多様なキャリア教育の充実と、学校現場での理解向上が求められていると考えます。

浜松市経済界の主な取組み

その一方で、浜松市の経済界主導のキャリア教育の現状はどのようになっているのでしょうか。

浜松商工会議所青年部

私たち浜松商工会議所青年部においては、浜松の未来を担う子供たちに

- ①浜松の商工業の魅力を知り
- ②仕事の楽しさと対価を得る喜びという繋がりを感じ
- ③将来、浜松の商工業に携わることへの意識を培うことにより

浜松の商工業を未来へ紡いでいく

ための場を提供するために、2013年に「飛び込め！浜松こどもd o 楽市」、2014年に「ハマワクキッズ！～はたらくってなあに？～」を全体事業として開催しました。いずれも会場内で仕事を体験して得た対価（キッズマネー）を使って買い物することを通じ、経済の仕組みと仕事の楽しさや対価を得る喜びを感じてもらうことが特徴です。「浜松こどもd o 楽市」では、当初定員90名のところ応募総数703名と応募多数であったため、定員150名に増員して対応しました。翌年開催された「ハマワクキッズ！」では、その反響を踏まえ、定員を大幅に

増員し、会場をアクトシティ展示イベントホールに移して開催した結果、来場人数2,000名の大規模開催となりました。

I) 飛び込め！ 浜松こどもdo楽市

日時：2013年11月10日（日）

場所：浜松プレスター 7階及び新川モール

入場料：無料

定員：150人

（定員90名から150名へ増員、応募総数703名）

告知方法：

浜松市内小学校に事業委員会メンバーがチラシ配布

内容：

①説明会及びかんたん経済セミナー開催

②仕事体験及び終了式

（キッズマネー配布）

③キッズマネー配布後、参加者は消費体験へ

④ステージイベント（4イベント）

ボイストレーニング、ファッショショニヨー第1部・第2部、ジャズダンス



（図-2）こども do 楽市ポスター

II) ハマワクキッズ！ ～はたらくってなあに？～

日時：2014年11月9日（日）

場所：アクトシティ浜松

展示イベントホール 第1～3ブロック

入場料：無料

来場人数：2,000人

告知方法：

浜松市内小学校に事業委員会メンバーがチラシ配布

内容：

①小学校4～6年生の児童を対象とした仕事を体験・学ぶ場を提供（職業体験20ブース、職業体験＆販売12ブース）

②小学校4～6年生の児童及びその保護者を対象とした仕事について学ぶセミナーを開催（5講座）

③小学校4～6年生の児童を対象とした体験型ステージイベントを開催（5ステージ）。また、ステージイベントの鑑賞は対象児童の保護者をはじめとする一般来場者にも開放

④上記で対価（キッズマネー）を得た児童の消費及び一般来場者向けに飲食等を提供（販売9ブース、職業体験＆販売12ブース）



（図-3）ハマワクキッズポスター

浜松商工会議所青年部以外にも数多くのキャリア教育に関する事業・イベントが様々な団体の主催で開催されています。その中から「浜松わくわく探検隊」「未来授業」について主催者にヒアリングを実施し、その現状と課題を確認しました。

浜松わくわく探検隊

主催：一般社団法人ぽっぷちゃいるど

運営：ぽっぷはーとつながり隊実行委員会

開催：2015年8月6日（木）

浜松商工会議所青年部平成19年度会長水野久美子氏が、この浜松地域には全国的に見ても魅力ある企業がたくさんあることに注目し、子供たちのまだ知らない、そして私たち大人も知らなかった様々な企業への見学や体験を通して、「浜松ってすごいな、すごい街に住んでいるんだな、いい街だな！」と感じてもらい、浜松を夢が描ける街とするために、2010年より毎年開催しています。

小学校3～6年生の児童を対象とした企業への職業体験や講座を行っています。初対面の子供たち同士でチームを組んで行うことによりチームワークの大切さを実感してもらいうことも狙いとしています。

平成17年度に当時浜松商工会議所青年部政策委員長であった水野久美子氏が、政策提言でキャリア教育について提唱を行い、翌平成18年度に親子体験型学習事業「Hearts Hands Kids はままつ2006」を開催、その後毎年職業体験イベントを開催していく中で2010年（平成23年）より現在の形となっています。

参加した児童・保護者のみならず、参加企業にとっても、自身の事業・仕事への新たな気付きや価値を発見できたり、人と人との繋がりが増えるとのことで好評です。

今後、親も一緒に参加する大人版体験教室の開催やボランティアを一般公募するなど参加対象者のすそ野をさらに広げ、参加した子供たちが将来参加企業へ就職したり、運営団体「ぽっぷはーとつながり隊」の実行委員長を務めることなどを目標として活動しています。



(図-4) わくわく探検隊ポスター

未来授業

主催・運営：未来学校

開催：年中（随時）

株式会社ありがとう（代表取締役 黒柳誠氏）が主宰する「未来学校」では、学生と地域の先輩社会人が授業の中で語り合うことで社会の仕組みや働くことに興味、関心を持ち、「大人になることは楽しいことだ」と感じて自分の未来に希望を見出してもらい、希望にあふれた仲間が増えることによって地域社会も活性化させていくことを目的として

2014年より開催しています。

中学生を対象とした学校構内での総合時間を利用した講和及び職業体験を5人程度のチームに分けて行っています。終了後、通信簿と呼ばれる感想文を提出します。1年生「地域の大人の声を聞こう」、2年生「職場体験後の意見交換」、3年生「進路について」というようにカリキュラムを持っています。

関わり合う大人も自身の仕事の喜びを伝えたり、子供たちとコミュニケーションをとることで学ぶこと多く、自分のあり方を見直すチャンスにもなります。子供たちと大人が関わるだけでなく、地域と学校を結びつけることにより、学校が門の中の座学の場から、社会とつながった開かれた場所になります。

2007年度頃より黒柳誠氏が卒業学校で講和を開始し、2014年度より現在の形となっています。2015年度は20校弱で開催を予定しています（中学校職場体験としては約5校）。現在、対象は小学校6年生や高校生、先生に広がっており、インターンシップ先の紹介も行っています。

今後、不登校生が単位を取得できる仕組みや浜松版キッザニアを開催していくことを目標としています。一方、現在8人のボランティアで運営し、講師は紹介を中心に約250人在籍していますが、さらなる需要拡大に対応していくためには、費用面への手当を含め、組織的な運営が課題のことです。

キッズまちなか探検隊

主催：浜松まちなかにぎわい協議会

浜松まちなかマネジメント株式会社

開催：2014年7月19日(土)～8月31日(日)

浜松まちなかにぎわい協議会が、次世代を担う感受性が豊かな子供たちに職業体験を行うことで、仕事に対する興味や関心を子供のうちから持ち、自分の将来について考えるきっかけとともに、これらの体験をまちなかで行うことで、まちなかでの楽しい思い出として記憶に留まらせることによって、子供たちが将来大人になつた後も家族や子供を連れて、まちなかに戻って来る好循環を目指すことを目的に2010年度より毎年開催しています。

小学生を対象に浜松市内企業の職業体験や講座、見学を行います。2015年度は応募人数1,635人に対し参加人数447人、参加企業は13社・4団体と大規模な職業体験イベントとなっています。



(図-5) 未来授業チラシ



(図-6) まちなか探検隊チラシ

以上を踏まえると、浜松市経済界におけるキャリア教育の現状としては、浜松市内企業の魅力を発信することにより将来、浜松を支える人材を育成したいという強い思いがあります。但し、主催者のボランティアによる部分が大きく、体系的で多様なキャリア教育を提供していく仕組み構築が求められています。

他県・他市の経済界の取組み

一方で、他の地域ではどのような取組みがされているのでしょうか。序章にて紹介しましたが、県内幸福度や学力レベルが高く、特に出身地人口10万人あたり社長数全国第一位の福井県のキャリア教育の取り組みについて現地調査しました。調査結果は以下のとおりです。

アントレ・キッズ

主催：福井商工会議所青年部

開催：年中（隨時）

福井商工会議所青年部では、会員自らが、自分の職業・職種を紹介し、また体験する機会を提供し、仕事の厳しさ、働くことの素晴らしさ、物づくり・サービス業の面白さを伝えることで、子供たちに将来の仕事に対する夢の幅を広げ、更に日本（福井）を支える人材育成を図ることを目的として2005年より開催しています。

小学校4～6年生及び中学校1年生とその父兄を対象とした体験型教室、小中学校、PTA、育成会で子供を中心とした体験型教室を行っています。2006年には小学校や市教組教育研究集会分科会、年1回の大規模イベント「えきまえアントレ・キッズ2014」の計8回開催しています。

なお、参加企業は、ボランティアだけの社会貢献活動ではなく、企業が信頼、安心という利益を得るために社会投資活動と捉えていることです。また、2007年には文部科学大臣表彰を受賞、2012年には経済産業省主催「第2回キャリア教育アワード」において「大賞」「最優秀賞」を受賞するなど、対外的にも高い評価を受けています。



(図-7) アントレキッズポスター



(写真-1) 福井 YEG “アントレキッズ”調査

さばえ こども商店街 aKInD's

主催：鯖江市古町商店会

開催：2016年8月9日(土)

鯖江市古町商店会では、子供たちに仕事の楽しさと大変さ、ありがたさを実感してもらうとともに、地域の様々な人々とふれあうことで、豊かな社会性や感性を育み、地域とのあたたかいつながりを作ることを目的として2014年に開催しました。

小学校4～6年生3人で1チームの計6チームが、商店主らによる商売のレクチャー、店舗見学、出店計画、準備、仕入れ、出店販売、決算までを体験しました。



(図-8) さばえこども商店街ポスター

福井市教育委員会及び鯖江市でも現地調査を行いましたが、福井県でのキャリア教育を含む人材育成の取り組みでは、前述の浜松市経済界での現状と合致しますが、福井県においては浜松市よりも「郷土を知り、郷土愛を育む」ことに重点をおいてキャリア教育を行っている印象を強く持ちました。

企業はキャリア教育についてどう考えているのか

浜松市内の企業はキャリア教育についてどのように捉え、考えているのでしょうか。現状把握を行うため、2015年11月に浜松商工会議所青年部会員に対しアンケート（資料1-1）を行うとともに、2014年静岡新聞からキャリア教育関連イベント実施状況の調査を行いました。

(図-9) (資料1-4) 概要は以下のとおりです。詳細は巻末資料を参照して下さい。

「子供たちへの職=仕事に関する教育・体験」アンケート結果

- ① 浜松商工会議所青年部会員企業のうち約1/3がなんらかの形でキャリア教育に携わっています。また携わっていない企業を含めキャリア教育への協力要請があれば、約1/2が協力の意思があります。どのように協力すればよいかわからないが、協力方法を教えてくれれば協力を検討する企業を含めれば、最大約3/4の企業がキャリア教育に携わる可能性があります。
- ② 浜松商工会議所青年部は多種多様な業種及び規模の企業が会員であるため、あらゆる多様なキャリア教育を提供できる可能性があります。希望する受入人数・予算は、小規模・低予算の回答が多いです。

2014年静岡新聞掲載キャリア教育関連イベント実施状況

2014年静岡新聞に掲載された浜松市内年間キャリア教育関連イベントは計76回、参加人数の累計は約19,000人でした。

浜松市内小中学校の1学年の生徒数は約7,000~7,500人いるため、単純計算した場合、約3人に1人の割合でなんらかの形のキャリア教育関連イベントに参加していることとなります。

【参考】浜松市内小学校数100校（2015年4月1日現在）

1年生7,259人、2年生7,401人、3年生7,319人

4年生7,038人、5年生7,286人、6年生7,441人（2015年5月1日現在）

浜松市内中学校数49校（2015年4月1日現在）

1年生7,053人、2年生7,020人、3年生7,003人（2015年5月1日現在）

イベント名	主催団体	会場	登録者数			対象	開催日（開催回）	場所（会場）	主な内容
			登録者数	登録者数	登録者数				
今カタマーク	天竜T-Sカレの会	1会	50人	大人から子供（有料）	1/25	天竜新町会センター	天竜山麓でT-Sカレの会が地元住民と開催工芸発売		
110周年記念	天竜警察署	1回目	21人	少子・少	1/10	二条小学校	警察署が地元で110周年記念の特別講話		
お祭り実習	地方検察庁天竜支署	1回目	106人	少子・少	1/23	二条小学校	検察官が地元の小学校で職業紹介会を行ふ		
からなで工作隊	アフロチーム	1会	67人	少子・少	1/29	電通寺小学校	からなで工作。そのかびの魅力を学ぶ		
キズナリソーシングネス	浜松市教育委員会	元崎トモ	30人	少子・少	2/23	サザンイースト	エコ製品会社が商品作成販売で、地域商店で販売を呼び、販売の仕事や販賣の仕事		
子供向け体験ワークショップ	アートスクオリプロジェクト	文喜大学院 山口昌子氏	30人	児童	3/3	二条小学校	体験便りによる体験 あわじひばりアートプロジェクトデリバリー事業の一環として開催		
エコクリギング	中部ぐるみ創造館	中部ぐるみ	1社	70人	少子・少	3/13	東小学校	エコクリーニング遊び 五感で子供たち	
こども未来大学	教育事務所 北洋総合研究所		14人	少子・少	3/20	小学校	市民の創造力アワード会		
サンクチュアリプロジェクト講座	グランシティ	光風園創成ヶ谷大学院 田淵尚氏	5人	少子・少	3/23	平沼小学校	子の心のやさしく、料理への興味を持ってもらうことを目的に講話を教える		
静岡新聞連携企画の講座	静岡新聞		140人	少子・少	4/15	城南小学校	新聞社が地元の仕事を学び経営進行の成績につける講座		
お祭り用工作	花立小学校		8人	少子・少	4/24	南小学校	組手活動の一環として、職業体験		
ユカリコ小学校	浜松市立ユカリコ小学校		135人	少子・少	4/20	浜松料亭	浜松の名店を、町内会が訪問して、職業体験		
ガーベラ生産の種苗育成	JACひがい		157人	少子・少	5/3	西区こじらわ	ガーベラ生産について講話と体験		
クリッピング展覧	浜松市文化財部	NPO子供に音楽を	109人	少子・少	5/9	香寺小学校	江戸川乱歩による愛蔵の本		
福の世界展覧	天竜厚生会	水澤中学校	11人	中少・中少	5/9	天竜生活研究センター	津貫地区での開拓や栽培		
よこしの里の物語	豊島小学校		114人	少子・少	5/14	御前小学校	豊北東大河原地区の人材育成		
百周年記念	JACひがい		108人	少子・少	5/16	島子小学校	役者体験		
VANカラーリング展覧	浜松料亭		74人	少子・少	5/23	児寺小学校	合唱 フルーティグ、ごて紹介体験		
おもしろミニature展覧	浜松料亭	おもしろミニature	18人	少子・少	5/28	浜松料亭	モモのひみつと職業		
雨の美術研究会	上賀茂小学校		23人	少子・少	6/5	鷹の巣	雨の衣装、シャツ/ガーメント		
夢力講演会	開成町小学校、農校		1,100人	中少・中少	6/6	開成町小学校、農校	元看護師サバンナ・内藤氏による講話		
今井伊勢新田講座	今井伊勢新田	今井伊勢新田	21人	中少・中少	6/6	今井伊勢新田	今井伊勢新田セミナー開催		

(図-9) 静岡新聞掲載キャリア教育関連イベント実施調査 (資料1-4)

ここまで調査結果から、浜松市経済界はキャリア教育に対して肯定的であり、かつ積極的に自主的なイベントを開催し取り組んでいることがわかりました。しかしながらそれぞれが、単発的なイベントとして開催されていて、教育委員会をはじめとした行政等で一元的な管理や体系的な計画は行われていないのが現状であります。

浜松市のキャリア教育が抱える課題

以上のことから、現在浜松市のキャリア教育が抱える課題は、以下の7点であると考えられます。

- ①教科学習のように習得すべき目標と体系的な教育計画がない。
- ②全ての子供たちへ機会を均等に与えていない。
- ③教師は職業の専門家ではないため、学校だけでは対応しきれない。
- ④子供たちの社会的・職業的自立につながっていない。
- ⑤企業が求めている能力向上にはつながっていない。
- ⑥職業観を醸成することにより、夢と現実のギャップを埋め、職業への誇りを持ち、離職率低下へつながっていない。
- ⑦Uターンの増加など地元経済界への人材供給に結び付いていない。

キャリア教育のあるべき姿

そこで私たちは、この課題を解決するために「キャリア教育のあるべき姿」として、以下の定義付けを行いました。

学校、家庭、企業をはじめとした地域社会ぐるみによる 体系的で多様なキャリア教育の構築及び実行

そして、体系的で多様なキャリア教育を通じ、職業観を醸成した子供たちが、

①夢の実現のために将来浜松を出て、日本全国そして世界で活躍しつつも、いつか地元貢献のために浜松へUターンし、浜松で活躍する（または気概を持つ）

または、

②夢の実現と地元貢献のために浜松で活躍する（結果として浜松にいながら日本全国そして世界で活躍する）

ことを目標とします。

同時に浜松市内企業は、社会貢献活動だけではなく、自社の強み・誇り再認識、自己啓発、次世代顧客や担い手の獲得等将来への投資活動につなげていきます。

具体的な施策「職バーチャル・スタジオ・はままつ」

私たちは「あるべき姿」を実現するために、以下の施策を提唱します。

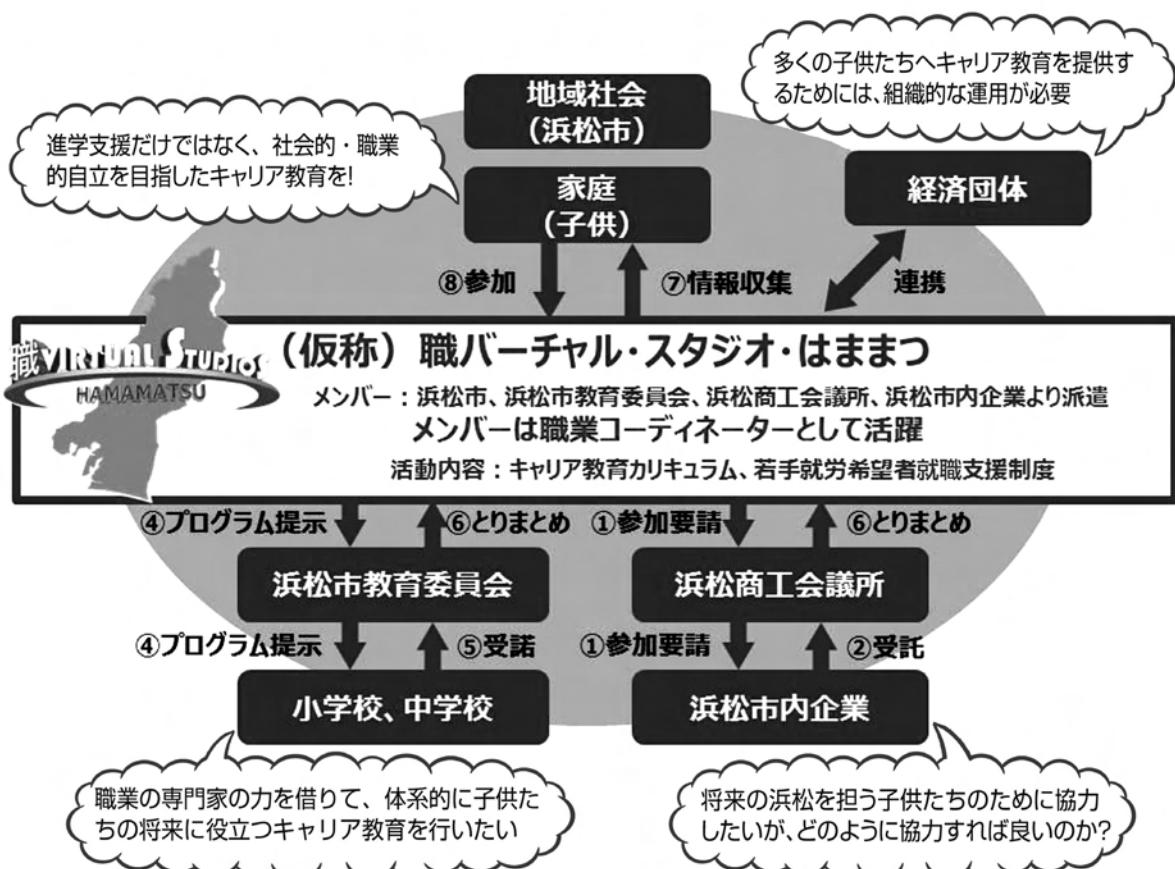
①浜松市主導により「浜松人づくりネットワークセンター＝（仮称）職バーチャル・スタジオ・はままつ」を開設します。

②メンバーは、浜松市、浜松市教育委員会、浜松商工会議所、浜松市内企業より派遣します。派遣されたメンバーは、職業コーディネーターとして活動します。

③活動内容は、教育界と経済界、地域社会の橋渡しを行いながら、キャリア教育カリキュラムをはじめとしたメニューを提供します。

④団体運営財源は浜松市、提供メニュー実施財源は企業とします。

浜松市産業盛ん⇒様々な職業⇒キャリア教育なら浜松市



（図－10）提言1全体像イメージ

提供メニューは3種類

「浜松人づくりネットワークセンター＝（仮称）職バーチャル・スタジオ・はままつ」における、提供メニューは次の3つであり、以下にそれぞれの概要について説明します。

小学生キャリア教育カリキュラム

目標：あらゆる職業体験を行い、自分が将来なりたい職業の夢を膨らませます。

期間：夏休み

場所：浜松市内公共スペース、企業各事業所・
店舗等でまち全体を会場に

参加者：浜松市内小学校4～6年生必須、それ
以外の地域や学年は任意

内容：

- ・全てのメニューから好きな職業体験を選択する
カフェテリア形式とします。
- ・科目に紐付けた職業体験一覧表（図－11、12）
(資料1-2、1-3)を配布することにより、

科目	職業
国語	・教員・作家・作詞家
社会	・運転士・運転手 ・鉄道、運輸関係・パイロット
算数	・建築家・ゲームクリエーター
理科	・医師・研究者・宇宙飛行士 ・花屋・薬剤師・獣医師
図画工作	・大工・技術者・アニメキャラクター ・おもちゃ屋・デザイナー
家庭科	・ケーキ屋・パン屋 ・調理師・美容師
体育	・スポーツ選手・消防、レスキュー隊
音楽	・歌手・作曲家

（図－11）科目別職業選択一覧（資料1-2）

将来なりたい職業に向けた勉強の動機づけや得意科目から将来なりたい職業を考える一助とします。

- ・小学校4～6年生の3年間でスタンプラリーを行い、自分自身の関心の移り変わりを見ながら、将来なりたい職業を考える一助とします。
- ・参加企業は一社単独での参加ではなく、浜松商工会議所部会や業界団体、職種ごとにチームを組むことにより、企業規模の大小に関係なく参加しやすくするとともに、企業間のコミュニケーションを活発化させます。
- ・小学校キャリア教育カリキュラムを卒業した中学生が、ボランティアとして参加します。

中学生キャリア教育カリキュラム

目標：将来なりたい職業に就くためのキャリアプランを策定します。

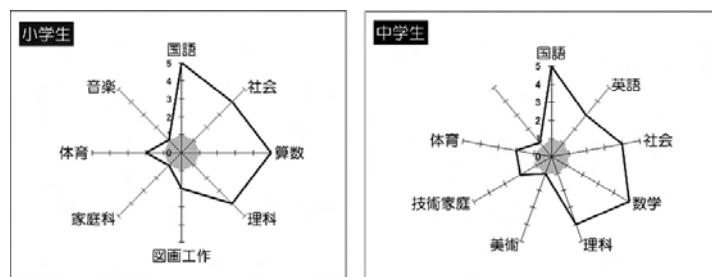
期間：年中

場所：浜松市内企業各事業所・店舗等

参加者：浜松市内中学校1～2年生必須

内容：

- ・全てのメニューから好きな職業体験を選択するカフェテリア形式とします。
- ・科目に紐付けた職業体験一覧表（図-11、12）（資料1-2、1-3）を配布することにより、将来なりたい職業に向けた勉強の動機づけや得意科目から将来なりたい職業を考える一助とします。
- ・職業体験終了後、職業コーディネーターの支援の下、将来なりたい職業に就くためのキャリアプランを作成し、発表会を行います。



（図-12）職業選択重要科目一覧表（資料1-3）

若手就労希望者就職支援制度

目標：手に職をつけたい中学生を中心に将来なりたい職業と企業が求めている人材とのギャップを解消し、スムーズに社会人として活躍できるようにします。中学校、高校卒業後進路が確定していない若者の受け入れも行います。そして、今まで中卒者と言われていた就労者の社会的地位の向上を目指します。

期間：一年間

場所：中学校及び浜松市内企業

参加者：浜松市内中学生

内容：

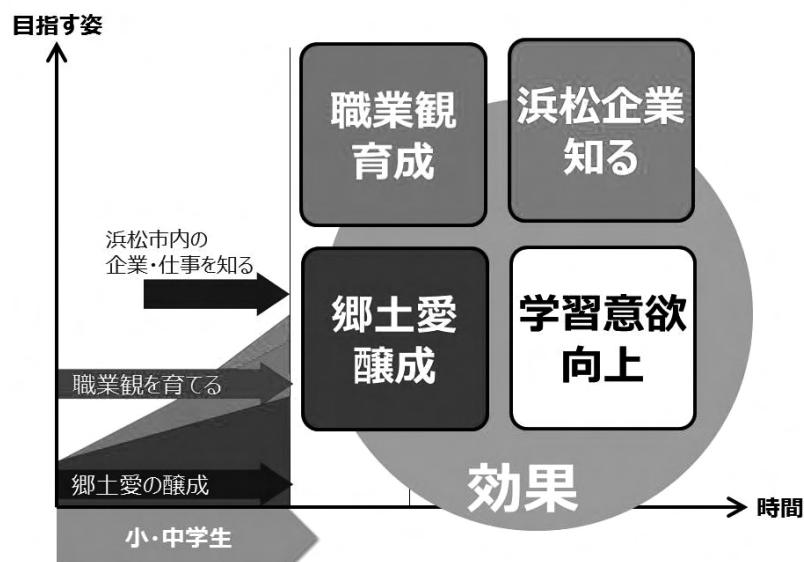
- ・職業コーディネーターが週一回、浜松市内中学校へ訪問し、性格や適性診断、学業成績、得意科目、本人及び保護者の希望をヒアリングし、進路へのアドバイスを行ないます。また、定期的に地元企業中心に求人を紹介します。
- ・イベントして、職業見本市や一日職業体験研修を開催します。
- ・希望する職業及び受け入れ先企業が決定後、総合時間や希望する職業に直結する授業時間、夏休み・冬休みを利用し、週2～3日程度職業訓練を行います。

- ・企業に対しては職業見本市や一日職業体験研修、職業訓練受け入れを常時募集します。

時期	中学生	企業
5月		職業見本市開催
6月		一日職業体験研修
7月	希望企業へ履歴書送付 ⇒ 受入可否決定	
8月	夏季休暇を活用した職業訓練	
9月以降	総合時間を活用した職業訓練 ↓ 中学生・企業双方希望すれば、就職先として決定	

キャリア教育ならば浜松→「郷土愛」「職業観」

浜松市は産業が盛んである分だけさまざまな職業があり、多様なキャリア教育を提供できる可能性を秘めています。この組織を通じて学校、家庭、企業をはじめとしたオール浜松で「キャリア教育ならば浜松」と言われるくらいキャリア教育を充実させていくべきと考えます。「キャリア教育ならば浜松」の実現によって、子どもたちは浜松市への郷土愛、職業観を醸成し、学習意欲を向上させ、将来の浜松市を担う人材になることだと思います。



提言 2

高校生が主役のまちづくりを ～浜松市高校生連盟(仮)プロジェクト～

「浜松市高校生連盟(仮)」を設立。

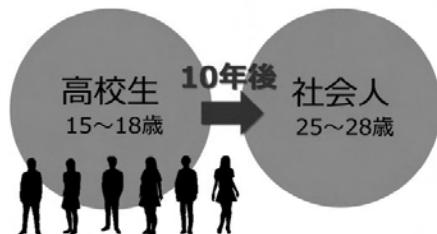
高校生たちに
浜松市の魅力・企業を知る機会を提供する
高校生たちが意見・考えを発信できる機会を提供する

【活動内容】

- (活動 1) スマートフォンアプリの開発・運用（情報発信）
- (活動 2) イベント企画運営
- (活動 3) 高校生たちの意識調査

10年後、浜松を担う高校生たちは今。

現在の浜松市の年齢別人口分布図（序章：図－6）をみると、18歳から24歳の年齢が急激に減少しています。これは高校卒業後に彼らの多くが浜松市を離れて行くということを表しています。高校生たちは、“10年後”という近い将来に浜松市を元気にする役割を果たす若い世代の予備軍であり、彼らが浜松市を離れたまま戻ってこない「若者たちの浜松離れ」は、浜松市が現在抱える大きな課題であります。そこで私たちは、この「若者たちの浜松離れ」がどうして起きてしまうのかを調べ、そのためには具体的にどうしたら良いかという方法を検討しました。



(図－1) 高校生たちの10年後

進学校6校の高校2年生2102名へアンケート実施

「若者たちの浜松離れ」は深刻な問題になっています。高校生たちはどうして浜松市を離れて行くのでしょうか？そんな課題に対し、日夜議論を重ねてみましたが、「高校生たちは○○だろう。」「きっと□□□にちがいない。」といった憶測が飛び交うばかりで、

「大人だけで考えていても高校生の本当の気持ちや考えは分からない」という結論に達しました。そもそも今の高校生たちは何を思い、考えるのか？どんな価値観を持っているのだろうか？私たちの高校生の時の価値観と同じであるのか？

その答えを導き出すために、今の高校生たちがどのような価値観や心的傾向をもって浜松市について考えているのかを調査するアンケートを実施しました。（資料2－1）

アンケートは、高校卒業後多数が進学すると思われる、浜松市内進学校6校の高校2年生（2102名）を対象としました。



(写真－1) アンケート2102枚

アンケート概要	
協力して下さった高校	静岡県立浜松北高等学校、浜松西高等学校、浜松南高等学校 浜松市立浜松市立高等学校 学校法人日本体育大学浜松日体高等学校 学校法人信愛学園浜松学芸高等学校
対象学年	高校2年生
実施時期	2015年9月1日～18日
方 式	無記名、選択式（一部コメント記載あり）

さらに、高校生たちの生の声を聞くために…

アンケートのデータを集計分析することで問題点が浮き彫りとなつたため、そこからさらに深掘りするためには、高校生グループミーティングを行いました。（資料2-2）

高校生グループミーティングはアンケートに協力してくれた浜松市内進学校6校から立候補・学校推薦などにより計18名の生徒が参加し、活発な意見交換を行うことができました。



（写真-2）高校生グループミーティング

グループミーティング開催概要	
参加対象	アンケート協力高校の生徒（高校2年生）
参加人数	高校生18名 青年部会員15名
開催日時	2015年10月24日（土）
会 場	遠州鉄道（株）新館13階会議室
形 式	1チーム高校生4～5名+青年部会員（ファシリテーター役） テーマごとの意見交換 最後に各チーム毎の代表意見を発表

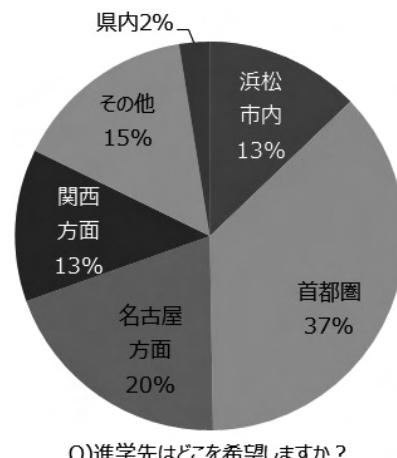
アンケート&グループミーティングから分かった 高校生たちの生の声

アンケート及びグループミーティングの分析結果から浜松市内の高校2年生たちが何を考えて県外に進学して行くのか等、現在の傾向や課題が浮き彫りになりました。

高校生たちは大都会に憧れている

アンケート結果から、99%の生徒が卒業後の進学し、その進学先の85%が県外であることが分かりました。また、進学先だけでなく就職先についても大都市圏を希望する生徒が多くあることから、グループミーティングにてその理由をヒアリングすると

- ・浜松市にはレベルの合う大学がないから
- ・一度は都会に行ってみたい
- ・都会はオシャレなイメージだから



という回答が主な意見であり、漠然とした大都会への憧れが強いということが分かりました。

高校生たちは「いつかは浜松に住みたい」

と思っている。しかし・・・

「将来浜松に住みたいと思うか？」の質問に対して、「住みたいと思う」が 66%と多く、一旦は進学や就職で浜松市を離れるが、将来は浜松市に戻ってきたいと考えています。

さらに「住みたいと思う」と回答した人に対し「いつ住みたいか？」と質問すると、高校卒業後 10%、大学卒業後 46%、転職・独立後 20%、退職後・老後が 24%であり、大学卒業後に U ターン就職をして浜松市に住もうと考えている生徒の割合が低いことがわかりました。

そこでアンケート、グループミーティングを通じて「どうしたら浜松に住みたいと思うか？」とヒアリングすると

- ・浜松には遊ぶところがない
→大人向けスポーツ施設、ファッショビル、
強いスポーツチームなどが欲しい

というように娯楽を求める意見が多く出されました。

その一方で

- ・教育・育児の充実
- ・保育園の受け入れ
- ・育児の助成金制度の充実 など

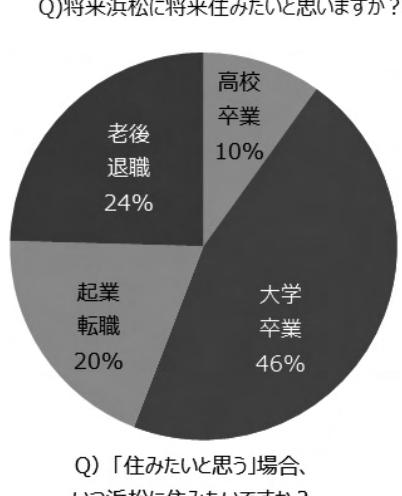
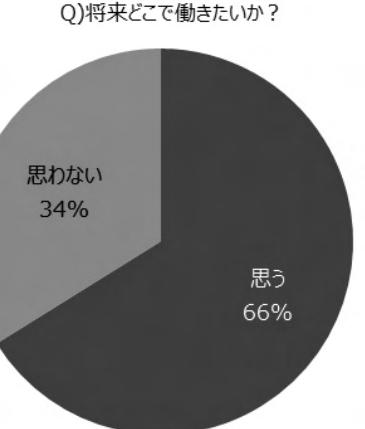
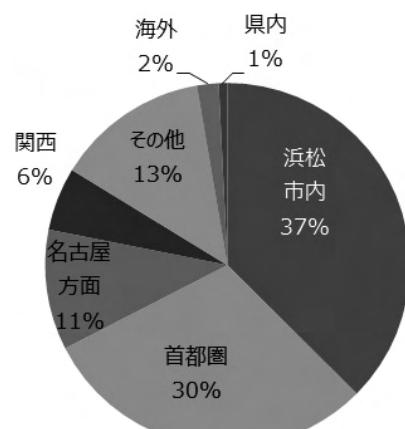
自分が家族を持った際に、「子育てがしやすい環境であれば浜松を選ぶ」という意見もありました。その他には

- ・浜松は注目されてない
・知名度など浜松に住んでいるというステータスのようなものが欲しい

という街のイメージアップを望む意見もありました。

さらにグループミーティングを通じて高校生たちに「浜松の魅力は?」「浜松の良い所は?」と質問したところ、意見はあまり出てきませんでした。このグループミーティングを通して、高校生たちは、テレビやインターネットを通じた大都会の情報が多く、浜松の情報にふれる機会が少なく、

「高校生たちは浜松市の魅力を知る機会が少ない」ということが分かりました。



高校生たちは浜松市の企業を知らない

「将来どこで働きたいか？」との質問に対し 37%が浜松市への就職を希望しています。そこで浜松市への就職を希望した人に対し「どんな職業に就きたいか？」と質問したところ、なんと半数に近い 46%が「公務員」を希望し、浜松市の約 9 割を占める「中小企業」を希望する高校生は 8 % にとどまりました。これは浜松市への就職希望者だけを対象とした数値であり、全体的では約 3 % しか「中小企業」への就職を希望していないことになります。

どうして浜松市の就職希望が少なく、中小企業への就職は人気がないのでしょうか？

グループミーティングでこの要因を探ってみると、

- ・浜松市には大企業がないので活躍できない
- ・中小企業はブラック企業が多いのではないか
- ・中小企業は福利厚生が悪いのではないか
- ・中小企業は給与条件が悪いのではないか
- ・中小企業は雇用が不安定のではないか

といった意見が挙げられました。さらに、この意見の根拠について高校生たちに尋ねると、そういった「イメージ」や「インターネットで見た気がする」といった、合理性に欠ける回答でした。地域企業や浜松市のまちづくりに対し、どのように情報を取り入れているのか、高校生に聞き聞いてみても、大半が「知らない」「わからない」という回答ばかりでした。このことから、

「高校生たちは浜松市の企業を知る機会が少ない」ということが分かりました。

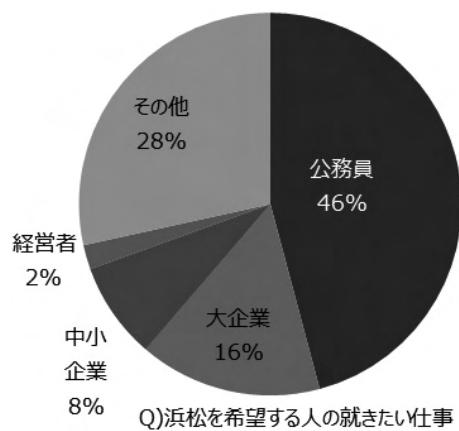
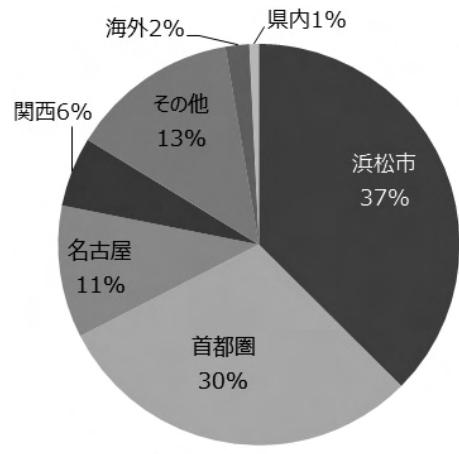
高校生たちは自分たちの考え方・意見を発信したがっている

アンケートのコメント欄には多くの高校生たちの意見が書き込まれました。またグループミーティングでは、高校生たちは青年経済人たちとのディスカッションの機会を得られたことを喜び、彼らが常日頃感じていることや考えていることを私たちに率直にぶつけてくれました。

このグループミーティングを通じ、「**高校生の考え方・意見を発信する機会がない**」ことで、彼らが住みたい、暮らしたいと考える浜松市ではないと考えているということが分かりました。

つまり彼らの多くは

浜松市の良さを知らないまま浜松市を離れ進学・就職していくのです。



2つの「機会」が必要

以上のアンケート及びグループミーティングから、私たちは浜松市内の高校生たちには次の2つの機会が必要であると考えました。

- ・浜松の魅力や企業を知る機会
- ・高校生たちが意見を発信する機会

他の地域ではどのような取組みをしているのか

私たちは高校生たちにこのような「機会」を提供するために、他の地域での取り組みについて調査研究を進めました。

その中で、福井県鯖江市が「JK課」という組織を作り、「女子高生によるゆるいまちづくり」というキヤッチフレーズの下、女子高生たちにまちづくりに参加する機会を提供している事を知り、鯖江市に視察調査に伺い、取組みについて調査することにしました。(資料2-3)



(図-2) 鯖江市 JK 課ホームページ <http://sabae-jk.jp/>

福井県鯖江市 JK 課（概要）

- ・「JK」は女子高生の略語です。
- ・「JK課」とは市役所内の正式な部署ということではなく、あくまでもプロジェクト名ですが、「市民を巻き込んだまちづくり活動」として全国的に注目を集めています。
- ・鯖江市長による「女子高生に大人たちを変えてもらいたい」という発言からJK課を発足しました。
- ・構成…賛同する女子高生が集まります。
- ・活動内容…自分たちですべてのことを決め、取り組んでいきます。
- ・成果の一つにスマートフォンアプリ「s a b o t a」があります。
このアプリは図書館の混雑状況を確認することができます。
自分や友人たちが勉強をするために図書館へ行くが、座る場所の確保に困っている。という課題を解決するために、市内のソフトウェア開発会社にアプローチして実現しました。

この鯖江市JK課の取組みのように、高校生たちが自主性を持ってまちづくりに参加し、情報発信をする機会が浜松市にも必要ではないでしょうか。

また浜松市においては、鯖江市が目指す「ゆるい」まちづくりへの参加ではなく「真剣（ガチ）」なまちづくりへの参加や意見発信の機会を、多くの高校生たちが求めていることを、今回のアンケートやグループミーティングを通じて知ることができました。



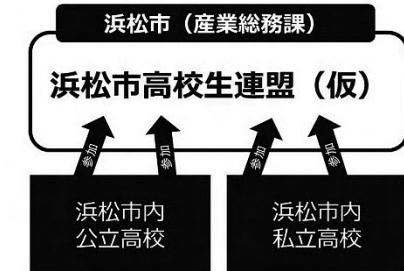
(写真－3) 鯖江市市民協同課への視察調査

高校生たちに「機会」を

そこで私たちは、浜松市内の高校生たちが

- ・高校生の目線から
- ・浜松市の魅力をみつけ
- ・将来自分たちが住みたい浜松像を描く

そのような機会を提供できる場として



(図－3) 浜松市高校生連盟 組織イメージ

「浜松市高校生連盟（仮）」の設立を提言いたします。

浜松市高校生連盟（仮） 概要	
目的	浜松市民である高校生が学校の垣根を超えて集まり、 独自の発想を持ち、自主的に考え行動する組織。 行政・企業・高校生をつなぐパイプ役を期待。
成果	浜松市内の高校生たちに 「浜松市の魅力・企業を知る機会」を提供する。 「意見を発信する機会」を提供する。
主体	浜松市産業総務部 等
対象	浜松市内の公立・市立高校から目的を理解したうえで2名選出 (生徒会、学校推薦、立候補など各校での選出に任せる)

主な活動内容は以下の3つを基本とします。

(活動1) スマートフォンアプリの開発・運用（情報発信）

(活動2) イベント企画運営

(活動3) 高校生たちの意識調査

(活動1) スマートフォンアプリの開発・運用（情報発信）

まずは浜松市高校生連盟（仮）によるオリジナルアプリ「ハマコレ」を開発します。

そして浜松市内のスマートフォンを持つ高校生全員がインストールしたくなるようなサービス、コンテンツを提供します。

（目的）

高校生たちの目線から浜松市の魅力をみつけ、浜松市のことを探るために、情報収集、情報発信できる機会を提供します。

（サービス内容）

①各学校の時間割・お知らせ情報（学校側から発信）

②浜松市情報の発信

「まち情報」取材→発信

- ・浜松のいい所を（新しいお店、人気スポット最新情報等）

高校生目線で発掘・取材して発信する

→高校生に人気スポットになって活性化。

「浜松市内の企業情報」取材→発信

- ・高校生が知りたい企業の情報を取材

- ・上記情報を検索閲覧ができる

→現役高校生は進学前に、浜松市のこの企業に入りたい

と目標を持つことで進学進路、学部を高校生のうちに明確にできる。

- ・浜松市以外に進学し就職活動を大都市で考えている学生には、故郷である浜松市の企業情報が入ってくることで、浜松市の企業が就職の選択肢になる。

→Uターン就職率アップにつながる。

③行政・企業からのサービス・情報提供

- ・高校生対象のクーポン券発行

- ・イベント情報提供

- ・企業側からの情報発信

（自社の魅力紹介・求める人材について等）

- ・行政からの情報発信

後述（提言3、提言4）のPR活動に活用

④SNS運動

（TwitterやInstagram等とハッシュタグ#hamacolleで連動して情報共有）

⑤後述（活動3）意識調査実施

オリジナルアプリを開発



（図-4）オリジナルアプリイメージ



（図-5）アプリ画面イメージ



（図-6）企業クーポンイメージ

この「ハマコレ」を活用することで以下の効果を期待します。

- ・取材を通じ浜松市の魅力・企業を知る機会を得る。
- ・高校生たちが情報発信の機会を得る。

(活動2) イベント企画運営

浜松市高校生連盟（仮）は、以下の視点を大切にしたイベントを企画し開催・運営します。

- ①高校生たちが興味があるもの
 - ②大人たちには理解することが「できない」又は「難しい」もの
- （例）アニメオタク文化“コミケ浜松”開催・“フェス”・“泡パーティ”など。



（写真－4）コミケ風景

これによって浜松市高校生連盟（仮）は高校生目線で「浜松市を元気にする」「浜松市を自分たちの住みたい街にする」方法を提案し、実施します。

このイベント企画運営により以下の効果を期待します。

- ・高校生たちが価値観や考え方を発信する機会を得る。
- ・高校生たちがイベントを企画・運営するという経験を得る。
- ・大人たちが「高校生の求めているモノ」を知る機会を得る。
- ・大人たちと高校生たちが交流する機会を得る。

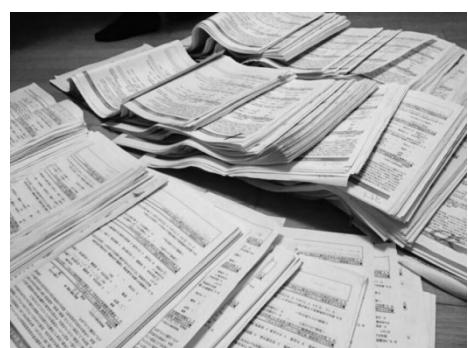


（写真－5）フェス風景

(活動3) 高校生たちの意識調査

今回私たちは高校生へのアンケートを実施し、高校生たちのリアルな価値観を知ることで、現在進行している浜松市的人口減少、若者世代の流出の一因を知ることができました。

今回はアンケート用紙を2000枚超配布するアナログ形式でアンケート調査を行いましたが、今後は（活動1）のアプリ「ハマコレ」を活用したWEB形式のアンケート調査を行うことができるようになります。このアンケートをベースにグループミーティングも定期的に開催し高校生たちの意見を収集します。



（写真－6）アンケートイメージ

この意識調査を通じて以下の効果を期待します。

- ・高校生たちの意識を定点観測することで、現在行っている施策の効果を測定することができる
- ・グループミーティングを通じ課題の深堀りが出来る
- ・高校生たちは自分たちの意見や考えを発信する機会を得る
- ・大人たちが高校生たちの意見を積極的に聞くことができる



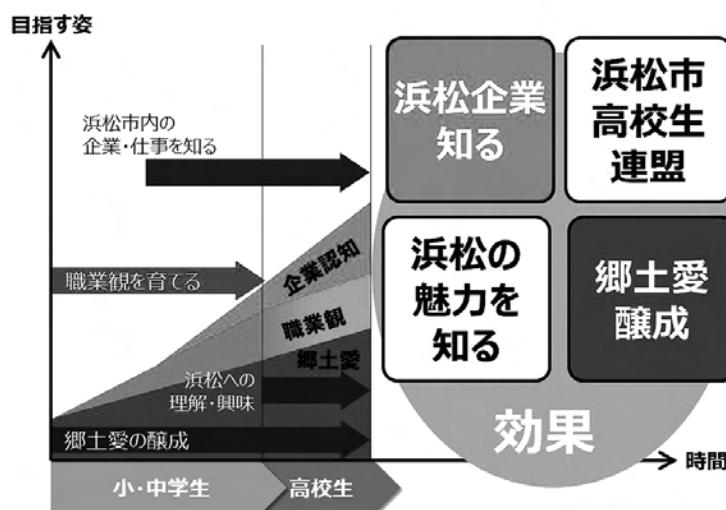
(図-7) アプリ画面イメージ

浜松市高校生連盟（仮）その先に…

今回私たちが実施したアンケート及びグループミーティングで浮き彫りになった高校生たちの「浜松の魅力や企業を知る機会」不足と「意見を発信する機会」不足という2つの課題に対し、浜松市高校生連盟（仮）が果たす役割と効果は大きいと考えます。

高校生が親しみやすい「アプリ」や「イベント」というツールを用いることで、高校生たちが抵抗感なく「浜松市の魅力を知り」「浜松市の企業を知り」そして自然な姿で「情報発信をする」ことが出来るようになります。

これにより、より浜松への郷土愛が醸成されるとともに、浜松市の企業の魅力や事業内容を知ることで、大学進学後に訪れる就職活動の際に、「浜松市に戻って働きたい」と考えるようになるのではないでしょうか。



(図-8) 提言2の効果イメージ

提言 3

全国の大学生。浜松に注目!

～浜松やらまいか学生プランコンテスト～

「浜松やらまいか学生プランコンテスト」を開催。

運営主体として「浜松やらまいか学生プランコンテスト運営実行委員会」を新設し、企業・団体・行政がテーマ提供者となり、学生と共にプランを考えます。

【コンテストの概要】

- ①コンテストのテーマ（種）を募集、選定する。
- ②参加する学生を募集する。
- ③テーマと学生をマッチング（パートナーを決める）する。
- ④学生とテーマ提供者が協同してビジネスプランを作成する。
- ⑤コンテスト開催→審査→結果発表。
- ⑥事業化に向けて・・・

大学生に対するはたらきかけはどうなっているのか

高校を卒業した後に、その多くが浜松市を離れ全国各地に進学している中、浜松市は浜松市在住及び出身の大学生世代に対してどのような“はたらきかけ”を行っているだろうか。まずは現状を調べてみることにしました。

U・I・J ターン・地元就職支援

浜松市では今年度12月に「浜松市“やらまいか”総合戦略」を発表しました。大学生世代の卒業後のU・I・Jターン・地元就職支援政策・施策に関しては、これから取り組みとなっており、その基本目標は以下の様になっています。

U・I・J ターン・地元就職支援

- ・次代の地域産業を担う人材確保を目的とし、浜松市へのU・I・Jターン就職支援を行う。《産業部、学校教育部》
- ・大学などと連携し、地元企業の求める人材の育成を支援するとともに、地元就職率向上のための取り組みを支援する。《企画調整部、産業部》

重要業績評価指標(KPI=2019年)

COC+*への市内参加校卒業生の市内就職率

10ポイント以上向上

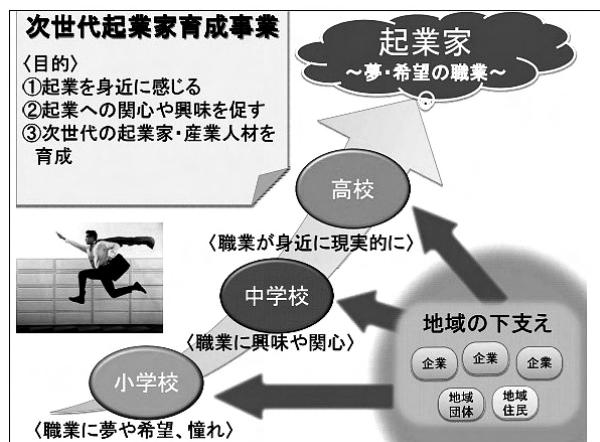
*COC+：文部科学省が所管する「地（知）の拠点大学による地方創成推進事業」静岡大学が申請し、認定された計画に本市は参加自治体として参画している。

平成27年12月「はままつ“やらまいか”総合戦略」より

浜松市次世代起業家育成事業

また、浜松市は平成14年度より「起業を身近に感じる」「起業への関心や興味を促す」「次世代の起業家・産業人材を育成」することを目的とした「次世代起業家育成事業」を実施しています。

当事業においては、小学5・6年生、中学生、高校生を対象に、起業家や経営者、熟練・優秀技能者を学校へ派遣し講義を行っています。



(図-1) 次世代起業家育成事業イメージ

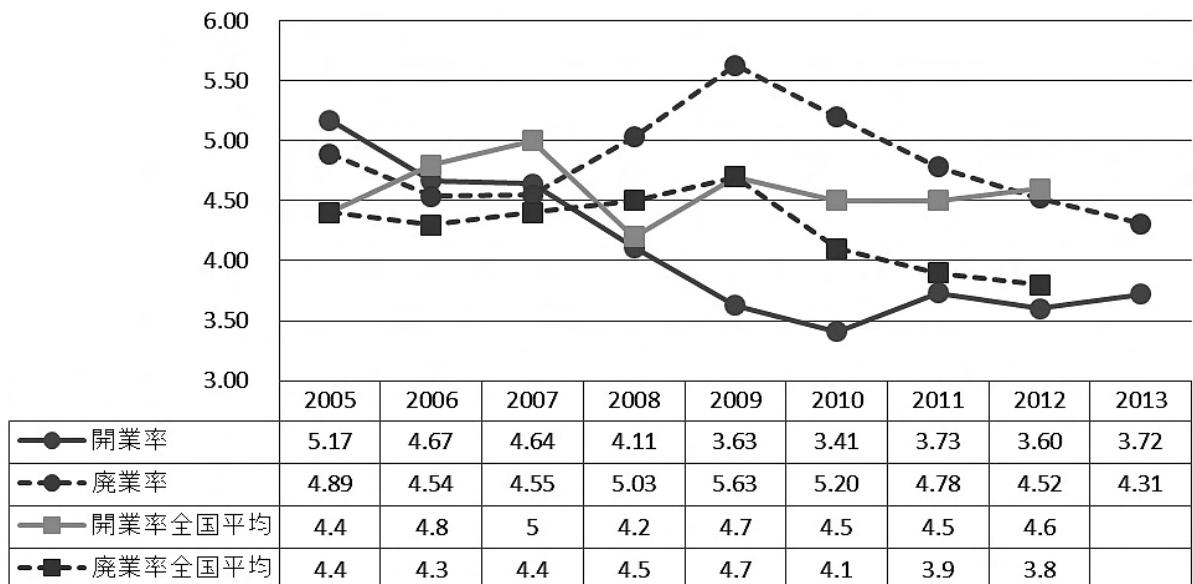
こうして起業意欲が育てられた起業家の卵が、もっと起業しやすい環境づくり（はままつスタートアップ体制）をするため、浜松市では創業支援施設「はままつ起業家カフェ」を設置しました。はままつ起業家カフェの業務は起業・創業の総合相談、創業希望者等への場の提供、創業セミナー、創業サロン等の開催を行っています。

はままつ起業家カフェの平成27年9月までの実績は、相談人数92人、起業実績13件と、大きな成果を挙げていることがうかがえます。

しかしながら浜松市全体では開業率が廃業率を下回り、開業率も全国平均を下回る状況が続いているのが現状であり、さらなる支援が必要です。（図-2）。



（写真-1）はままつ起業家カフェ



（図-2）浜松市の開廃業率（出典：浜松市及び中小企業庁 HP）

今回、はままつ起業家カフェにおいてヒアリングを行った結果（資料3-5）、はままつ起業家カフェにおける大学生の相談は0人であるという現状が分かりました。大学生、高校生世代の起業に関しては「学習、経験、資金的不足のため、支援を行っても起業に直結しにくい」という理由から支援事業も特には設けられていませんでした。

浜松市を元気にするためには若者世代の流入を増やし、その上で開業率を高めていく必要性があります。しかしながら、現在の施策においては大学生へアプローチがなされていないため、全国の大学生が「浜松市のこと」を知る機会もなく、ましてや「浜松市で起業しよう」とは考えないのではないでしょうか。

県外へ出ていった大学生が卒業後、浜松市に戻ってくる。そして、さらには、浜松市のことを見知らぬ全国の大学生に対しても、「浜松市で働きたい」「浜松市で起業したい」と思ってもらうためにも、起業意欲のある、優秀な大学生たちに対するアプローチが必要であると考えます。

大学生世代へのアプローチ方法



大学生世代へアプローチする手段として、まず最初に「浜松市に興味をもってもらう」「浜松市の魅力を知ってもらう」ための“キッカケづくり”が必要であると考えました。

その“キッカケづくり”として全国の事例を調べてみると、全国各地で「学生向けビジネスプランコンテスト」が多数実施されていることが分かりました。そこで私たちも「学生向けビジネスプランコンテスト」に着目し、その内容と効果について調査しました。

中小企業庁「平成23年度ビジネスプランコンテスト事例調査」によると、平成23年時点において、学生向けビジネスプランコンテストは全国で916件実施されています。

開催されているコンテストの内容・特徴を見ると、そのほとんどが「プラン内容を競う」までが多く、採択されたプランを実際に事業化・具現化まで行うコンテストの数は少ないことが分かりました。また、地元浜松市のコンテストにおいても事業化までされるものはありません。

現状のコンテストでは、参加した大学生はコンテスト主催者側から「プランのブラッシュアップ」や「スキルアップ」といったカリキュラム支援を受けることが出来ます。

学生ビジネスプランコンテスト特徴比較

	主催者	対象	参加費	テーマ	企業のサポート	ブラッシュアップ	スキルアップ	賞金	事業化
鯖江市地域活性化 プランコンテスト	鯖江市地域活性化 プランコンテスト 実行委員会	全国の大学生	無料	地域活性	無し	有り	有り	無し	有り
富山学生まちづくり コンペティション	富山商工会議所 青年部	学生	無料	地域活性	無し	有り	有り	無し	有り
静岡理工科大学高校生 ものづくりまちづくり プランコンテスト	静岡理工科大学 ・浜松市	高校生	無料	ビジネス	無し	有り	無し	3万円分 クオカード	無し
浜松ロータリー 浜松ビジネスの卵発掘 コンテスト	浜松ロータリークラブ	学生	無料	ビジネス	無し	無し	無し	20万円	無し
長浜高校生 ビジネスプランコンテスト	長浜商工会議所 青年部	高校生	無料	ビジネス	有り（資金）	有り	無し	無し	有り
高校生ビジネスプラン ・グランプリ	日本政策金融公庫	全国の高校生	無料	ビジネス	無し	無し	有り	20万円	無し

そこまで経験できれば一通りの「職業体験教育」としては価値があるのかもしれません。しかし、せっかく時間を費やしたアイデアを単に評価するだけで完結してしまうのだけでは、大学生たちの起業意欲は向上しないのではないでしょうか。

そこで私たちは、より多くの学生に「浜松市に興味を持ってもらう」「浜松市の魅力を知ってもらう」ためには、他のビジネスコンテストとの差別化を図る必要があると考えました。そこで全国的に学生を集めることに成功しているコンテスト事例について調査研究することにしました。

全国から学生を集めることに成功している事例

数ある学生向けビジネスプランコンテストの中でも、全国から大学生を集めることに成功している、福井県鯖江市の「鯖江市地域活性化プランコンテスト」に注目しました。実際に鯖江市に赴き、主催者からどのような内容でコンテストを開催し、成果をあげているのか聞き取り調査をした上でその特徴について分析してみました。



(写真－2) 鯖江市視察調査風景

鯖江市地域活性化プランコンテスト「市長をやりませんか?」

■概略

本気でこれから日本を背負うリーダーになりたい学生が、鯖江市の「地域活性とは何か」「鯖江をよくするために何が必要か」を市長の立場になって考え、プランをプレゼンテーションするコンテスト。過去のプランには実現したものもあり、実際に鯖江市の地域活性に貢献しています。毎年秋ごろ、2泊3日の合宿で学生がプランを考え、最終日のプレゼンテーションで審査を行っています。

■コンテストの詳細

運営主体：鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会

(学生団体 with、鯖江市商工政策課他)

時 期：毎年9月

開催場所：鯖江市内の寺院

応募期間：約1か月半

応募資格：自分の能力を開花させたい

日本のために何か大きなことをやりたい

明日の日本を背負うリーダーになりたいと思う日本的学生、大学院生

参 加 費：無料

定 員：最大24名（3名1チーム×8チーム）

■分析

平成27年度が第8回目の開催になり、鯖江市において定期的に開催される恒例のイベントになっています。応募に関する問い合わせ先が鯖江市商工政策課になっており、行政の関与度も深いことがうかがえます。

採択されたプランは、実際に企画、実施されていることが特徴的です。（例「さばえめがねギネス2011」など）その後も継続的に運営されています。また、参加した学生が、自分の住む地域に



(図－4) 鯖江市地域活性化プランコンテストHP

おいて、コンテストでの経験を活かして、別の地域で地域活性化プランコンテストを開催したケースもあります。

ここから推察すると、この「鯖江市地域活性化プランコンテスト」は、参加する学生にとっては、実現性の高いプランを考えるやりがいのあるコンテストになっていると言えます。

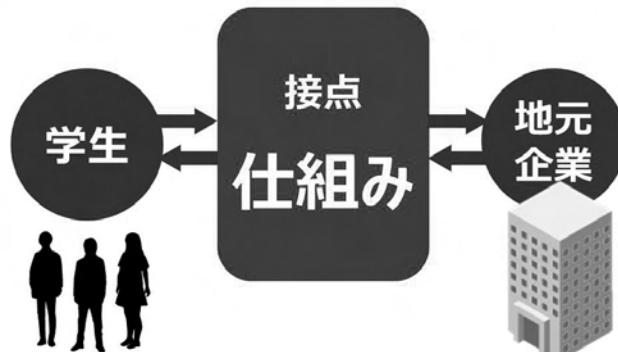
実際に参加した学生の声では、「本気を出せば本気で応えてくれる」という感想もあります。参加対象は日本全国の大学生、大学院生となっているため、現状鯖江市以外の出身者の参加が多い様です。しかし近年では、運営ボランティアスタッフとして参加する地元学生が増えており、受け入れ側からの関心・意識の向上が見られます。その結果、地元学生のコンテストへの参加も増加してきているようです。

独自性を出すために

鯖江市地域活性化プランコンテストは、学生と行政（鯖江市）、そしてボランティアの地元住民が深く関わりあうことによって、実現性を高めているという特徴がありました。

現在ある多くの学生向けビジネスプランコンテストの中には、学生とサポートする企業の関わりが深い事例はあまり見ることができません。

そこで私たちは浜松市でビジネスプランコンテストを開催し、全国から多くの大学生たちを呼び込むには、「学生と地元企業とが接点をもつ仕組み」を取り入れることが必要であると考えました。



(図-5) 学生と地元企業が接点を持つ仕組みイメージ

浜松市の企業はどう考えているのか

そこで、浜松市の企業は、大学生に対してどんな期待をしているのか、学生のアイデアをどう考えているのかという意識調査をするために、浜松商工会議所青年部会員企業に対してアンケートを実施しました。（資料3-1）

※浜松商工会議所青年部アンケートより

（回答62社）

「学生が考えるビジネスプランについて」アンケート

今年度、政策委員会では「10年後の光景な浜松」を築くための「ひどり」「まちづくり」について模索研究を行っています。

浜松が目指すべき町並みの姿をつくるため、私たちは青年経済人として、そして若者を育てていく世代として、「起業家育成」について考へ、政策として推進したいと思っています。

そのため、「学生が手掛けたビジネスプランに対するどのような考え方をお持ちのかお聞かせ頂きたく思います。今回のアンケートを実施させていただくことになりました。

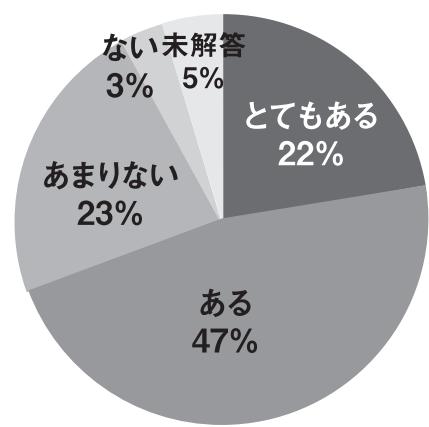
皆様にご協力いただき、ありがとうございます。また、いただきましたご回答については、厳密に管理し、説明提供に関する資料の目的以外では使用致しません。

是非、ご協力をお願ひ致します。

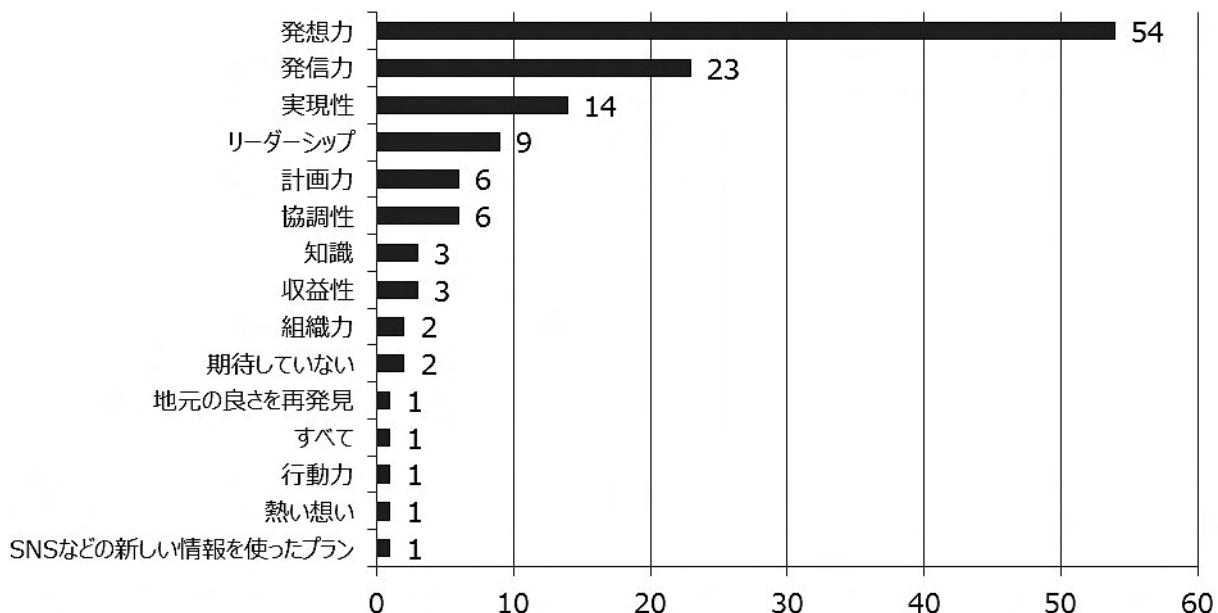
(図-6) アンケート WEB

「学生が考えるビジネスプラン」に興味はありますか？

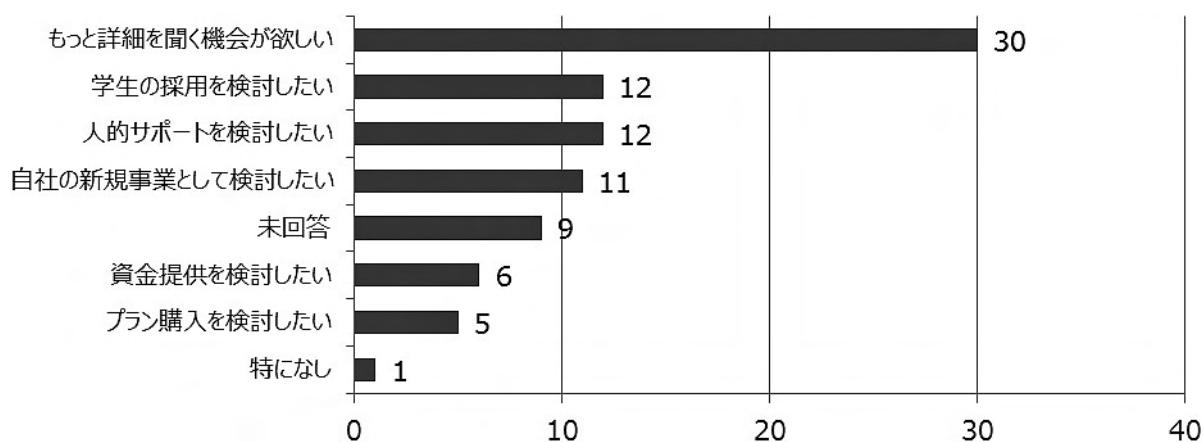
- ・とても興味がある 14
- ・興味がある 29
- ・あまり無い 14
- ・興味が無い 2
- ・未回答 3



「学生が考えるビジネスプラン」にはどのような事を期待しますか？（複数回答可）



「学生が考えるビジネスプラン」に良いプランがあった、場合どのようにされたいとお考えですか？（複数回答可）



アンケート結果より、浜松市の企業は学生ならではの発想力に期待し、良いビジネスプランにお金を出したいと考える企業が存在していることが分かりました。また企業にとって、ビジネスプランコンテストが、採用活動の一つとなることにも期待していることが分かります。

この結果から「企業が、学生と接点を持ち、採用へつながる、そんな“きっかけ”としてのビジネスプランコンテスト」を浜松市で開催するにより、より多くの浜松市内の企業・団体の参加を促すことができると考えます。

浜松やらまいか学生プランコンテスト

そこで私たちは、“学生と浜松市の企業とのマッチングの場を提供するようなビジネスプランコンテスト”として「浜松やらまいか学生プランコンテスト」の実施を提言します。

このコンテストは以下の特徴を持つことで、数多くある他のビジネスプランコンテストとは一線を画するように考えています。

① コンテストのテーマをリアルなものにする

→浜松市内の企業・団体・行政が抱えている課題をテーマ化する。

② 学生と企業（団体・行政）のマッチングを行う。

→学生だけでなく、プロが参加することでビジネスとしてのリアリティーが増す。

③ 実現化を前提にプランを作成する。

→学生が企業側と一緒にプランを構築・ブラッシュアップする。

④ コンテスト後の経過報告を義務付け、ホームページで公開する。

→全国的に類を見ない試みであるため、世間からも注目を集める。

→リアルなビジネスプラン体験が出来るため、全国の学生が集まる。

学生ビジネスプランコンテスト特徴比較

	主催者	対象	参加費	テーマ	企業のサポート	ブラッシュアップ	スキルアップ	賞金	事業化
浜松やらまいか学生プランコンテスト	浜松やらまいか学生プランコンテスト運営実行委員会	全国の大学生・専門学生	無料	地域活性・ビジネス	有り (人・物・知識・資金)	有り	有り	100万円	有り
富山学生まちづくりコンペティション	富山商工会議所青年部	学生	無料	地域活性	無し	有り	有り	無し	有り
静岡理工科大学高校生ものづくりまちづくりプランコンテスト	静岡理工科大学・浜松市	高校生	無料	ビジネス	無し	有り	無し	3万円分クオカード	無し
浜松ロータリー浜松ビジネスの卵発掘コンテスト	浜松ロータリークラブ	学生	無料	ビジネス	無し	無し	無し	20万円	無し
長浜高校生ビジネスプランコンテスト	長浜商工会議所青年部	高校生	無料	ビジネス	有り(資金)	有り	無し	無し	有り
高校生ビジネスプラン・グランプリ	日本政策金融公庫	全国の高校生	無料	ビジネス	無し	無し	有り	20万円	無し

ビジネスプランコンテストの具体的な内容

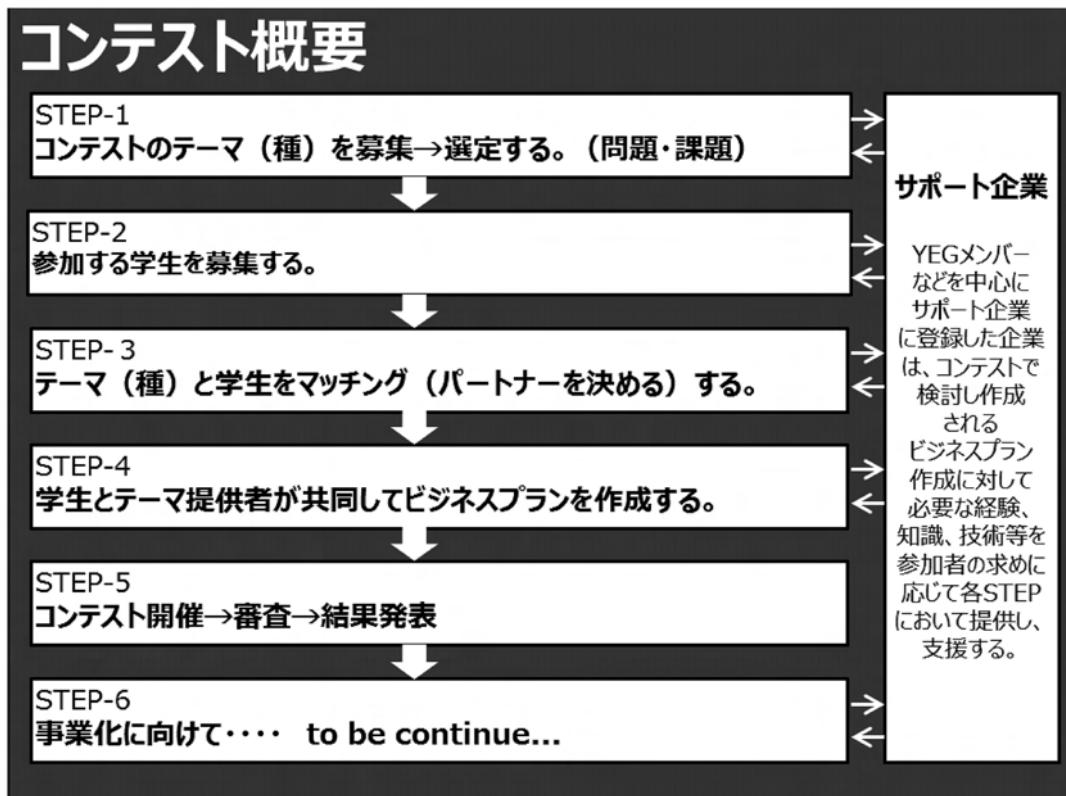
当コンテストの具体的な計画概要を以下に記します。

浜松やらまいか学生プランコンテスト		
コンテストの概要	実施年度	各年度 4月1日～3月31日
	実施体制	浜松やらまいか学生プランコンテスト運営実行委員会
	趣旨	学生の就職・起業に対する意識を養成すると同時に、学生の発想によるアイデアを企業と協同して実施していくことで、学生と浜松市内企業とのマッチングを図る場を提供する。
	応募資格 (テーマ提供者)	浜松市内で活動を行う企業・団体・行政
	募集条件 (テーマ提供者)	浜松市に結び付く事業テーマ(種)を提供し、応募学生と協同してビジネスプランのプレゼンテーションを行うこと。 企業・団体側より人材(コンテストパートナー)を1名以上選出し、プレゼンテーションまでに係る各種負担(資金・素材・場所等の提供)を行うこと。
	応募資格 (学生)	全国の学校(大学院・大学・短大・専門学校)に在籍する学生
	募集条件 (学生)	企業・団体から提供された事業テーマについて、ビジネスプラン案を提出し、審査を受けて頂きます。
	テーマ提供者の採択	浜松市内の企業・団体・行政よりコンテストのテーマ(種)を募集し、書類審査を行い、3つのコンテストテーマを選定します。
スケジュール	一次審査 (書類選考)	学生によるビジネスプラン案を募集し、各テーマ提供者による書類選考を行い、二次審査に進む学生を選定します。
	二次審査 (プレゼンテーション審査)	一次審査を通過した学生に、プラン案の概要をパワーポイント等の方法で、テーマ提供者に対してご説明頂きます。各テーマ提供者は、協同して取り組む学生を1チーム選定します。
	最終審査	二次審査を通過したプラン案は、最終審査会で公開プレゼンテーション方式にて発表して頂きます。審査委員による審査のうえ、受賞者を決定します。
	表彰	最優秀賞：1件(副賞100万円)

実際の流れ

運営団体として「浜松市やらまいか学生プランコンテスト運営実行委員会」を新設します。委員会の構成メンバーは次の通りです。

(浜松市（産業振興課）・金融機関・商工会議所及び青年部・イノベーション推進機構)



STEP-1 コンテストテーマ（種）を募集→選定する

企業・団体・行政等からコンテストのテーマ（種）を募集します。基本的には応募する企業・団体・行政ごとにテーマ（種）はそれぞれ異なった種類となります。開催年度ごとにメインテーマ（例：「観光」等）を設定することも可能です。

（テーマ（種）の具体的なイメージ）

- ・現在抱えている「課題」「問題」を解決したい。
 - ・持っている「技術」や「素材」を活かした新商品・サービスを開発したい。
 - ・自社の事業内容をベースに、大学生と新しいアイデア（事業）と一緒に考えたい。
- 最終的に主催者が、応募されたテーマ（種）から、3種類を選考します。

STEP-2 参加する学生を募集する

全国の大学生に対し、ホームページ、SNS、などのインターネットツールをはじめ、浜松市内の高校同窓会を通じ全国にいる浜松市出身の大学生、その他の地域出身の大学生に当コンテストを告知します。

また、浜松市高校生連盟の携帯アプリ「ハマコレ」（提言2）も、積極的に活用し高校卒

業後もアプリを利用した情報提供を行います。学生にはエントリーする際に、エントリーシートにそれぞれのテーマ（種）について、ラフなアイデアを記入し、当コンテストの参加意欲をアピールしてもらいます。

STEP-3 テーマ（種）と学生をマッチングする

テーマを出した企業・団体・行政は、エントリーした学生のアイデアや意欲などを考慮して、選考を行います。選考には、テーマ（種）を提供した企業・団体・行政だけではなく、運営団体（浜松やらまいか学生プランコンテスト運営実行委員会）も加わります。

その結果、テーマ（種）ごとに、学生を選考し、テーマ提供者からのパートナーとチームを編成します。テーマ（種）提供者からはビジネスパートナーとして社員・職員を最低1名以上選任してもらいます。

STEP-4 ビジネスプランを作成する

テーマ提供側はパートナーを最低1名選任し、学生と一緒にビジネスプランを作成します。この過程における資金等は、テーマ提供側が負担することとします。

実際にテーマ（種）を提供する企業・団体・行政などからビジネスプランの実現に真剣なプロが学生と一緒にを行うことによって、ビジネスプランの実現可能性が高まります。

提供側は人（パートナー）のほか、素材・場所・データ、専門知識、資金を提供します。

また、ビジネスプランのブラッシュアップに当たっては、希望があれば浜松商工会議所青年部等から選任した各種事業に精通した専門家サポートを受けることができます。

（サポートメニュー例）

- ・先輩起業家や専門家、大学や外部からの協力を得て行う「アイデア発想法」「ビジネスプラン作成」「財務セミナー」といった基本的かつ実務的な講座、
- ・各業種ごとの個別相談、プレゼンテーションのアドバイス等

STEP-5 コンテスト開催→審査→結果発表

チームごとに2泊3日の合宿を行い、プランのブラッシュアップを行います。

そして合宿最終日に公開プレゼンテーションを開催します。

（プレゼン時間：20分 質疑応答：10分）

（審査員構成案）

浜松市長、浜松市担当課長、浜松商工会議所会頭、浜松商工会議所青年部会長、金融機関、浜松地域イノベーション推進機構職員

最優秀賞1件を選定し、賞金は100万円とします。

STEP-6 事業化に向けて

その後、全てのビジネスプランについて、テーマ提供者（企業・団体・行政）が中心となって、事業化に向けて活動を行います。その際に、コンテスト後も学生とコンタクトを取ったり、アルバイト等により実際の事業化の活動に参加させることも可能です。

当コンテストでは、それぞれのビジネスプランがその後どのような過程を経て事業化されたのか、または止むを得ず断念したのか等を、半年後、1年後、その後（白黒つくまで）というタイミングで報告する義務を課します。そしてその過程をホームページで公開することで、他のビジネスプランとの差別化を図りたいと思います。

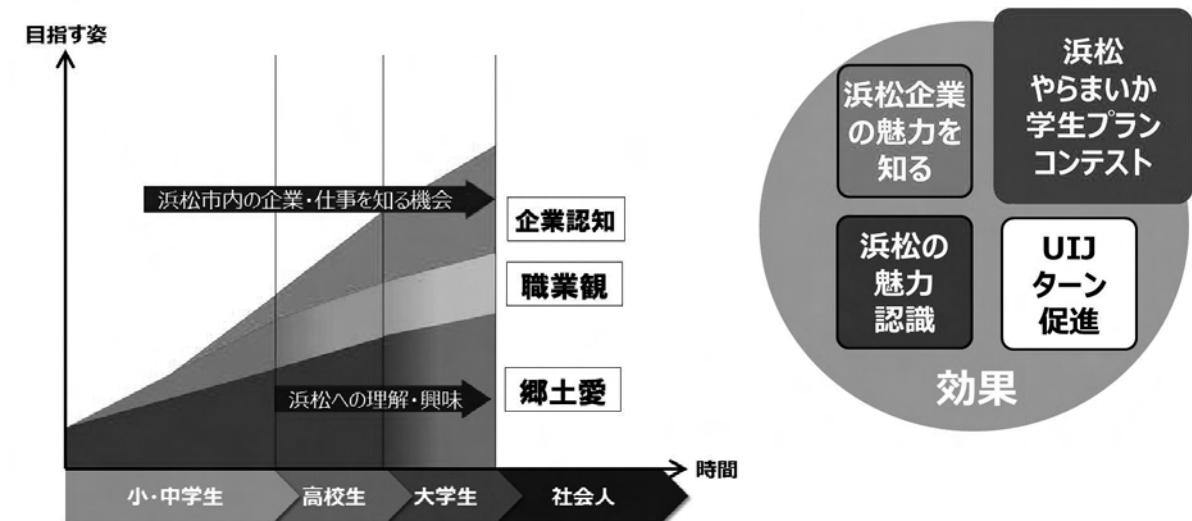
浜松やらまいか学生プランコンテストを通じて

大学生世代に浜松市に興味を持つてもらい、魅力を知ってもらうためビジネスプランコンテストを開催し、浜松市に注目を集めることが必要であると考えます。

コンテストを通じて、学生はプランを作成していく過程で浜松市への理解・興味を深め、リアルなビジネスの進め方を身近に肌で学び、浜松市の企業と仕事内容を知ることができます。

また、浜松市の企業は学生のアイデアを得られるとともに、学生との接点を持つことで優秀な学生と出会うことができる機会が得られます。

このような学生と企業のマッチングの場となるコンテストを実施することで、U・I・J ターンの促進へつながると考えます。



提言 4

『浜松の魅力』を発見・発信

～U・I・Jターン対策 若者世代へ就職に 対する新しい「ものさし」を明示～

- ・地方都市・浜松に住み・働く、浜松で人生を歩むということについての潜在的な価値を見える化します。
- ・「知名度」「額面所得」「規模」といった大都市・大企業の近視眼的価値観を常識としている若者世代に対して、「ワークライフバランス」、「人生（家族）設計」といった長期的視点に立った価値観を見える化します。
- ・新たな指標に基づいて評点化します。

「浜松版 人生・インデックス（HIOL）」を提案

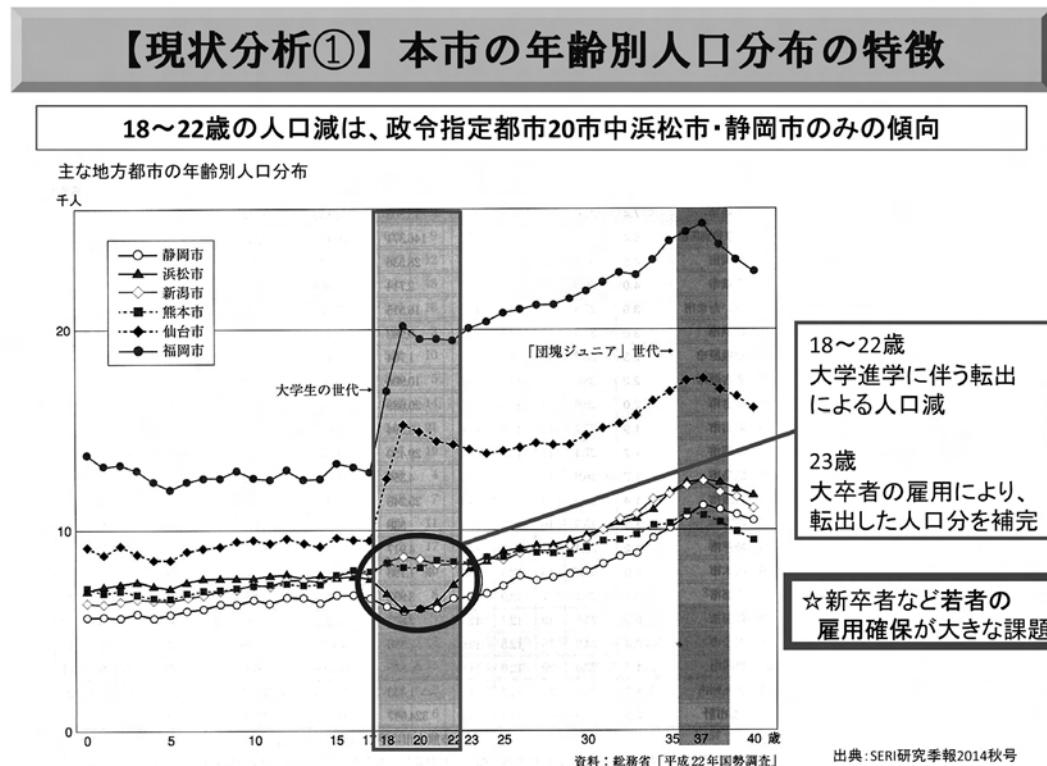
「浜松の価値」＝「ワークライフバランス」×「（実質）所得」

目的	浜松の持つワークライフバランスの価値を見える化し、より多くの若者が浜松に住み・働くよう促す
成果	浜松への、若者世代のU・I・Jターンの促進が実現
主体	浜松市 浜松市地方創生推進本部 浜松商工会議所
対象	18～22歳（仮）の若者世代（浜松市内外の在住を問わず）
時期	平成29年度より

現状と課題

平成27年度に浜松市が打ち出した「浜松市人口ビジョン 浜松市総合戦略策定方針」における現状分析では問題点として以下の2点を挙げています。（図－1）

1. 政令市20市中、浜松市ののみ5年連続で転出超過。（序章：図－5）
2. 政令指定都市20市中浜松市と静岡市ののみ18～22歳の人口減。
若者世代（18～22歳）の流出



（図－1 出典：平成27年 浜松市人口ビジョン 浜松市総合戦略策定方針 P16）

その中で浜松市は「若者世代の流出」への対応策として「新卒者など若者の雇用確保」を挙げていますが、私たちは以下2点に対して疑問を投じます。

（疑問1）「大卒者の雇用により、転出した人口分を補完」出来るのか。

（疑問2）「若者の雇用確保が大きな課題」

以下にそれぞれの疑問に対する考え方を記します。

(疑問 1) 「大卒者の雇用により、転出した人口分を補完」出来るのか。

これについては「増田レポート」で唱われている様に、今後の浜松市は「人口減による都市機能を維持できなくなる周辺都市からの流入」が想定され、磐田市・袋井市・森町・湖西市などの周辺都市から浜松市へ、若者世代の流入が考えられます。仮に「雇用確保」をすればある程度想定通りになる可能性はありますが、現状のままではあくまでも「浜松市の若者世代の流出分を、他地域の若者で補完する」に過ぎません。

「流出した浜松市育ちの若者を如何に呼び戻すか」ということが真の課題だと考えます。

(疑問 2) 「若者の雇用確保が大きな課題」

また、後者については「雇用確保」が若者世代にとっての、定住要件の第一義として挙げられるか、ということです。「仕事がある」という以上に、若者世代が積極的な選択により浜松市に住んでもらう方策を打ち出す必要があります。

浜松市は県庁所在地でも、大都市のベッドタウンでもありません。つまり、外的な人口集積要素を持ち合わせていない中で、かつては自らの産業、特に「モノづくり」において人口集積を実現してきた素晴らしい街です。

しかしながらその「モノづくりのまち浜松」は、今や経済環境の変化により、その状況は一変し、人口集積の要素が年々薄れてきている現状があります。それでもなお、今後も自らの手で人口集積要素を構築し、人口を増やす必要があります。

その手段として、多くの物理的環境に恵まれていることもさることながら、浜松市が培ってきたあらゆる「価値」が時代の変化と共により重要度を増してきており、若者世代へその価値を発信することが最も有効であると考えます。

浜松の「潜在的価値」を“見える化”する

(1) 若者世代の「大都市・大企業志向」

「第一生命経済研究所『大学3年生の就職に対する取組や意識に関する調査』」（以下調査）では、「大都市圏出身者でなくても大都市圏で就職することを考えている学生が多く、大学生の就職にあたっての大都市志向がみてとれる」と指摘しています。また、「2016卒マイナビ大学生就職意識調査」によると、2年連続増加傾向だった大手企業志向（「絶対に大手企業がよい」+「自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」の合計）は、42.9%といまだに高い水準にあると報告しています。以上から、若者世代では依然「大都市・大企業志向」が根強く残っていると言え、そこからうかがえることは大都市については「大都市」とい

う響き、「物質的・文明的な豊かさ」であり、大企業には「知名度」や「名目所得」、「企業の規模」などに価値を見出していることです。

しかし、それらは彼ら自身の「近未来像に対する憧憬じみた価値観」であり、また「顕在化された価値に対する既成の価値観」に隸従している、つまり、「近視眼的且つ前時代的な価値観」であると言えます。

(2) その一方で若者世代は「プライベートの充実」を求めている

その一方で、調査①(P 4) では「余暇を犠牲にしてでも、経済的に豊かな生活をする」よりも「ほどほどの収入でも余暇を楽しむ生活をした」割合の方が高く(72.4%)、また「家庭や趣味よりも、仕事を優先に生活をする」よりも「仕事よりも、家庭や趣味を優先とした生活をしたい」割合が上回っています(72.1%)。

仕事優先というよりも、ほどほどの収入でもよいから家庭や余暇を大切に生活したいと考える学生が多いことが調査結果から浮かび上がりました。

(3) 潜在的な価値観を見る化へ

そこで我々は、「ワークライフバランス」や「人生（家族）設計」といった、長期的視点に立った価値であれば、浜松に優位性があるのでは、と考えました。

しかしながら、それらは目に見えない潜在的な価値であり、その様な価値は今日の「人気企業ランキング」といった指標からは導き出せません。

そして、人気企業ランキングで評価される企業イメージや初任給の高さは、莫大な広告宣伝費や人件費を捻出できる大企業だけがなせる業であり、同じ土俵で戦い続けても、地方の中小企業に勝ち目はありません。

それならば、私たちが自ら行動し知恵を出し合って、優位性のある潜在的価値を「見える化」した上で、若者世代へ「ものさし」を明示しようと考えました。

一例を挙げれば、ブータン王国が世界一を標榜した「G H P」(国民総幸福量)は、世界経済の潮流からすれば軽微なトピックスでしかありませんが、そのイメージ戦略が引き起こした観光収入増大は見事な「ものさし」の転換であり、勝てる土俵で勝負しました。

つまり、今までの「価値観を転換」して「こちらの土俵」で勝負するということです。



(図-2) 企業ランキングイメージ

浜松に住み、働く人へアンケート

比較対象として大都市・大企業

まずもって私たちは、「ワークライフバランス」や「人生設計」に加えて、実は浜松の方が大都市や大企業に比べて優位性があると思う潜在的価値を、さらに「実質所得」、「仕事のやりがい」、といった2つのカテゴリーに見出し、

「浜松の価値」=

「ワークライフバランス」×「実質所得」×「やりがい」×「人生設計」

と定義しました。

そして、それら4つのカテゴリーそれぞれに沿った質問を設定し、浜松商工会議所青年部会員企業50社の従業員、計536名にアンケートを実施しました。また、比較対象として東京都千代田区に本社を置く東証一部上場企業「H社」の本社従業員へ同様のアンケートを実施しました。（資料4-1）



(図-3) アンケートフォーム(Google フォーム)

4つの価値カテゴリーにおける質問数及び配点一覧				
ワークライフ バランス	実質所得	やりがい	人生設計	
10問・計100点	9問・100点	4問・100点	7問・100点	
配点	配点	配点	配点	
20点 2問	30点 1問		40点 1問	
15点 2問	15点 3問	25点 4問	20点 2問	
5点 6問	5点 5問		5点 4問	
質問のキーワード				
・通勤条件 ・自然へのアクセス ・平日の余暇時間 ・趣味の選択幅	・住まい ・食費 ・教育費 ・額面収入	・社長と意思疎通 ・社内の風通し ・人員整理リスク ・仕事の満足度	・地域との関わり ・理想の住環境 ・子育て環境 ・子どもの人数	

(協力・監修：しんきん経済研究所)

主なアンケート結果

それでは以下に主なアンケート結果とその考察を紹介します。

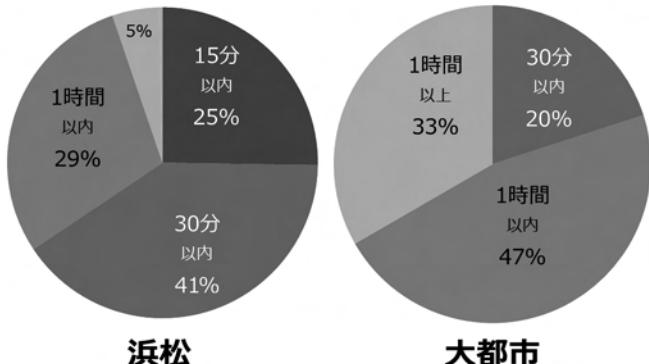
(詳細は巻末添付資料4-1をご覧ください。)

ワークライフバランス

- 【質問1】「通勤所要時間」・・・

浜松は約7割の人が「30分以内」に対し、大都市では3割以上が1時間以上通勤に費やしており、往復時間、さらに年間稼働日で比較すると、その分浜松は余暇時間が多いという優位性があります。

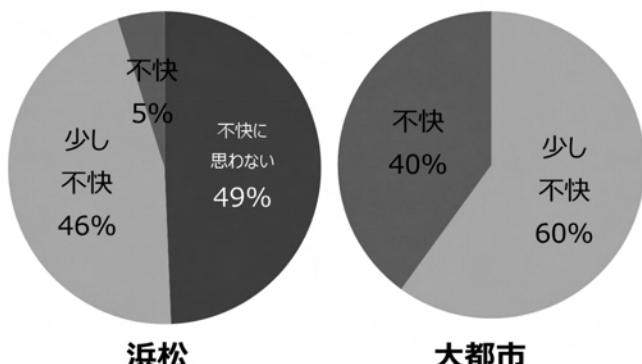
- 【質問1】通勤時間にどれくらいかかりますか？



- 【質問2】「通勤時の不快度」・・・

大都市では全員が一定以上の不快を感じており、勤務時間以外にも余分な精神的負荷がかかっています。

- 【質問2】通勤時に不快を感じますか？

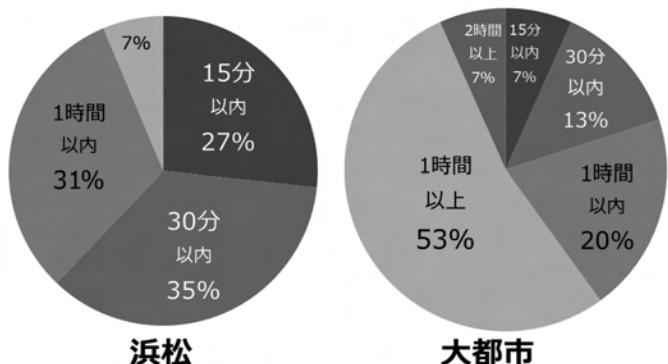


- 【質問3】

「自然へのアクセス所要時間」・・・

浜松は5割以上が「30分以内」に対し、大都市では6割が「1時間以上」要しており、子育てを含む生活環境の良さや趣味の充実・実現において浜松に優位性があります。

- 【質問3】海や山までどれくらいでアクセスできますか？



- ・【質問 11】「平日（稼働日）における家族との夕食の頻度」・・・

浜松には毎日家族と食事をする人が2割以上います。今回のアンケートは浜松・大都市共にほぼ同じ幅の世代が対象となりましたが、大都市の方が独身・一人暮らし率が高いこともあります（質問 22・29・31・35）、この様な結果になりました。また、帰宅時間の早さ（質問 10）が浜松の数字を押し上げていることも指摘出来ます。浜松の方がより長く家族と時間が過ごせます。

実質所得

- ・【質問 34】「年収」・・・

浜松は5割が「400万円以下」に対し、大企業では5割が「800万円以上」でした。額面所得では大きな差があります。

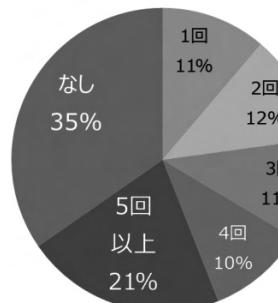
- ・【質問 22】「自宅は持ち家か賃貸か」・・・

浜松は8割が持ち家で、その大半が戸建てに対し、大都市では6割が賃貸でした。土地代などの物価差も後押しをして、浜松に優位性があります。

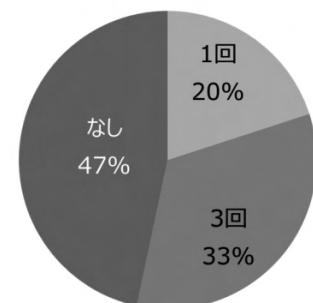
- ・【質問 26】「みかんは買うものか、もらうものか」・・・

浜松は5割が「もうらうもの」であり、大都市では9割以上が「買うもの」と回答しており、みかんが浜松の名産地である以上に、地域内で歳暮の儀礼以外にも「お裾分け」の文化が今もなお存在する中で、結果「見えない GDP」として寄与していると考えます。

【質問 11】平日、夕食を家族と一緒にとりますか？

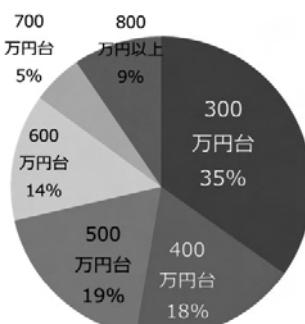


浜松

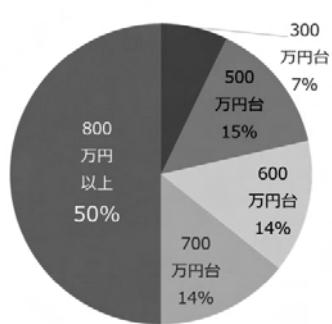


大都市

【質問34】あなたの年収は？

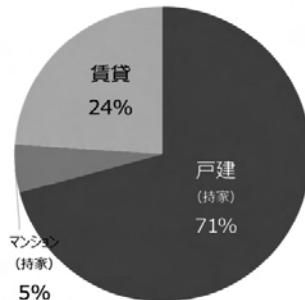


浜松

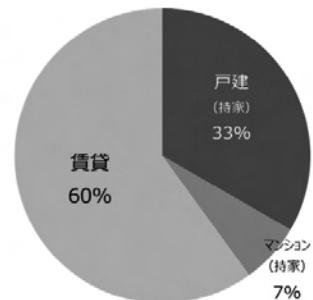


大都市

【質問22】現在のお住まいは？

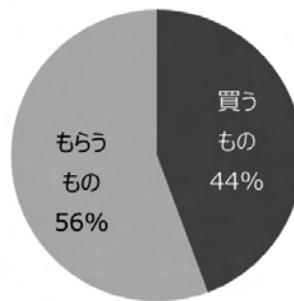


浜松

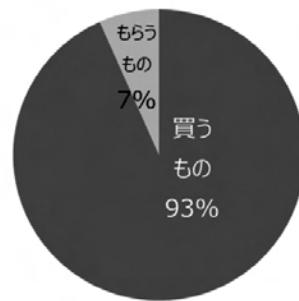


大都市

【質問26】あなたにとって「みかん」とは？



浜松

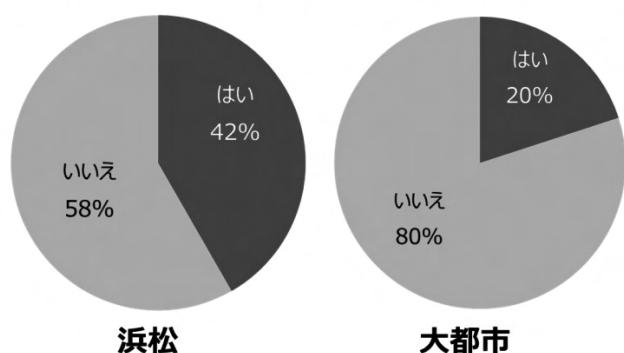


大都市

・【質問29】「実家に住んでいるか」・・・

浜松は4割が実家住まいに対し、大都市では2割の回答でした。地元の浜松で就職すれば当面実家暮らしになる確率が高くなり、家賃や食費などにメリットが生じると考えます。また、世帯を構えてからも実家に住むことは家賃面で優位になります。

【質問29】実家にお住まいですか？

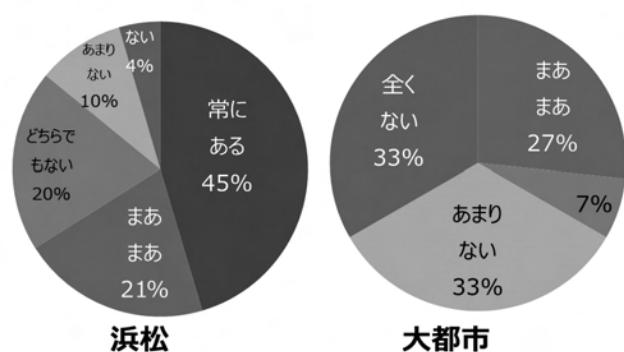


やりがい

・【質問18】「社長に会って話をする機会があるか」・・・

浜松の中小企業では7割弱が「機会がある」一方で、大企業では7割弱が「ない」と回答しました。中小企業は小規模の従業員数であり、その分社長と話をする頻度が高い中で社長の考え方を直に聞くことができ、またコミュニケーションをとれることが仕事のやりがいを高めると考えます。

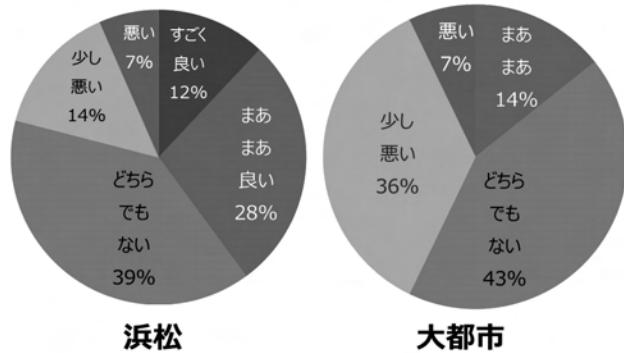
【質問18】社長に会えますか？



・【質問19】「勤務先は『風通し』が良いか」・・・

浜松の中小企業は「風通しがすごく良い」が1割強おり、そして4割以上が一定以上の風通しの良さを感じています。大企業では4割強が風通しの悪さを感じています。中小企業クラスの人数規模の方が風通しの良さがうかがえます。

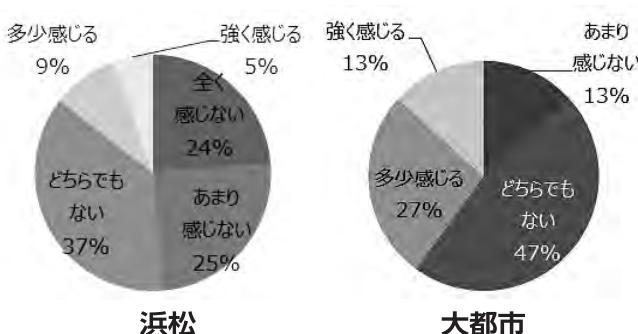
【質問19】あなたの会社は「風通し」が良いですか？



・【質問20】「勤務先では『人員整理』のリスクを感じるか」・・・

浜松の中小企業では5割以上がリスクを感じておらず、大企業では4割がリスクを感じています。昨今、大企業では事業部丸ごとの人員整理が頻発しており、自分の仕事の出来とは直接関わりのない理由で人員整理されるリスク

【質問20】勤務先の企業は「人員整理」のリスクを感じえますか？

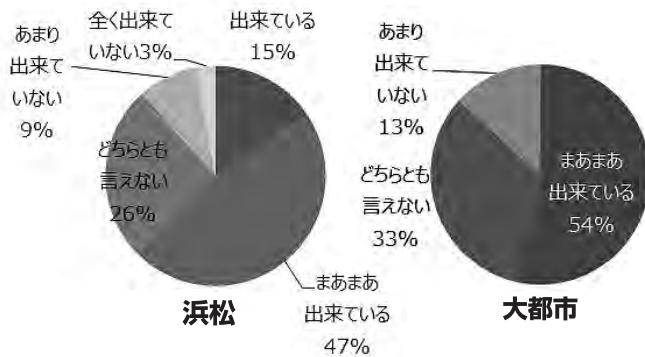


は、他人事でなく不安を感じる大きな要因となっています。

- ・【質問21】「勤務先で『やりたい仕事』ができているか」・・・

浜松の中小企業では「全く出来ている」が2割弱おり、一定以上やりたい仕事が出来ている人は全体の6割強います。また、大企業では一定以上出来ていると感じている人は5割強います。一定以上のやりたい仕事を出来ている人の割合はそれぞれ一定数いますが、「全く出来ている」人は大企業においては皆無でした。

【質問21】勤務先で「やりたい仕事」ができますか？

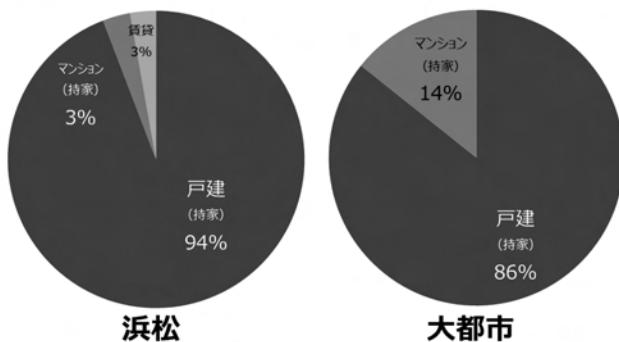


人生設計

- ・【質問22】と【質問23】の差異「現在の住まいと子育てにおける理想の住まい」の差・・・

浜松では現実と理想が一致して「持ち家」という人が大半でした。大都市では、理想の子育てに「持ち家」を挙げる人が100%でしたが、実際の住まいの6割が「賃貸」でした。住まいに関して言えば、浜松は理想を現実のものに出来るまちだと言えます。

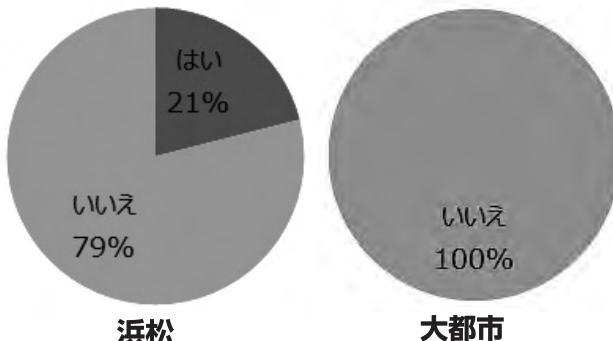
【質問22】子育てにおいて、理想の住まいは？



- ・【質問31】「(義理の)親と同居しているか」・・・

浜松では2割が(義理の)親と同居していますが、大都市では皆無でした。地元の浜松で所帯を持つことで、親の老後の面倒を見られると共に、子育てにおいても親からの物理的な援助が期待出来ます。

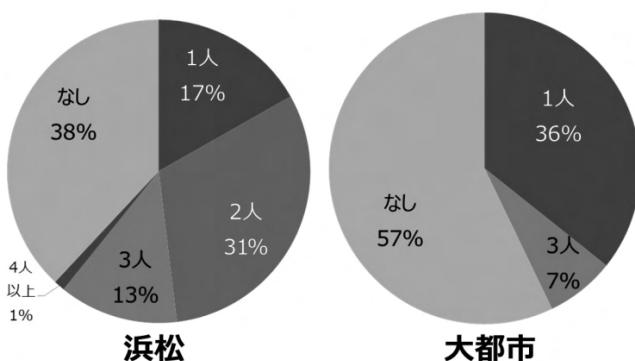
【質問31】現在、(義理の)親御様と同居していますか？



・【質問35】「子供の人数」・・・

浜松では僅かながら子供が4人以上の家庭もあり、3人が1割強、2人以上の家庭が全体の4割強を占めました。一方、大都市では子ども2人以上の家庭は全体の1割未満でした。結果として見れば、浜松の出生率と同様の結果であり、例え大企業と比較して年収は低くても、複数の子供を養っていく環境が整っていることがうかがえます。

【質問35】お子さんの人数は？



アンケート結果の評価とその考察

上記以外の設問についても、それぞれを4つのカテゴリーに分けし、前述の計算方法にて採点、集計を行った結果、以下の表のようになりました。

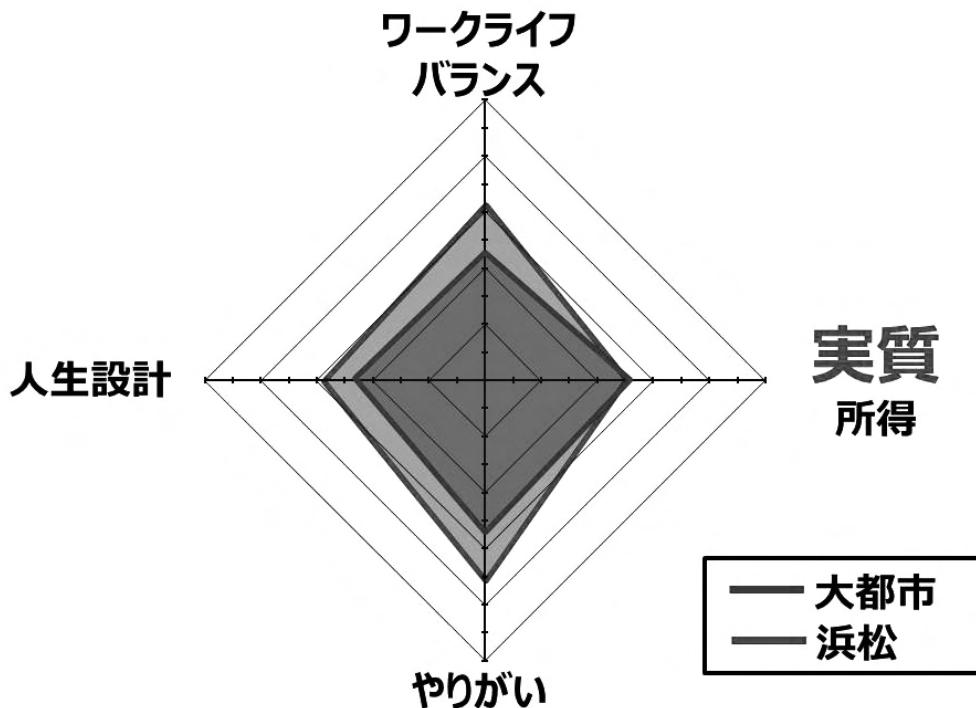
	合計 (400点満点)	ワークライフ バランス	実質所得	やりがい	人生設計
オール浜松	239点	63点	51点	71点	54点
大都市 大企業 H社	192点	44点	51点	54点	43点

浜松は大都市・大企業と比べて、4つの価値観カテゴリーはいずれも同等以上の結果となりました。特に「やりがい」については浜松の中小企業に大きく軍配が上がりました。また、「実質所得」については大企業に比べ額面所得で大きく差をつけられるものの、浜松の物価安といった優位性が結果的に可処分所得という面において同等となりました。

そして、私たちはこの結果を基に、以下のイメージを作成し、この指標を

「浜松版 人生・インデックス」

(略称) HIOL (Hamamatsu Index Of Life value) と命名しました。



いよいよ浜松市の取組みが始まりました

浜松市は平成27年度9月補正予算案において「U・I・Jターンの促進」にかかる調査費用として約1,000万円を計上しました。（図-4）

また、鈴木康友浜松市長も平成28年元旦に発信した「新年を迎えて」（市長の部屋）において「若者がチャレンジできるまち」の人との施策として「U・I・Jターン就職を推進する」と表明しました。

浜松市も、いよいよ本格的に存続をかけての

U I Jターン促進による地元企業への人材確保支援事業 (就労支援事業)

産業部産業総務課

1 目的

- ・首都圏、関西圏及び中京圏で浜松市にU I Jターン就職を希望している大学・短大・専門学校等の学生及びその保護者、未就職者ならびに中途転職者を対象とした就労支援事業により、若者の転入増加を図り、地元企業を担う人材及び労働力を確保する。
- ・市内企業ならびに高校及び進学先の正な大学を対象とした実態調査等を実施し、分析や検証を行うことで有効で効果的な就労支援事業を実施する。

2 背景

- ・平成22年の国勢調査の結果では、本市の若者世代（20～39歳）比率は24.8%、若い女性比率は12.0%であり、ともに令和指定都市ワースト3位である。
- ・雇用構造が回復傾向にあるなかで、市内外中小企業では採用意欲のある企業が多いにもかかわらず、依然、有名企業への就職希望の傾向が強く、職種においては求人・求職にミスマッチが生じている。
- ・U I Jターンの促進は、現在策定を進める浜松市総合戦略においても、社会城の対策として、転入超過に結びつく重要な施策の一つであると考えている。

（図-4）平成27年度9月補正予算

取り組みが始まります。

しかし、現状において各地方行政が行っている既成の地元U・I・Jターンフェアは目に見えた実績に乏しいと感じます。そして今後、より多くの予算を盛り込めば多くの学生が戻ってくる費用対効果は不透明です。



(図－5) 市長の部屋(平成 28 年 1 月 1 日「新年を迎えて」)

CHANGE THE RULE

ときに、今回提言するにあたり私たちは「CHANGE THE RULE」を念頭にして、以下の 2 つの行動をとりました。

1 つ目は・・・「価値観の転換」です。

今回私たちは「価値観の転換」をして

こちらの「勝てる土俵」=浜松版人生・インデックス (HIOL) を創りました。

2 つ目は・・・「考え方の転換」です。

つまりお金よりも知恵を集める時代になりました。

その実、今回のアンケート収集に当たっては“Google フォーム”という無料のインターネットツールを活用しましたので経費はほとんどかかっていません。

旧約聖書のサムエル記に「ダビデとゴリアテ」の一説があります。史上最大の番狂わせとして、弱者が圧倒的な強者に打ち勝つという比喩で用いられますが、このエピソードから私たちが真に学ぶべきは、浜松の持つ潜在的価値を浜松市が勝てる土俵で P R していくこと、別の言葉で言い換えれば「既成概念（地方都市では勝てない土俵）からの脱却・転換」をして、「知恵を用いて手持ちの武器を最大限に活かせば立場が逆転する」ということです。つまり、「CHANGE THE RULE」の発想です。

浜松版 人生・インデックス (HIOL) をどう活用するか

そこで「U・I・Jターンの促進」実現の最たる手段として、浜松市は長い人生のスパンでみると、とても魅力的な評価になるという、『浜松版人生・インデックス (HIOL)』をアイコンとして活用し、若者世代へ積極的にアピールすることを提言します。このアイコンを活用すべき浜松市の行政組織は以下になります。

○企画調整部

- ・東京事務所
- ・広聴広報課

○産業部

- ・雇用労政担当課（長）
- ・観光シティプロモーション課
- ・浜松市教育委員会
- ・浜松市地方創生推進本部 等

その具体的な活用方法はいわゆる『イメージ戦略』であり、キーワードは『価値観への共感、そして共有』です。つまり、より多くの市民に如何にこの『浜松版人生・インデックス (HIOL)』を知ってもらい、その価値観に共感してもらうか。そしてその共感した価値観を市民全体で共有するために、どのような方法を取れば良いのか、ここに注力する必要があります。

例えば…

- ・市行政の当該部課が発刊している刊行物に、『浜松版人生・インデックス (HIOL)』を象徴的に添付し浜松の内外へ徹底してアピールを図る。(図-6、7)
- ・プロモーションビデオを作成し、インターネット動画配信サイト等で配信したり、SNSを通じてイメージを拡散する。(図-8)



(図-8) プロモーションビデオ活用例(動画配信サイトイメージ)



(図-6) ポスターへの活用例



(図-7) 刊行物への活用例

- ・提言2の浜松市高校生連盟運営のアプリ「ハマコレ」を通じての啓蒙
- ・提言3の浜松やらまいかビジネスプランコンテストのテーマとして広く活用アイデアを募集する。

等が考えられます。

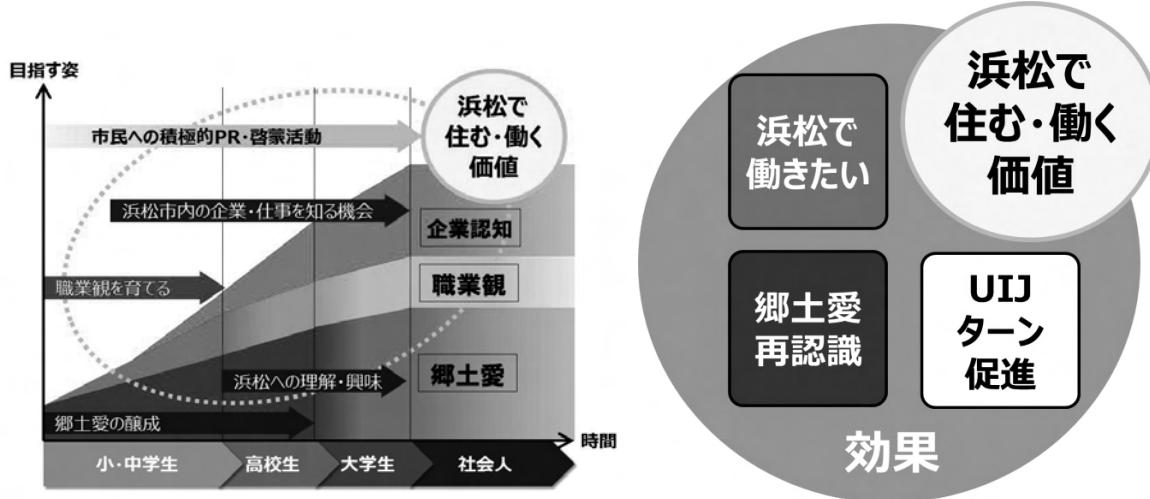
また、それと並行して浜松市教育委員会や浜松市地方創生推進本部と連携し、「マインド教育からの地方創生」を企図して次代の若者世代へ、早期教育段階から「CHANGE THE RULE」に基づいた「浜松の価値」を継続的に啓蒙すべきだと考えます。

CHANGE THE RULE→HIOL→その先に…

『浜松版人生・インデックス(HIOL)』という、浜松市独自の新たな価値観を創造することで、今まで「大都市よりも浜松の方が住みやすいよね」というように漠然と捉えられてきた郷土の魅力を『見える化』することに成功しました。

この価値観を子供たちをはじめとする多くの市民が共感し、共有することで、より強い郷土愛が形成・再認識されるとともに、「浜松で働きたい」と考える若い人が増え、Uターン就職への強い動機づけとなることは間違ひありません。

また併せて、この新しい価値観を浜松市外へ発信することは、Iターン Jターンといった市外からの流入促進にも効果が期待できます。



(図-9) 提言4の効果イメージ

この『浜松版人生・インデックス (HIOL)』は、継続的に定点観測し更新することで、浜松市の産学官が力を合わせて、より価値のあるものへ高める努力をすることになるでしょう。

それにあたり、『浜松版人生・インデックス (HIOL)』の定点観測や更新については経済団体である浜松商工会議所も積極的に協力していきたいと思います。

まとめ

『ちいき。げんき。人づくり』

郷土愛×(職業観+浜松企業認知)×浜松の価値

=シビックプライド(Civic Pride)

・ちいき。げんき。人づくり。

そして **HAMAMATSU STYLE** をめざして

・俯瞰的な視点を持つために・・・戦略マップ

・計画的に、継続的かつ段階的な働きかけをすることで

・シビックプライドこそ地域創生の力である

ちいき。げんき。ひとつづくり。 そして、HAMAMATSU STYLE をめざして

今回私たちは地域を元氣にする施策として、4つの具体的な施策を提言しました。その一つ一つは、それぞれの世代が持つ課題を解決する方法の一案であり、その他にも様々なアプローチがあるのかもしれません。

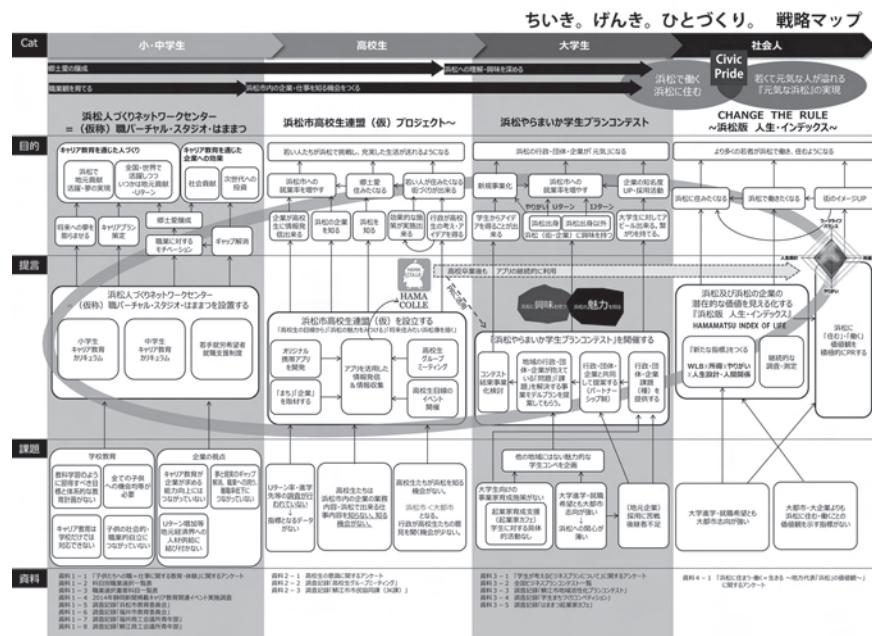
しかしながら現在浜松市が抱えている課題は深刻であり、早急な対策が望まれているのが現状です。そのような背景から、今回の提言にはできる限り具現化しやすいように、具体的なイメージ、方法、カリキュラム、コンテンツまでを提言内容に織り込むことで、次のステップへの準備、導入期間をより短くし、早期に対策ができるよう、との想いを込めました。

また他の都市の U・I・J ターン施策にあるように、単に大都市圏のコンサルティング会社が提供する全国画一的な企画に頼るのではなく、現存の浜松市が持つ“ポテンシャル”を最大限に引き出し、“知恵”を絞ることによる浜松市独自の形「HAMAMATSU STYLE」を目指しました。

俯瞰的な視野を持つために…戦略マップ[°]

さらにこの「HAMAMATSU STYLE」を実現するために、それぞれの提言の関連性や計画性をもって継続的かつ段階的な働きかけをすることの効果を視覚的に理解できるように、今回の提言内容を、企業が経営戦略などで活用する“戦略マップ”的形式にまとめました。(図-1)

これにより、施策に取り組む各担当部門が、それぞれの課題を断片的に捉えたまま解決するのではなく、常に俯瞰的視野を持ちながら、かつ全体的な意識を持って、それぞれの課題に取り組むことができるようになることを期待します。



(図-1) 戦略マップ

計画的に、継続的かつ段階的な働きかけをすること

産学官がタッグを組み、協力して“未来を担う子供たちを育てる”必要性、重要性については以前から誰もが理解していたところではありました。しかし、残念ながらそれぞれの領域ごとに、独自の考え方や方向性、目的を持ち、そしてそれが独自の方法を用いて行っているのが現状です。

今回の私たちの提言を、浜松市及び浜松市経済界が活用し、しっかりととしたビジョン（戦略）の上で、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人の各世代に対して“計画的に”そして“継続的”かつ“段階的”に4つの要素「郷土愛の醸成」、「職業観の育成」、「浜松市内の企業を知る機会の創出」、「浜松で住む・働く価値を共感し共有する」ことを働きかけることにより、多くの子供たちが「浜松市で自分たちが大人（社会人）になった時、浜松市でやりがいを持って働き、幸せな家庭を築く、というような“明るい未来”を描くことができる。」ようになります。

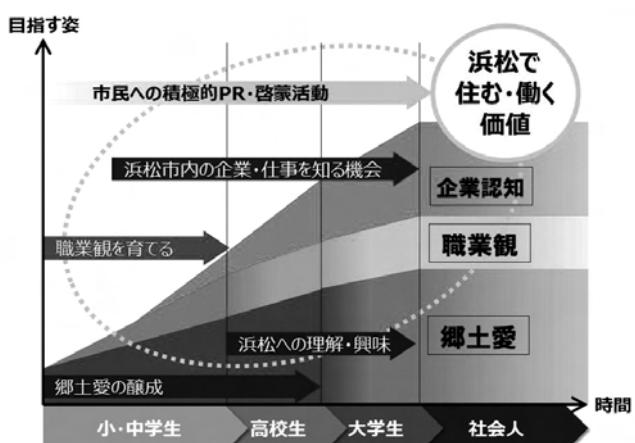
それによって、「浜松市に住みたい・暮らしたい」「浜松市で働きたい」と考える若者が増え、一旦は進学で市外へ転出した若者たちの多くがUターン就職をするようになるでしょう。

その結果として、浜松市は序章で私たちが定義づけした、「住みたい街」「働きたい街」となり「若くて元気な人がたくさんいる。」元気な地域浜松市が実現することでしょう。

さらに、この働きかけを今後長期間に渡って継続していくことで、浜松市で育つ子供たちはもとより、既に生活している多くの市民にも今まで以上に強力な

「浜松市への愛着と誇り」=「シビックプライド」が芽生えてくる効果があると考えます。

この『シビックプライド』が生まれることが、今回私たちの提言の目指す理想の姿です。



(図-2) 提言イメージ



(図-3) 『元気な地域』の実現イメージ

シビックプライドこそ地域創生の力である

シビックプライド (Civic Pride)

都市に関係する人々（そこで住んだり、働いたり、遊びに来たりする人たち）が、その都市に対して持つ誇りや愛着をシビックプライドという。

ノスタルジアではなく、都市をより良い場所にするために、自分自身が関わっているという当事者意識に基づく自負心。

（出典：「シビックプライドー都市のコミュニケーションをデザインする」監修・伊東香織・紫牟田伸子 発行・株式会社宣伝会議）

全国的に人口減少による都市の縮小が進む中、今後ますます都市間競争が激しくなります。U・I・J ターン施策などに見られるように、コンサルティング会社主導の全国画一的な取り組みだけをしていては、残念ながらこの厳しい競争を勝ち抜くことはできません。そのためには「シビックプライド」が必要であり、この「シビックプライド」こそが地域創生の原動力になるものあります。

つまり 「郷土愛」 × 「職業観＋企業認知」

× 「浜松に住む・働く価値の共感・共有」

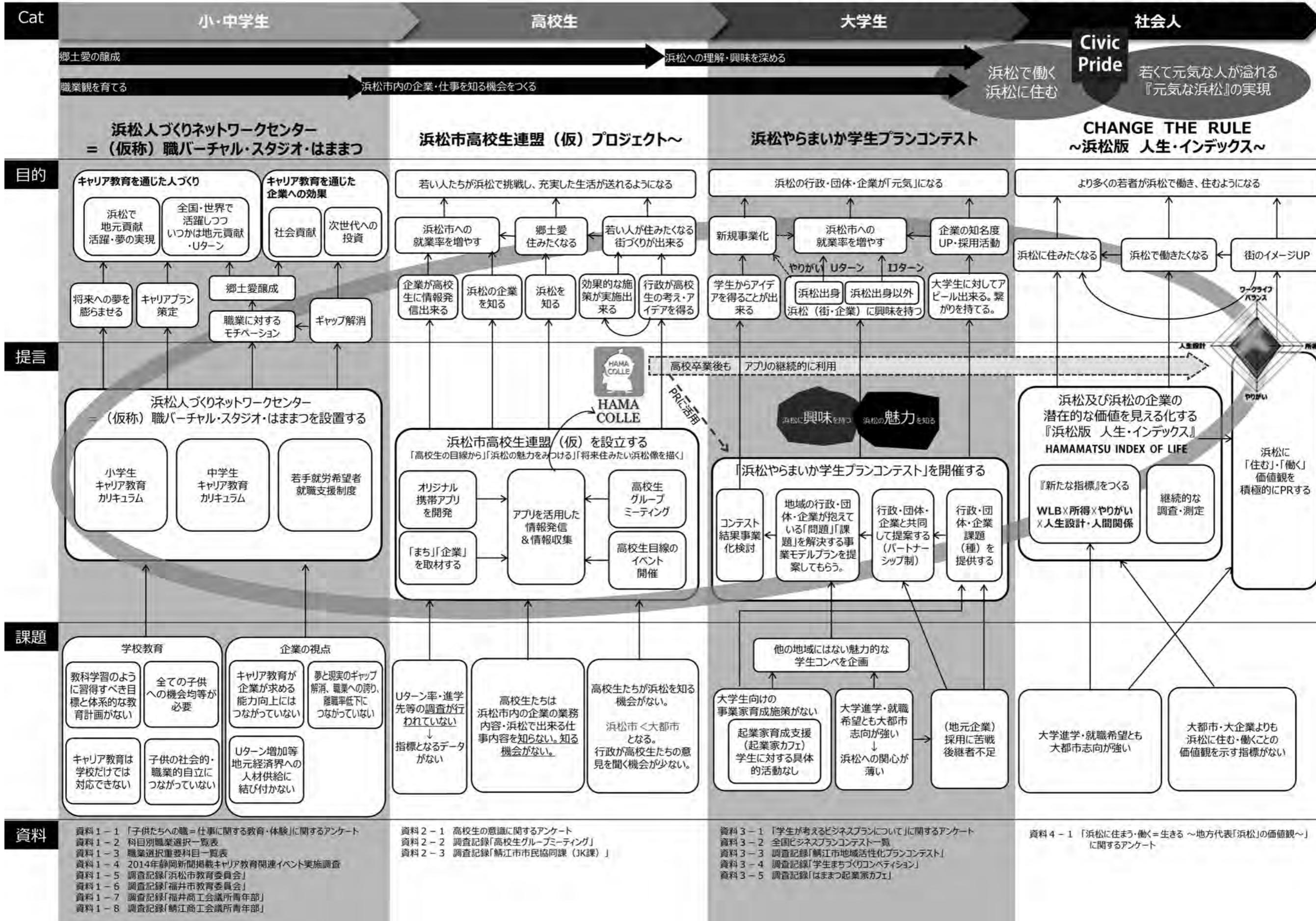
= **シビックプライド (Civic Pride) の醸成** あります。

「シビックプライド」を持った市民がより多くなることで、地域が元気になり、より地域の魅力・価値が高まります。そして、そんな地域「浜松市」はいつでも「若くて元気な人」が集まる「元気な地域」となるでしょう。これこそが私たちが目指す **HAMAMATSU STYLE** です。



(図-4) HAMAMATSU STYLE

ちいき。げんき。ひとづくり。戦略マップ



卷末資料

(共通)

参考資料

(提言 1)

資料 1-1 アンケート「子供たちへの職=仕事に関する教育・体験」

資料 1-2 科目別職業選択一覧表

資料 1-3 職業選択重要科目一覧表

資料 1-4 2014年静岡新聞掲載キャリア教育関連イベント実施調査

資料 1-5 調査記録「浜松市教育委員会」

資料 1-6 調査記録「福井市教育委員会」

資料 1-7 調査記録「福井商工会議所青年部」

資料 1-8 調査記録「鯖江商工会議所青年部」

(提言 2)

資料 2-1 アンケート「高校生の意識調査」

資料 2-2 調査記録「高校生グループミーティング」

資料 2-3 調査記録「鯖江市 J K 課」

(提言 3)

資料 3-1 アンケート「学生が考えるビジネスプランについて」

資料 3-2 全国ビジネスプランコンテスト比較表

資料 3-3 調査記録「鯖江市地域活性化プランコンテスト」

資料 3-4 調査記録「学生まちづくりコンペティション」

資料 3-5 調査記録「浜松市起業家カフェ」

(提言 4)

資料 4-1 アンケート「浜松市に『住む』・『働く』価値観に関する意識調査」

「浜松に住もう、働く=生きる～地方代表「浜松」の価値観～」

(記録写真) ・視察研修（富山市、福井市、鯖江市）

・委員会活動状況（例会、小委員会、政策提言発表会他）

参考資料

【公文書・公開資料・広報資料等】

- 日本創生会議・人口減少問題検討分科会『ストップ少子化・地方元気戦略』(2014年)
国土交通省・国土審議会政策部会長期展望委員会「『国土の長期展望』中間とりまとめ」(2011年)
国土交通省・国土交通局『国土の長期展望に向けた検討の方向性について』(2010年)
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計(平成24年1月推計)」(2012年)
国立教育政策研究所『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書』(2013年)
中小企業庁『産業競争力強化法に基づく創業支援の促進について』(2014年)
中小企業庁『平成23年度ビジネスプランコンテスト事例調査』(2012年)
浜松市・企画調整部企画課『浜松市の将来人口推計(平成25年3月推計)』(2013年)
浜松市『浜松市総合計画』(2015年)
浜松市・企画調整部企画課『浜松市人口ビジョン浜松市総合戦略策定方針』(2015年6月21日)
浜松市『浜松市“やらまいか”総合戦略』(2015年)
浜松市『浜松市“やらまいか”人口ビジョン』(2015年)
浜松市教育委員会『第3次浜松市教育総合計画 はままつ人づくり未来プラン』(2015年)
静岡新聞
第一生命経済研究所『大学3年生の就職に対する取り組みや意識に関する調査』(2013年)
マイナビ『2016年卒マイナビ大学生就職意識調査』(2015年)

【参考書籍】

- 増田寛也著『地方消滅』中央公論新社(2014年)
伊藤香織+紫牟田伸子編『シビックプライド』宣伝会議(2008年)
藤吉雅春著『福井モデル 未来は地方から始まる』文藝春秋(2015年)
東大社研・玄田有史編『希望学 あしたの向こうに—希望の福井、福井の希望』東京大学出版会(2013年)
志水宏吉・前馬優策編『福井県の学力・体力がトップクラスの秘密』中公新書ラクレ(2014年)

【取材協力】

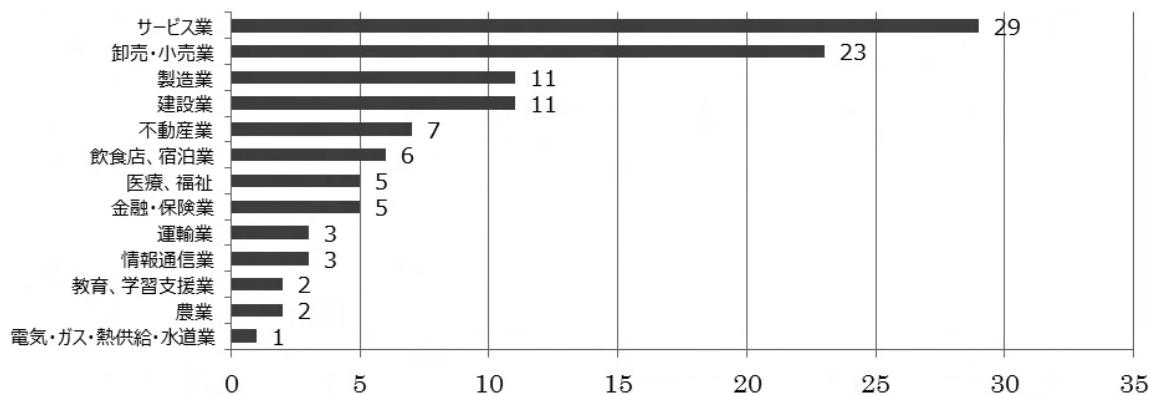
- 浜松市 <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/>
浜松市教育委員会 <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/kyoiku/kyoiku/index.html>
静岡県立浜松北高等学校 <http://www.edu.pref.shizuoka.jp/hamamatsukita-h/home.nsf/>
静岡県立浜松西高等学校 <http://www.edu.pref.shizuoka.jp/hamamatsunishi-h/home.nsf/>
静岡県立浜松南高等学校 <http://www.edu.pref.shizuoka.jp/hamamatsuminami-h/home.nsf/>
浜松市立高等学校 <http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/ichiritsu-h/>
学校法人日本体育大学 浜松日体高等学校 <http://www.h-nittai.ed.jp/high/>
学校法人信愛学園 浜松学芸高等学校 <http://www.gakugei.ed.jp/high/>
富山商工会議所青年部 <http://www.toyama-yeg.jp/>
福井商工会議所青年部 <http://www.fcci.or.jp/fyeg/>
鯖江商工会議所青年部 <http://www.sabaeyeg.jp/>
福井市教育委員会 <http://www.city.fukui.lg.jp/dept/d620/>
鯖江市 <http://www.city.sabae.fukui.jp/>
鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会 <https://sabae-plancontest.jp/>
しんきん経済研究所 <http://shinkinkeizai.jp/>
一般社団法人ぽっぷちゃいるど <http://park17.wakwak.com/~popchild/>
未来学校 <http://mirai-jyugyou.com/>
浜松まちなかにぎわい協議会 <http://www.hamamachi.jp/machinaka/>

【ホームページ】

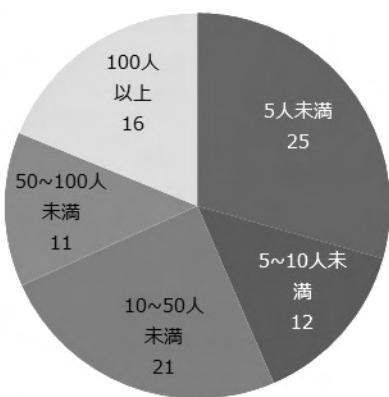
- 浜松市ホームページ(人口データ等) <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/>
Google <https://www.google.co.jp/>

調査記録	資料 1 - 1
テーマ	「子供たちへの職=仕事に関する教育・体験」に関するアンケート
実施日	2015年10月22日～27日
調査協力	浜松商工会議所青年部会員 85名
調査方式	無記名、選択式（一部コメント記載あり） Google フォームを利用

Q1. 該当する業種を回答下さい（複数回答可）。



Q2. 該当する従業員数を回答下さい。



システムエンジニア、プログラマー、調理師、鉄道運転士、鉄道整備士、バス運転手、中古車査定士、医師、看護スタッフ、作業療法士、介護スタッフ、相談員、ケアワーカー、先生、清掃人、美容師、エステティシャン、セラピスト、マッサージ師、スポーツインストラクター、カメラマン、社会保険労務士、行政書士、中小企業診断士、管理業務主任者、ファイナンシャルプランナー（総計 238）

Q4. 自社または自分が参加されている NPO 等で職場体験をはじめとした「子供たちへの職=仕事に関する教育・体験」に取り組まれていますか？

Q3. 社内にある職種を回答下さい（複数回答可）。

- (39人) 営業
- (34人) 事務（総務・人事・経理・広報・購買・仕入・施設管理等）
- (21人) 販売員・店舗スタッフ・ホールスタッフ
- (9人) 建築士・製品開発・組立・品質管理・製作業員
- (7人) 建築施工管理技士
- (6人) 配達員
- (5人) 料理人・自動車整備士・営業事務・税理士
- (4人) 建築積算士・介護福祉士・広告デザイナー・グラフィックデザイナー・クリエイティブディレクター
- (3人) 現場監督・トラック運転手・看護師・介護支援専門員・イベントスタッフ・保険募集人
- (2人) 土木施工管理技士・測量士・建設作業員・電気工事士・管理栄養士・理学療法士・バイヤー・ネイリスト・警備員・公認会計士・宅地建物取引士・不動産コンサルティング技能士・経営コンサルタント
- (1人) 生育管理者・大工・溶接工・ソフトエンジニア



Q5. (Q4. で「はい」と答えた方に質問します。)

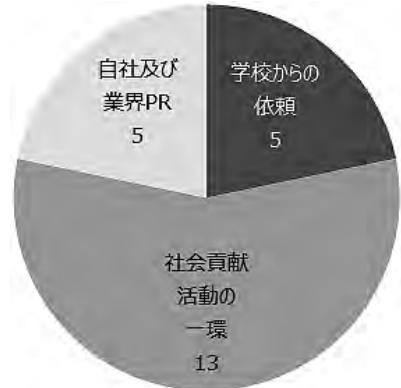
取り組まれている内容を回答下さい。

- (回答数15) 中学校職場体験
- (回答数 6) 高校出張授業
- (回答数 4) 大学インターンシップ
- (回答数 3) 現場見学
- (回答数 2) まちゼミ
- (回答数 2) わくわく探検隊
- (回答数 1) 小学校課外授業受入れ、トップガン教育、高校職場体験、高校インターンシップ、教育実習生受入れ（社協）、工場見学、体験会、アスファルトプラント見学会、太陽光発電所見学会、遠州焼き教室、自分が行っている文化活動内のイベントでワークショップ、食育講座、金融教室、福祉教育、撮影会、夏休みまるごとアカデミー 2015、はまワクキッズ、未来授業（総計 50）

Q6. Q4. の回答に対する理由を回答下さい。

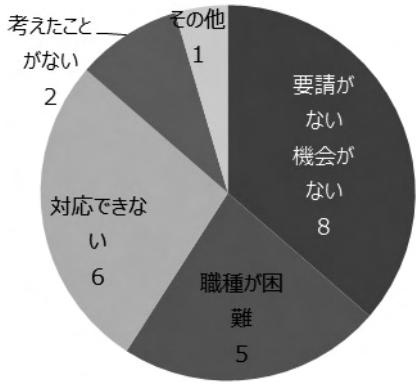
（はい）

- ・建設分野を履修していても、他分野へ就職してしまう学生が多く、少しでも建設業の魅力を伝えたいため。
- ・表のスマートな部分だけでなく、裏方のいろんな方が支えてお客様のお迎えからお見送りまでできていることを教えていている。
- ・CSRの一環として。また、公共工事では評価点UPとなるため。
- ・どんな想いで何を取るかの大切さを知ってもらうために行っています。
- ・学校からの依頼で。
- ・学校からの要請ですが…
- ・学校教育だけでは学べない部分を体験させてあげて、働く大人になってもらいたいので。
- ・協力できることがあれば協力します。
- ・建設産業への理解と未来の技術者育成のため。
- ・行政・学校からの参加・受け入れの要請に応えるため。
- ・仕事内容を理解してもらうため。
- ・子供たちに仕事の体験をしていただき、将来を考える一助になれば幸いと思っております。
- ・子供たちに福祉の大切さや福祉自体のことも知ってもらいため。
- ・事業基盤である静岡県西部地域を担い、弊社にとっても次世代の従業員または顧客になりうる人材の育成のため。
- ・自社 PR。製造業の現場を希望する若者が少ないと聞き、危機感を感じたため。
- ・自社職種（警備）の認知のため。
- ・自分の子供に体験させたい、取り組む側の立場からも関わりたい。
- ・社会貢献活動の一環
- ・地域貢献、学校からの要望
- ・浜松学院大学のインターンシップ担当の先生と浜松商工会主催の名刺交換会で知り合い、インターン受け入れを依頼されたため。
- ・未来を作っていくのは子供であり、その成長にはすべての人が関わる責任があると感じているから。
- ・自分の子供が生きていられるのは世の中の仕組みに助けられているから。その世の中に少しでも恩返ししたいと考えているから。
- ・未来を担う子供たちが夢に向かって実現できるようにお手伝いができたらと思ったので。

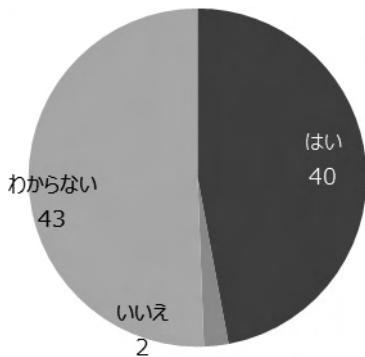


（いいえ）

- ・1人で経営してゐるため、時間等の余裕がない。
- ・NPOとの関わりがない。
- ・NPO等に属しておらずオファーがないので行っていない。
- ・トラックへの体験乗車も考えましたが、不測の事態が発生した場合、現在加入の保険では賠償できないため。
- ・会社としてそこまで成熟していないため。
- ・開業したばかりで、そういう機会がないため。
- ・機会があれば検討したいと思います。
- ・機会がないから。
- ・現場体験は困難な業種のため。
- ・個人事業のため。
- ・今後は前向きに考えて行きたいと思いますが、今まで考えたことがありません。
- ・受け入れをしたい気持ちはあるが、子供にとって非常に分かりにくい仕事であり、それを体験するといつても一部の倉庫整理・配達であって、主たる業務ではそれを体験すること、教えることが難しい。
- ・所属する団体等で協力要請があれば参加を検討しますが、自社の取組みとしては計画していない。
- ・身近な問題ではないため、取り組むための人員が確保できていない。
- ・中学生・高校生の職場、体験受け入れの検討をしたことはあるが、受け入れ人数や時期等の条件や状況がうまく合わないと受け入れが出来ないのが実情。
- ・当社において、今まで就活生の段階になった学生に対して初めてアプローチをするということを行っていたため、更に若い世代に対して向き合うという概念がなかった。また、当社は商社・卸であるが比較的専門商社の位置付けにあり、また得意先の工場に入り現場における技術サービスを提供しているのだが、その業務内用が専門的過ぎて、例えば「職業体験」で実演しようと思っても、現場作業の疑似体験が難しいと考えている。
- ・特にやることもないし、要請もないから。
- ・弊社の業務は煩雑かつ制限（食品衛生法等）があるため取組みするのが困難です。
- ・弊社は小さな会社のため、取り組みたくても取り組めない。
- ・要望があれば参加する方針ではありますが、これまでのところそういう話がないため。
- ・要望もないため。
- ・零細企業のため、本業（売上など）優先で活動しており、CSR活動は二の次になっています。



Q7. 行政等が「子供たちへの職=仕事に関する教育・体験」カリキュラムを作成し、講師をはじめとした協力を要請された場合、自社または自身が参加されているNPO等で協力しますか？

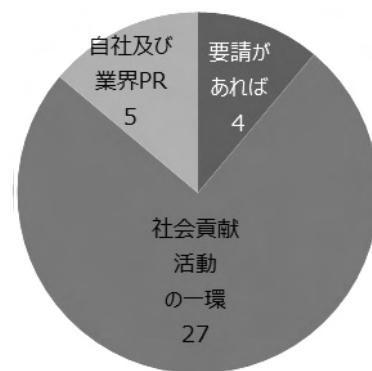


Q8. Q7. の回答に対する理由を回答下さい。

(はい)

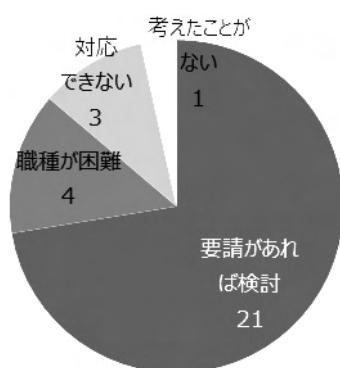
- 建設業に興味を持ち、職業として選択してもらいたいから。
- 子供たちに不動産業への理解を深めてもらうきっかけづくりとして。地域の次世代人材育成への貢献として。
- 自分が独立することができたことへの社会的恩返し。労働の素晴らしさを伝えたい。
- CSRの一環として。
- 建設業への就業者促進効果を期待して。
- 未来を作っていくのは子供であり、その成長にはすべての人が関わる責任があると感じているから。自分の子供が生きていられるのは世の中の仕組みに助けられているから。その世の中に少しでも恩返ししたいと考えているから。
- お役に立てるのであれば、積極的に引き受けすると思います。
- これから未来を作る子供たちにいろいろ教えてあげたい。
- できる限りの協力はするつもりである。
- 各小学校などでも職場体験が行われていますが、子供にとって楽しいだけではなく、新しい知識ともなり、とてもよいことだと思っています。より幅広い職種に、常に触れるチャンスがあることは大切なことだと思います。
- 学校へ行っている時期に少しでも働くことの意義ややりがい、大変さを知り、体験できたら、その後の進路や職業の選択に多少なりともプラスになると考えます。

- 企業の社会的責任の一つとして、できる範囲内の協力となります。
- 貴重な機会として子供たちに少しでも伝えられたらと思うからです。
- 業界の将来のためになるから。
- 近年スポーツ選手の活躍やマスコミの影響で、将来の夢がスポーツ選手の小学生が増えているが、昔あったNHK「はたらくおじさん」(働くことの大切さや各職業の社会的役割、誇りやプライドを持つことのカッコ良さを伝える)のリアル体験版があつても良いと思う。
- 仕事の楽しさを教えられたらと思います。
- 仕事を「生活のために仕方なくやるもの」ではなく、全ての仕事が世の中の役に立つことであり、やりがいがあることだと伝えていくべきと考えます。また、静岡県の人口減少対策として、魅力ある地元企業、仕事を知ってもらうことも重要なと思います。
- 仕事内容を理解してもらうため。
- 子供たちが知らない職業なので、もっと知ってもらいたいから。
- 子供に関心があるから。
- 子供の熱意と意見、興味を知りたいから。
- 子供たちの将来、自社の将来のために今できることはしたいから。
- 事業基盤である静岡県西部地域を担い、弊社にとっても次世代の従業員または顧客になりうる人材の育成のため。
- 自社PR、人材確保などメリットがあると考えるため。またワークショップなどをするに当たり、自信の技術のブラッシュアップができる。
- 自分の子供にも体験して欲しいから。
- 写真家を目指す人を育てたい。
- 社会貢献活動
- 従来通り、話し合いにて応じる。
- 将来の日本に繋がることだと思うから。
- 小規模な支援からのスタートとなります。
- 常に継承は重要であると考えているため。
- 世の中のお役に立てることであれば協力したいと思います。
- 当社の業務内容及び仕事という狭義な観点ではなく、広義において仕事という概念や仕事というものに触れさせることができ若年層の教育において、重要であると考えているため。
- 当社の仕事である不動産業は、地域に根差した職業形態であり、将来を担う子供たちに仕事を通じて地域に役に立つという職業観を学んでほしいため。
- 未来の弊社のスタッフになって欲しいから。
- 要請されたら断る理由がない。

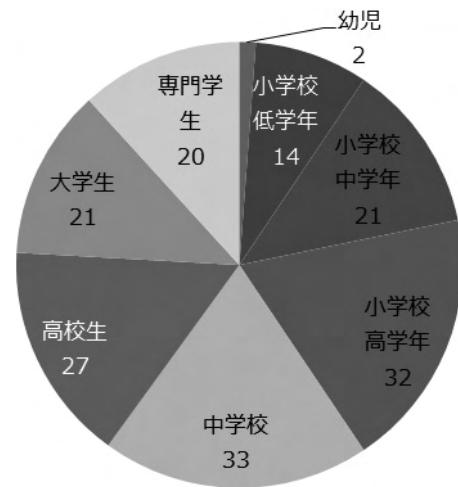


(いいえ)

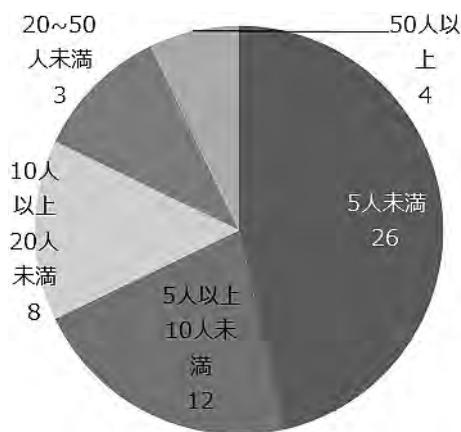
- 受け入れをしたい気持ちはあるが、子供にとって非常に分かりにくい仕事であり、それを体験するといつても一部の倉庫整理・配達であって主たる業務ではそれを体験すること、教えることが難しい。
- (わからない)
 - をやって欲しいということであれば…
 - にかやってと言われても、特に思い浮かばないから。
 - 詳細内容を確認させて下さい。
 - すでにしているから。
 - そのような取り組みに参加したことがない。
 - できる部分を確認してできる部分はご協力させていただきます。
 - ノウハウがないため、一からカリキュラムを作らなくてはならない。けれども、現状ではカリキュラムを作るためにまとまった時間を見ることが難しい。
 - 営業の仕事をどうやって体験してもらうか工夫がいるため。
 - 可能な協力であれば喜んで協力致しますが内容な不確定のため安易に協力するとはいえないため。
 - 会社規模が小さいため、その時の状況によってはお断りさせていただくかもしれません。
 - 機会があれば検討したいと思います。
 - 協力できる内容であれば協力したいが…
 - 具体的なカリキュラムが提示されていないため。
 - 経営者の判断になります。
 - 現場の状況によるから。
 - 講師としての資質や技術な未熟なため。
 - 仕事が、少し専門性があるため受け入れても、出来る仕事があるかわからないから。
 - 子供たちに体験させれるような職種ではないため。
 - 時間がかかりすぎる場合は、協力できない。
 - 自分自身の能力が有れば協力したい。
 - 実際に依頼がきたときに考えたいため。
 - 条件、状況による。
 - 創業してまだ1年程度で受入体制等に余裕がなく検討をするため。
 - 内容が自社の仕事の内容や、人員をあてることができるか等の運営方法とマッチするかどうかによる。
 - 内容にしますが、条件が揃えば協力したいと考えます。
 - 内容によっては可能性もあります。
 - 内容によるため。
 - 負担がどの程度のボリュームなのか不明なため。
 - 法律関係の専門職のため仕事内容の説明は可能ですが、体験となると法律の講義に主眼が置かれ、授業のようになってしまう可能性が高く、協力できることが限られるため。



Q9. (Q7. で「はい」と答えた方に質問します。) 自社または自分が参加されている NPO 等で現在取り組まれている、または今後取り組まれる場合に想定される「子供たちへの職=仕事に関する教育・体験」の受入年代を回答下さい (複数回答可)。

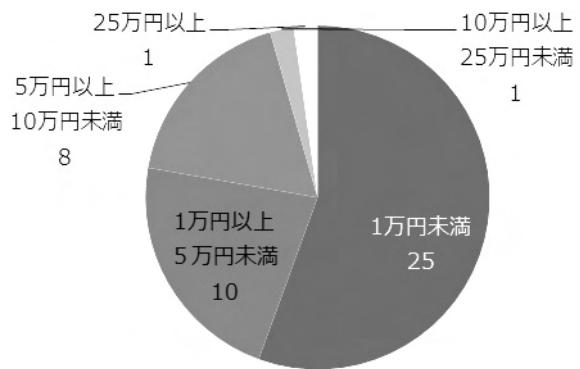


Q10. (Q7. で「はい」と答えた方に質問します。) 自社または自分が参加されている NPO 等で現在取り組まれている、または今後取り組まれる場合に想定される「子供たちへの職=仕事に関する教育・体験」の受入人数を回答下さい (複数回答可)。

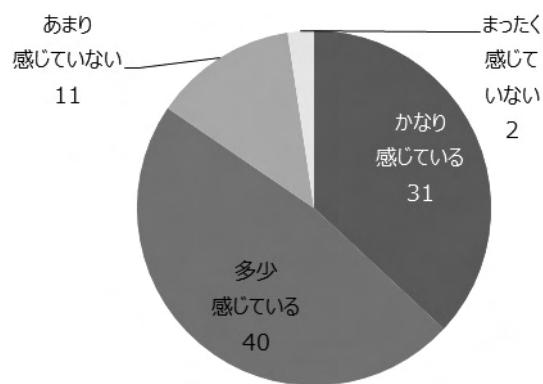


Q11. (Q7. で「はい」と答えた方に質問します。) 自社

または自分が参加されている NPO 等で現在取り組まれている、または今後取り組まれる場合に想定される「子供たちへの職=仕事に関する教育・体験」の自己負担許容額を回答下さい (複数回答可)。

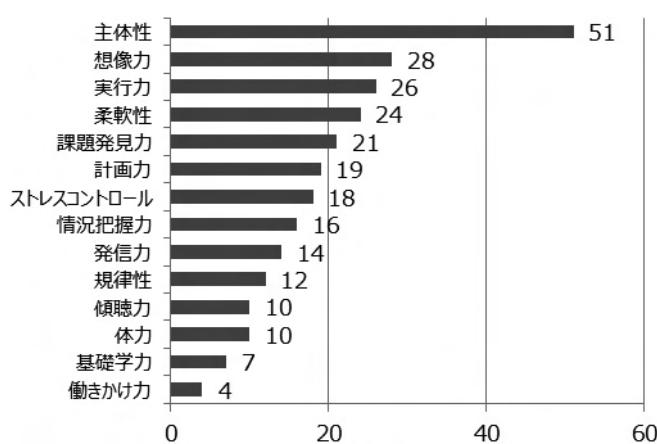


Q12. 現在、自社において人材不足を感じていますか？



Q13. 採用活動を行う際に求める人材に必要な能力の中で不足していると感じている能力はありますか？

(複数回答可)※経済産業省「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事をしていく上で必要な基礎知識的な能力」より



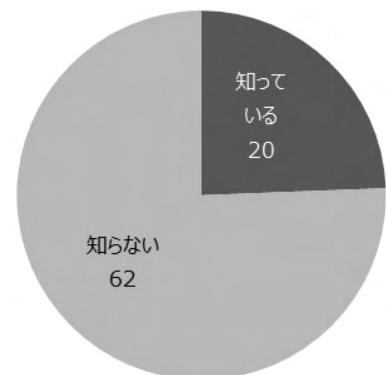
(自由回答)

素直さ 2

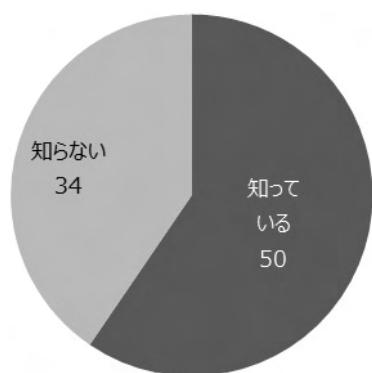
コミュニケーション、文章力、事務・経理、自己分析、我慢、モラル、協調性、向上心、努力する力、根性各 1

Q14. 浜松市教育委員会では、第3次浜松市教育総合計

画「はままつ人づくり未来プラン」を策定しました。この計画は、平成27年度から平成31年度までを基本計画期間とし、教育理念として「未来創造への人づくり」、「市民協働による人づくり」を掲げています。「はままつ人づくり未来プラン」及び教育理念を知っていますか。



Q15. 浜松市各中学校では、中学生の職場体験として主に中学校2年生時に3日程度、企業受入れによる職場体験を実施していますが、そのような取り組みを行っていることを知っていますか？



科目別職業選択一覧表

資料 1-2

(小学生版)

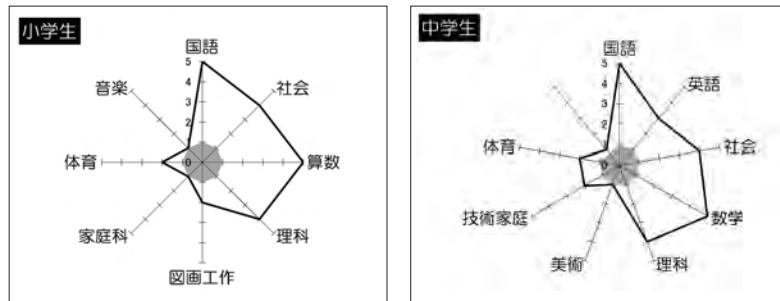
科目		職業
国語	↔	・教員 　・作家 　・作詞家
社会	↔	・運転士 　・運転手 　・鉄道、運輸関係 　・パイロット
算数	↔	・建築家 　・ゲームクリエーター
理科	↔	・医師 　・研究者 　・宇宙飛行士 　・花屋 ・薬剤師 　・獣医師
図画工作	↔	・大工 　・技術者 　・アニメキャラクター 　・おもちゃ屋 ・デザイナー
家庭科	↔	・ケーキ屋 　・パン屋 　・調理師 ・美容師
体育	↔	・スポーツ選手 　・消防、レスキュー隊
音楽	↔	・歌手 　・作曲家

(中学生版)

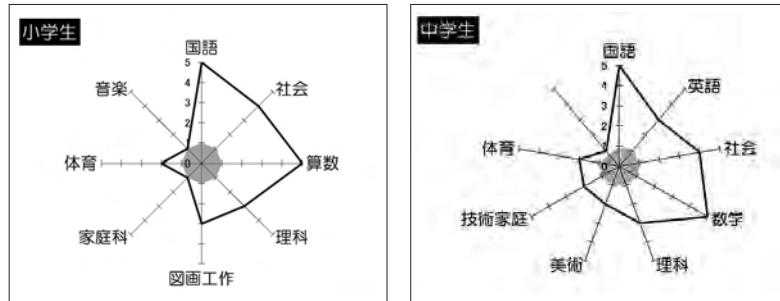
科目		職業		
国語	↔↔	・コピーライター ・WEBデザイナー	・プロードバンド ・音楽雑誌制作ライター	・小説作家 ・教員
英語	↔↔	・インストラクター ・通訳者	・コーディネーター ・翻訳者	・英文事務 ・教員
社会	↔↔	・考古学者 ・裁判官	・地理学者 ・弁護士	・歴史学者 ・教員
数学	↔↔	・ゲームクリエイター ・人工衛星開発者	・ロボットクリエイター ・地域医療	・診療情報管理士 ・教員
理科	↔↔	・医療品分析スタッフ ・薬店経営 ・再生医療技術者 ・自然アウトドアガイド ・醸造、発酵技術者 ・教員	・化粧品開発スタッフ ・DNA研究 ・整形靴技術者 ・獣医、看護師 ・食品開発者	・薬局スタッフ ・義肢装具士 ・フローリスト ・ガーデンデザイナー ・分析スタッフ
美術	↔↔	・マンガ ・舞台美術デザイン ・インテリアデザイン ・服飾雑貨デザイナー ・グラフィックデザイナー	・雑誌デザイナー ・アニメ ・イラストレーター ・WEBデザイナー（デザイン業界）	・小説作家 ・ノベル ・広告デザイナー
技術家庭	↔↔	・ペットシッター ・シェフ ・飲食店経営、勤務 ・産業技術者 ・舞台照明	・ドッグカフェ、ペットファッショ ・バーテンダー ・洋菓子職人 ・臨床検査技士 ・再生医療技術士	・製パン職人 ・和菓子職人 ・臨床工学技士
体育	↔↔	・言語聴覚士 ・鍼灸師 ・スポーツインストラクター	・視能訓練士 ・バレエダンサー	・柔道整復師 ・スポーツトレーナー ・教員
音楽	↔↔	・ゲーム音楽作曲、編曲 ・プロデューサー、プロモーター ・教員	・デスクトップ音楽制作 ・映像音楽作曲、編曲	・ミュージシャン

職業選択重要科目一覧表

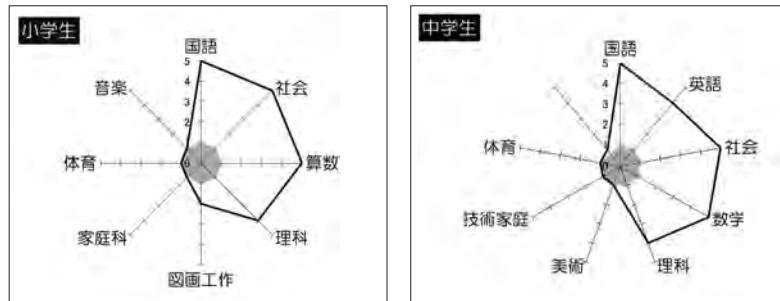
(普通を「1」とした5段階評価)



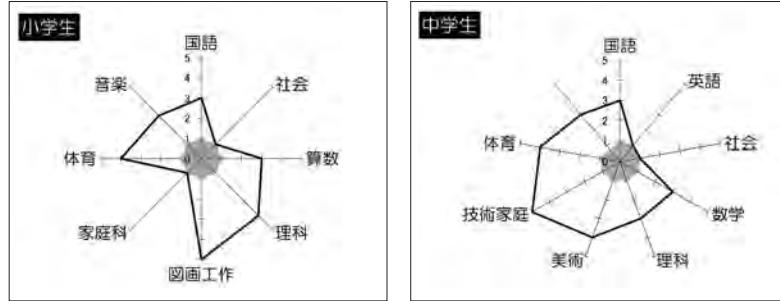
事務職（経営企画）



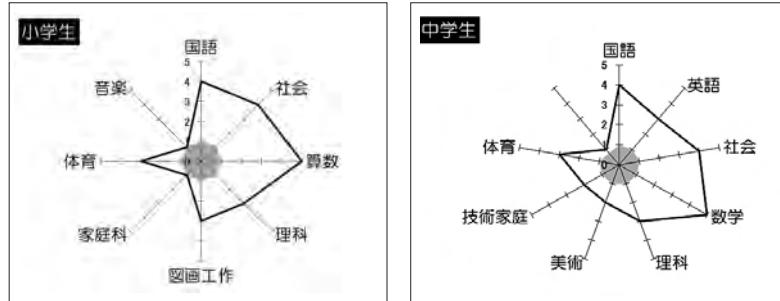
職業（職種） (不動産業) 総合営業職



金融機関



溶接工



営業・店舗スタッフ

2014年静岡新聞掲載キャリア教育関連イベント実施調査

イベント名	主催団体	共催	参加企業数	参加人数	対象	開催日(掲載日)	場所(主会場)	主な内容
与作ツアー	天竜T-S巧の会		1社	50人	大人から子供(有料)	1/25	天竜新材月センター	天竜区山林でスギヒノ伐採体験と製材工場見学
110番教室	天竜警察署	水窪小学校	1団体	21人	小5~6	1/10	水窪小学校	通信司令官になって110番通報の模擬体験
出前講座	地方検察庁浜松支部	中部中学校	1団体	100人	中3	1/23	中部中学校	検察官の役割や裁判の仕組み見学
かんなかけ体験	アキュラホーム	竜祥寺小学校	1社	67人	小5	1/29	竜祥寺小学校	かんなかけを通じ、木のものづくりの魅力を学ぶ
キッズチャレンジビジネス	浜松市教育委員会	元城小学校	市内商店企業	30人	小6	2/23	ザザシティ浜松	木工製造販売会社から商品製作販売を、地域商店から接客を学び、自作の工作品販売をザザシティで販売
子供向け体験型ワークショップ	アートスタジオプロジェクト	文芸大大学院 山口典子氏		30人	児童	3/3	二俣小学校	体を使った遊び体験 あそびしまなみのアートプログラムマテリアル事業の一環として開催
エコクッキング	中部ガス出前講座	中部ガス	1社	70人	小5	3/13	東小学校	エコ調理・レシピを学び、白玉団子を作る
ごども未来大学	教育事業者 北村総合研究所			14人	小6	3/20	小学校	市内の観光マップを作成
サイエンスイズ作り講座	サイエンスイズ	光産業創成大学大学院 林田亮氏		6人	小4~5	3/23	中区布橋	子どもの物作りと科学への興味を持ってもらうことを目的に講座や塾を開催
静岡新聞編集局出前講座	静岡新聞 静岡放送			140人	中3	4/15	鏡岡中学校	新聞社の取材の仕事と学び修学旅行の成果につなげる講座
お茶飲み体験	花川小学校			8人	小6	4/24	市内茶畑	総合学習の一環として農業体験
ユネスコ科学教室	浜松市・浜松UNESCO協会			135人	小5~6	4/30	浜松科学館	市内3校による募集、年内全9講座
ガーベラ生産の現場見学	JA とびあ浜松			157人	小5	5/3	西区ビニールハウス	ガーベラ生産について講話と体験
クラシック演奏	浜松市文化財団	NPO 子供に音楽を		109人	小4~中1	5/9	赤岩小学校	プロ演奏家による演奏と講話
福祉教育講座	天竜厚生会	水窪中学校		11人	中1~中3	5/9	天竜厚生会研修センター	障害者施設での実習や研修
ようこそ飯田の先輩	飯田小学校			114人	小6	5/14	飯田小学校	卒業生の大教授高橋宏さん講演
豆腐通り体験	JA とびあ浜松			108人	中1	5/16	龍王中学校	豆腐通り体験
WAZAチャレンジ教室	静岡県			74人	中2	5/23	光ヶ丘中学校	料理、アートモザイク、こて砂絵体験
おもしろエンジン実験室	浜松科学館	おもしろエンジンラボ		18人	小4~中1	5/28	浜松科学館	モーター組み立て講座
梅の実収穫体験	上阿多古小学校			23人	小1~小6	6/5	農園	梅の収穫、ジース作り体験
夢力講演会	開成館中学校・高校			1,100人	中1~高3	6/6	開成館中学校・高校	元フライ級チャンピオン内藤氏による講話
次世代産業家育成事業	水窪中学校	社会保険労務士入口ーム		40人	中1~中3	6/6	水窪中学校	社会保険労務士による起業の講話
編集局出前講座	静岡新聞			46人	小5	6/14	船越小学校	新聞記者による記事の書き方講座
編集局出前講座	静岡新聞			220人	中2	6/15	東部中学校	新聞記者による記事の書き方講座
茶葉手もみ	熊切小学校	周智茶手揉保存会		18人	小1~小6	6/19	熊切小学校	茶葉手もみについての講習、体験
職場体験	浜名商工会	猿原中学校		140人	中2	6/19	各所	30ヶ所に分かれて職場体験
手作りカート組立教室	CSN 浜松			40人	小5~中3	6/22	浜松科学館	車の構造についての講義、組立、試乗
生き方講座	西部中学校			400人	中1~中3	6/23	東部中学校	各種職業21名が講師を務め、職業観を学ぶ
編集局出前講座	静岡新聞			41人	小4	6/24	二俣小学校	新聞記者による記事の書き方講座
編集局出前講座	静岡新聞			110人	小5	6/27	芳井小学校	新聞記者による記事の書き方講座
職業講話	三日中学校			114人	中2	6/28	三ヶ日中学校	フォーラント社長による仕事についての講話
はまちゅうさんけんたい	浜松中央署			79人	小4	7/9	浜松中央署	警察の仕事理解のため署を見学
未来授業!	遠州ありがとうの会			130人	中2	7/16	浜松市立北部中学校	仕事の魅力を紹介、将来的夢について相談
編集局出前講座	静岡新聞社			80人	小4	7/17	佐鳴台小学校	新聞の作り方や記者の仕事について学ぶ
茶の入れ方教室	春野中学校			28人	中1	7/17	春野中学校	茶の歴史や種類、入れ方のつを学ぶ
そば打ち体験	熊小学校			8人	小1~6	7/22	道の駅「くんま水車の里」	そば打ち体験
編集局出前講座	静岡新聞社			40人	中1~3	7/24	水窪中学校	記事の書き方や取材の方法を学ぶ
西区夏休みチャレンジボランティア	浜松市社会福祉協議会西地区センター			90人	西区中・高7校	7/25	雄踏文化センター	高齢者・障害者施設で奉仕活動
わくわく大探検隊	社団法人ぼくちやいるど		7社	120人	小3~6	7/30	都田中学校	地域を代表する企業への職業体験を通して地元の産業に触れるイベント
キッズまちなか探検隊	静岡新聞社・静岡放送		1団体	10人	小4~6	8/1	静岡新聞社・静岡放送系税理士	新聞やラジオの制作を学ぶ
ちよこっとボランティア	浜松市社会福祉協議会		1団体	500人	中高	8/1~21	市内28施設	ボランティア体験から福祉への関心を高める
キッズまちなか探検隊	遠州信用金庫		1社	40人	小	8/2	遠州信用金庫	おのれの考え方
子ども向け体験イベント	スズキ株式会社		1社		児童	8/2~3	スズキ歴史館	ものづくり体験
静新BS5チャレンジクラブ2014	静岡大電子工学研究所	静岡新聞社・静岡放送	1団体	60人	小3~6	8/3	静岡大学電子工学研究所	ペットボトルを活用した顕微鏡作り他
キッズまちなか探検隊	浜松信用金庫		1社	60人	小	8/3	銀行の業務体験	
浜北とよかんたんけんたい	浜北図書館		1団体	60人	小	8/4	浜北図書館	閉架の見学、司書の仕事を学ぶ
親子技術体験教室	静岡県浜松工業技術支援センター	浜松ものづくりマイスター	1団体		児童	8/5	静岡県浜松工業技術支援センター	各種工業技術を活用した体験や実演
地震に備えるには	浜松市立災害ボランティアコ-ディネーター連絡会		1団体	20人	小	8/5	金指児童クラブ	災害園上体験
開館20周年記念館内見学会	アクトシティ浜松	まちなかにぎわい協議会		88人	小4~6	8/5	アクトシティ浜松	ホールやまちのての仕事体験
再生エネルギーを学ぶ見学会	浜松市	矢崎エナジーシステム	1社	16人	小	8/6	矢崎エナジーシステム	企業見学(太陽熱施設)
青少年のための科学の祭典2014浜名湖大会	実行委員会	静岡新聞社・静岡放送	1団体	200人	児童	8/7	雄踏文化センター	標本作りや琥珀磨き
スマセイ・キッズ参観日	住友生命浜松支社		1社	13人	従業員児童	8/7	住友生命浜松支社	名刺交換、電話応対、生命保険の仕組み説明
わくわくタイムリーザークラブ体験	浜松市社会福祉協議会浜北地区センター		1団体	5人	児童	8/12	ななみ浜北	障害のある子どもに向けたリーザークラブ教室
夏休み夢会議	浜松市			57人	中	8/22	浜松市議会本会議場	浜松市が抱える課題の解決策を市長や市幹部に提案
職業体験教室	聖隸クリストファー大学		1団体	90人	小中	8/23	聖隸クリストファー大学	看護、リビリテーション、福祉、保育士・幼稚園教諭の4分野体験
お仕事体験講座	東海ビル管理株式会社	静岡新聞社・静岡放送	1社	90人	小	8/27	モードル・ヨウジ	コーヒーチョップ店員、バイオット、警察官など10種職業の体験
ふじのくに子ども芸術大学	実行委員会		1団体	160人	小中	8/30	クリエート浜松	すくしり、ゲームのプログラミング
開校式	浜松IT キッズプロジェクト推進会議			24人	小3	9/8	静岡大学浜松キャンパス	半年間ロボット製作基礎やプログラミング習得に必要な算数などを学ぶ
未来授業!	開成中学校	遠州ありがとうの会		230人	中2	10/4	開成中学校	総合学習の一環、講話
キャリア教育講座	舞阪小学校			96人	小6	9/17	舞阪小学校	幼稚園教諭、消防士、鉄道社員講話
青空スタジオレポーター俱楽部	浜松まちなか青空スタジオ事務局			30人	小中	9/27	二コエ	取材等リポーター体験
職場体験学習	浜松開誠館中学校			95人	中2	10/24	浜松開誠館中学校	福祉分野について講話
稻の収穫作業	水窪小学校			10人	小5	10/24	水窪町	稻の収穫作業
職業体験	浜松建設業協会			80人	親子	10/25	浜松市南区	重機の操作体験
ロボット製作体験	IT ロボット塾				小2~中2	10/26	ITロボット塾	ロボット製作体験
職業体験実習	浜北北部中学校			189人	中2	10/28,29	各所	ホテル、スーパー、書店、造園等職場体験
市子ども山間地交流事業	西小学校		数社	40人	小5	11/1	西小学校	林業・農業、2泊3日の宿泊体験
ハマワクキッズ	浜松市会議事務所青年部	静岡新聞社・静岡放送	50社以上		小4~6	11/9	アクトイベントホール	50種類の職業体験
夢を語ろう集会	飯田小学校		2人	700人	小	11/5	飯田小学校	年1回夢をかなえた人に講義
子供エスティバル	浜松市立病院大師部		1校		~小低	11/9	浜松市立病院大師部	将来なりたい職業を遊びながら体験
収穫祭	うなざいちら組合			80人		11/8	南区農園	作業の手順確認や周知の為に体験
双葉小一笑顔に自信を』	遠州鉄道		1社		小6	11/5	遠鉄百貨店	起業家体験事業
第19回テクノフェスタin浜松	静岡大学		1校	20組	親子	11/8	静岡大学浜松キャンパス	面白実験で科学の面白さを教える
第19回「静岡大学テクノフェスタ in 浜松」	静岡大学工学部・情報学部・電子工学部・創造科学技術大学院・グリーン科学技術研究所			9,927人	小中高	11/8~9	静岡大学浜松キャンパス	工学等原理現象に興味関心を抱く参加者参加型公開実験等
地場産業・職業講演会	浜松西高等学校中等部			160人	中1	11/14	浜松西高等学校中等部	6つのコースに分かれて講義
夢講座 ようこそ先輩	静岡大学附属浜松中等部		1人	350人	中	11/19	静岡大学附属浜松中等部	目標もって全力に講義
くるくる体験教室	浜松市体育協会		1団体	850人	園児・小	11/24	浜松アリーナ	体力作りを目標に跳び箱などを体験
保護者・地域の方々と語る会	浜松西高等学校中等部 PTA		11人	160人	中2	11/25	浜松西高等学校中等部	進路選択の参考に講義
編集局出前講座	静岡新聞社		1社	21人	小4~5	12/5	尾崎小学校	新聞の読み方や記者の仕事への理解講義
元城キッズチャレンジビジネス	元城小学校	豊岡クラフト	1社	37人	小6	12/11	元城小学校	物作りから会社組織、販売までを体験
夢を持ち努力を	東三河フェニックス		1団体	80人	小6	12/16	笠井小学校	バスケットを通じて夢を持つことの大切さを
さくま国際交流音楽指導講座	さくま国際交流音楽指導講座		1団体	12人	小	12/18	城西小学校	訪問演奏会

調査記録		資料1-5
テーマ	浜松市教育委員会 意見交換会	
日 時	2015年8月7日(金) 10:00~12:00	
調査先	浜松市教育委員会指導課	
調査場所	イーステージ浜松5階	
記録者	榎本貴文	
記録		
<p>議題：「はままつ人づくり未来プラン」について</p> <p>1. 概要</p> <p>(1) 第2次浜松市教育総合計画（平成22~26年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①キーワード 心の耕し、道徳、幼小中連携 ②取り組み 中学校区単位で目指す子供の姿を掲げ活動 <ul style="list-style-type: none"> ・全校で2分の1成人式、立志式実施 ・昔の暮らし、実験、ものづくり、すてきなパパママ体験 ・あいさつ運動を学校から学区へ ・学校毎に特色を打ち出した小中一貫校（庄内は浜名湖、中部は未定） ・20年前から異校種交流を行っている (教師は最初約3年間毎の3回の異動の中で、①小学校、②中学校、③発達学級、④山間部学校等異なる校種を経験する) ③背景 <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが外で遊ぶことが少なくなり、子供コミュニティが消滅状態 (前職場の熊小中学校でも同様の状況) ・小学校から中学校へのスムーズな移行（中一ギャップによる不登校を減らす） →子供のコミュニティを作り、自己有用観・自己肯定観を育む必要がある ④職業観教育 <ul style="list-style-type: none"> ・小学1~2年生活科で主に近所を勉強し、小学3年以降社会科で徐々に社会範囲を広げて勉強 ・中学2年時に3~5日職業体験 <p>(2) 第3次浜松市教育総合計画（平成27~31年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①キーワード 未来創造、市民協働 ②取り組み 人づくりネットワーク（行政、地域、大学、企業の連携） →具体的なイメージはこれから 例えば、学校毎任意で行っている地元講師による部活動を全校へ、線から面への取り組みにしたい。 学校から社会へ一方向の発信を双方にしたい。 <p>2. 課題</p> <p>職業体験受入メニュー一覧が欲しい。</p> <p>I) 職業体験候補企業は受入可能人数や自宅から行くことができる距離等で判断</p> <p>II) 静岡市は学校支援本部にコーディネーターが常駐しており、各学校で探す必要がない。</p> <p>3. 「地域の教育力を發揮させるための施策」(P66~69)</p> <p>進捗状況・予算・課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1. 概要にて <p>4. 経済界への要望</p> <p>「連携」「交流」がキーワード 経済界が持っているネットワークと連携できる窓口が欲しい。</p> <p>5. その他</p> <p>(1) 小学校で職業への憧れを持つ経験は必要</p> <p>(2) 未来の浜松のために国際化に向けたキャリア教育は必要</p> <ul style="list-style-type: none"> I) 理数…浜松市産業振興課と静大の連携（英才教育はトップガン、一般はレインボーカー） II) 音楽…ボローニャとの交流 <p>(3) 浜松市は水泳をはじめとしたスポーツが小学校部活動を中心にさかん。</p> <ul style="list-style-type: none"> (陸上、水泳、吹奏楽。サッカー、ミニバスは少年団に移行) →健康寿命日本一につながっている？ 		

調査記録		資料 1 - 6
テーマ	福井市教育委員会意見交換会 「人づくりに関する考え方と取り組み」について	
日 時	2015年 8月 24日(月) 15:00~17:00	
調査先	福井市教育委員会	
調査場所	福井市役所 本館 8階第8会議室	
記録者	榎本貴文	
記録		
<p>1. 福井市の学校教育について</p> <p>(1) 福井市の学校教育の概要</p> <p>①福井市の学校の概況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県は中高接続の18年型教育を推進中 ※福井県との連携を重視し、福井県が行き届かない点を福井市が担当 ・福井市教育委員会予算は福井市予算の1割 ・幼稚園は小学校に併設し、小学校校長は園長兼任 ・学級編成は国の基準40名に対し、福井県の基準は35名前後 ・中卒就職率1%未満、高卒で4割県外へ、そのうち半分が将来戻る <p>②福井市学校教育目標</p> <p>「郷土福井に誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成」</p> <p>③2学期制の実施</p> <p>テスト、通知表1回減少→授業時間確保</p> <p>④支援員等の配置</p> <p>福井大学と連携した大学生によるライフパートナー配置</p> <p>※地域教育学部2年生時必修。毎年100人程度だが不足気味</p>		
<p>(2) 中学校区教育について</p> <p>①中学校区教育の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ中学校区内にある保・幼・小・中が一体となり、子どもの学びの連続性、目標・内容の系統性、指導の継続性を踏まえ、意図的・計画的に一貫した取り組みを行う。 ・地域と協働した教育を進めることを通して、子どもが地域の一員として、将来にわたって地域づくりに貢献できるようになることを目指す。 <p>②中学校区教育の経過</p> <p>平成25~28年度「学びの一貫性と確かな接続」</p> <p>③各中学校区の取り組み</p> <p>合同あいさつ運動、福井市教育ウィーク、わくわく交流デー、1部活1活動（公民館とも連携）、「子育てスローガン」配布、「子育てかわら版」発行</p> <p>④学校への支援</p> <p>「地域に生きる学校づくり推進事業」による支援</p> <p>平成27年度総額約2,600万円、1校当たり20~50万円配分。学校の自由裁量で利用できる。</p> <p>⑤中学校区教育の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(子どもにとって)入進学抵抗感の軽減 ・(保護者や地域との関係において)保護者や地域住民の理解の深まりと学校や地域活動への協力の進展 ・(教員や学校にとって)子どもの成長を長いスパンで捉える視野の広がり <ul style="list-style-type: none"> 他校種の教員から学ぶことによる指導力の向上 的確な情報を元にした新入生への指導 連携した指導による学習面、生活面での指導効果 <p>⑥現在の福井市学校教育方針</p> <p>「中学校区教育」の推進の成果</p> <p>線のつながり（保幼小中の連携）、横のつながり（学校から地域へ）</p> <p>→さらにつながりを強め、個の育ちを支えるために</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>平成25~28年度「学びの一貫性と確かな接続」</p>		
<p>(3) 学力の状況と取り組みについて</p> <p>①平成26年度全国学力・学習状況調査</p> <p>福井県全国順位</p> <p>小学校6年生…国語A第9位、国語B第3位、算数A・B第2位 中学校3年生…国語A第2位、国語B第1位、数学A・B第1位</p> <p>②福井県学力調査</p> <p>全国学力・学習状況調査は平成19年より実施 SASA（福井県学力調査）は昭和26年より実施 ※全国で福井県のみ</p> <p>③学力を支えてきたと考えられるもの</p> <p>子どもと向き合う教員の熱意と協働体制</p>		

【伝統的な取り組み】

- ・学習会（朝、大休み、放課後、長期休業）
- ・「縦持ち」、定期的な教科会の位置付け

※長野県も同様に実施

　教科会・学年会（情報共有、教え合う）を時間割に毎週1回入れ込む

　・生活ノート

　・家庭学習の習慣化（「宿題」）

【教員の自主的な取り組み】

・教科ごとの自主研究組織

・一人一研究

【家庭・地域の環境】

・祖父母の存在、地域の信頼

　世帯人員全国第2位、核家族の割合全国第42位、三世代世帯の割合全国第2位、共働き世帯の割合全国第1位

・公民館の配置…原則1小学校区ごとに1館

　※全国的に珍しいらしい。

(4) キャリア教育の体制について

学校ごとに独自に取り組むことが方針

①平成26年度末の調査結果より

・福井市内小学校50校のうち、

　キャリア教育全体計画を作成している学校

　平成24年10校→平成25年21校→平成26年32校

　職場見学活動を実施した学校

　平成24年42校→平成25年40校→平成26年50校

・福井市内中学校23校のうち、

　キャリア教育全体計画を作成している学校

　平成24年23校→平成25年23校→平成26年23校

　職場体験活動を実施した学校

　平成24年23校→平成25年23校→平成26年23校

・職場体験活動の実施校数、実施日数

　1年生 6校（1日2校、2日3校、3日1校）

　2年生 23校（1日0校、2日13校、3日8校、4日2校）

　3年生 2校（1日2校）

・職場体験活動を支援する組織

　教育委員会や市町村に設置された実行委員会 12校

　PTAや保護者会等 20校

　商工会議所や商工会等の業界団体 11校

　行政機関（ハローワーク等） 0校

　教職大学院、公民館、中学校区教育支援地域本部 3校

　支援は受けていない 5校

・たくさんの職業を見せてあげることが理想

・今学んでいることが将来に役立つことを見せることができれば理想

　→「アントレ・キッズ」はそれを意図して行っている。

②福井市キャリア教育推進協議会

平成25年2月発足

参加者：福井商工会議所青年部、福井青年会議所、福井経済同友会、福井市商工労働部労政課、福井市教育委員会学校教育課

内容

・職場体験リストを各学校に提示

・福井商工会議所青年部 お仕事探検隊「アントレ・キッズ」

・福井青年会議所 地域（まち）の担い手づくりプログラム

※1学校が対応できない部分を補完

※2子どもたちが希望する職場体験をさせてあげたい。

　子どもたちが知らない職業を知る機会にもしたい。

※3先生にはできないので、経済団体の取り組みに助かっている

　→PTAに横展開できた事例もあり

③啓発録・立志式

・すべての中学校で取り組んでいる。

・中学校2年生の秋から冬にかけて取り組みことで、最高学年になる、進路を選択していくことに対して心構えを持つ。

・啓発録は中学校卒業まで掲示

調査記録		資料 1 - 7
テーマ	福井商工会議所青年部意見交換会 「人づくりに関する考え方と取り組み」について	
日 時	2015年 8月24日(月) 13:00~15:00	
調査先	福井商工会議所青年部	
調査場所	福井商工会議所2階会議室A	
記録者	榎本貴文	
記録		
<p>1. アントレ・キッズ</p> <p>(1) 主旨</p> <p>日本（福井）の産業を支える人材育成 福井商工会議所青年部会員自らが、自分の職業・職種を紹介し体験する機会を提供することで、仕事の厳しさ、働くことの素晴らしさ、物づくり・サービス業の面白さを伝えることで、子供たちに将来の仕事に対する「夢」の幅を広げ、更に日本（福井）を支える人材育成を図る。</p> <p>(2) 背景</p> <p>子供たちに対する教育は教科学習やスポーツが中心、体験型教育においても伝統産業や科学体験が大部分を占める。「職=仕事」に関する教育・体験は非常に少ないので現状。</p> <p>【参考】</p> <p>加速する人口減少→会社数減少(H21年比10%減)→教育熱心→Uターン率25%(都会好き37%、希望企業なし21%、企業知らない20%)→幼少期から企業を知る→アントレ・キッズ(企業300社、親子5,000人以上、第2回経済産業省キャリア教育大賞受賞)</p> <p>(3) 経緯</p> <p>子供たちの福井市定着率向上のため、福井商工会議所青年部会員企業従業員の子供たちへの職業体験を始めたことがきっかけ。キャリア教育のために始めたわけではなかったが、結果としてキャリア教育となった。</p> <p>(4) 内容</p> <p>仕事の誇り、やりがい、体験・経験 ※各学校の要望に応じて開催。基本的には小学校1時間45分で自己紹介、会社紹介、体験・経験、働く目的（社会貢献、生活、自己成長）を伝える。</p> <p>(5) 対象</p> <p>小学校4~6年生、中学校1年生とその父兄（親子での体験型教室） 小中学校、PTA、育成会（子供中心での体験型教室） ※1 参加する職種、テーマ、企業は夢、職業選択の幅を広げるために選択させない。 ※2 親子参加が原則。家族にアントレ・キッズ参加の感想を話すことが宿題</p> <p>(6) 企業</p> <p>ボランティアだけの社会貢献活動ではなく、企業が信頼、安心という利益を得るために社会投資活動 ※1 大人が一生懸命になることが大事 ※2 現在、福井商工会議所青年部会員のうち6~7割が講師経験あり。新入会員は必ず講師を務める。</p> <p>(7) 運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アントレ・キッズ魔法のマニュアル」に基づいて運営 →標準化し公開したことにより、キャリア教育が広まった。 ・学校が福井商工会議所青年部に声をかけ開催 ・PTAを巻き込み、学校に近い福井商工会議所青年部会員を中心としたPTAが講師になっていくように展開中（福井商工会議所青年部会員がPTA会長に就任した時がチャンス） <p>(8) 活動</p> <p>平成17年度より活動開始 【平成26年度実績】</p> <p>アントレ・キッズ in 木田小学校 参加企業8社 ふくい科学学園×アントレ・キッズコラボ事業 清川メッキ工業 市教組教育研究集会分科会 担当会社3社 えきまえアントレ・キッズ 2014 福井YEG 参加企業5社+参加企業27社 主催：まちづくり福井 共催：福井YEG 後援：福井市教育委員会 ※当初は15店舗声掛けでスタート。現在、認知度が上がり応募数増加 アントレ・キッズ in ふくいキャリア教育フォーラム 2014 参加企業1社 アントレ・キッズ in 鶴小学校 参加企業4社 アントレ・キッズ in 足羽小学校 参加企業4社 アントレ・キッズ in 清水東小学校 参加企業4社</p>		

(9) 効果

効果測定は困難のため、今後の課題も明確には難しい。

ただ、以下のような声はあった。

・メッキ教室を受講した方が採用面接に来た。

・アナウンサー志望の方が以前アナウンサー教室に参加したことがきっかけで、職業相談に来た。

・成人式で全員にアンケートを実施→アントレ・キッズに参加したことは覚えている。

2. 経済3団体キャリア教育提言について

平成27年3月、福井経済同友会が中心となり福井商工会議所青年部、福井青年会議所とともに「福井創生にキャリア教育力を！マッチング機能を付加したキャリア教育システムの確立を！～学力、体力、志力の福井県へ～」を提言

【提言内容】

①福井県主導による「福井県キャリア教育推進協議会」（仮称）の設置

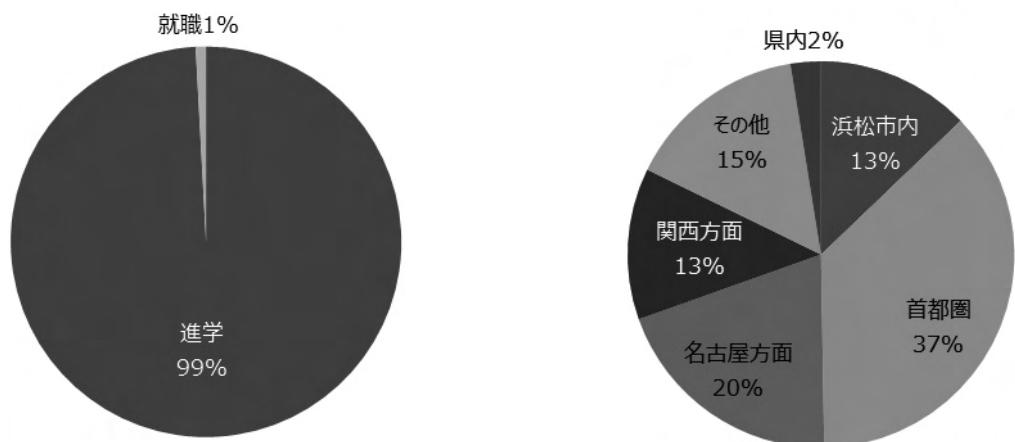
②企業のエントリーシートや生徒の報告シートの見える化

調査記録		資料1-8
テーマ	鯖江商工会議所青年部意見交換会 「人づくりに関する考え方と取り組み」について	
日 時	2015年8月25日（火）11：00～12：00	
調査先	鯖江商工会議所青年部	
調査場所	鯖江商工会議所2階会議室	
記録者	榎本貴文	
記録		
1. 近年の地域活動		
平成23年度 つつじまつり 1万人の大釜カレー		
平成23年度～ もみじまつり 焼き鳥合衆国		
(平成25年度まで主催、平成26年度以降実行委員会形式で協力)		
平成24年度 つつじまつり ふうせん 10,000個のバルーンランド		
平成25年度 つつじまつり 和みの広場 ものづくりクエスト		
平成26年度 つつじまつり YEG ジョブランド～お仕事遊園地～ 11業種、2日間親子約1,400名参加 鯖江YEG ジェラード		
平成27年度 鯖江を愛する例会 「鯖江を中から覗いてみよう」～みんなの想いが未来の鯖江をつくる～ 目的：鯖江を愛するリーダーとして鯖江の三大地場産業である眼鏡・織維・漆器の産業について学ぶ。その中で地場産業への想いを強め、会員一人ひとりが鯖江を誇りに思い、より愛することを目指す。		

調査記録		資料2－1
テーマ	高校生の意識に関するアンケート	
実施日	2015年8月～9月	
調査協力	浜松市内進学校6校 静岡県立浜松北高等学校 静岡県立浜松西高等学校 静岡県立浜松南高等学校 浜松市立浜松市立高等学校 学校法人日本体育大学浜松日体高等学校 学校法人信愛学園浜松学芸高等学校	
対象	高校2年生 計2102名	
調査方式	無記名、選択式（一部コメント記載あり）	

Q1、卒業後の進路及び行き先と、そこを選んだ理由を答えて下さい。

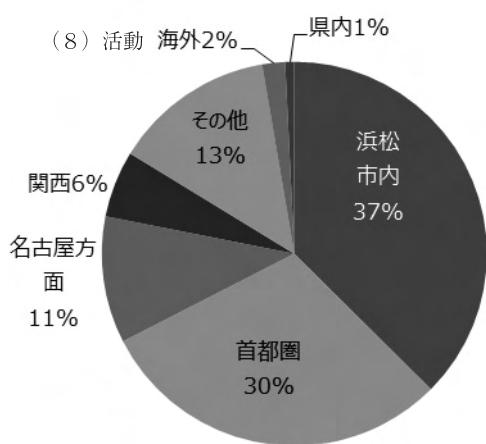
Q)進学先はどこを希望しますか？



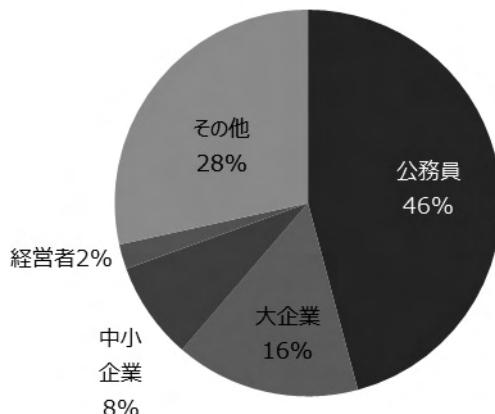
Q2、1の質問で「1進学」は進学後、「2就職」は卒業後

「3その他」の方も含めあなたは将来、「どこで」「どんな」仕事に就きたいですか？

Q)将来どこで働きたいか？

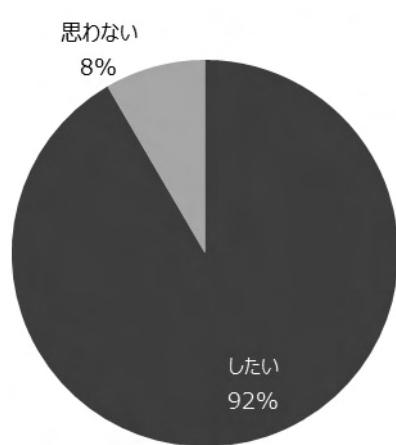


Q)浜松を希望する人の就きたい仕事

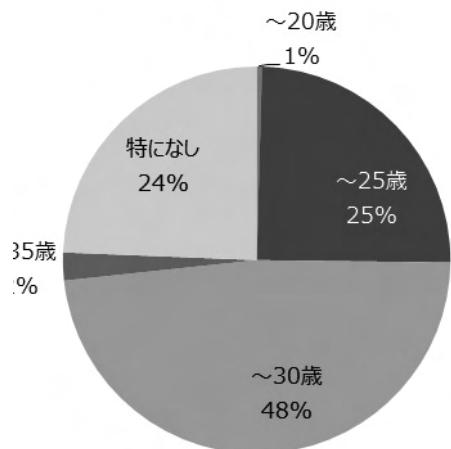


Q 3、あなたは将来結婚したいと思いますか？

Q) 将来結婚したいと思いますか？

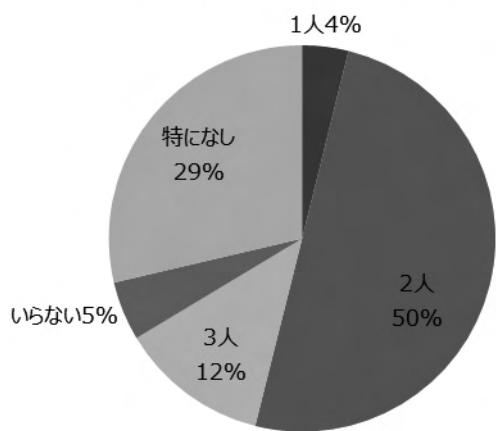


Q)いつまでに結婚したいですか？



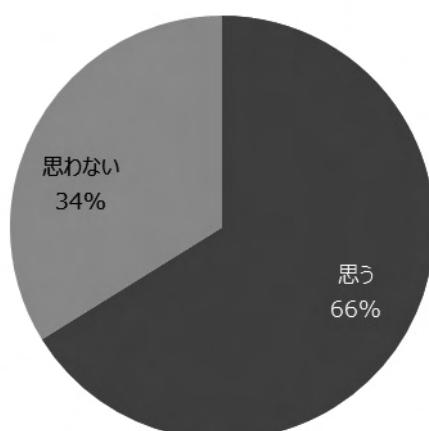
Q 4、あなたは将来何人子供が欲しいですか？

Q) 子供は何人欲しいですか？

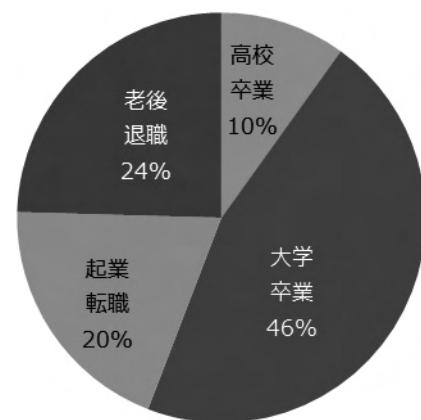


Q 5、あなたは将来浜松に住みたいですか？住みたい場合いつ頃浜松に戻りたいと思いますか？

Q) 将来浜松に将来住みたいと思いますか？

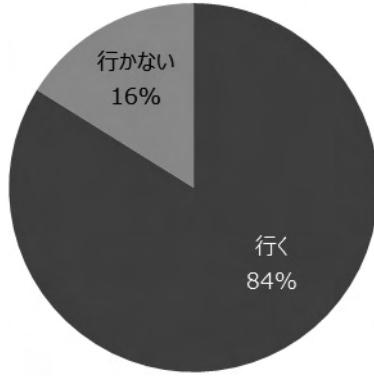


Q)「住みたいと思う」場合、いつ浜松に住みたいですか？

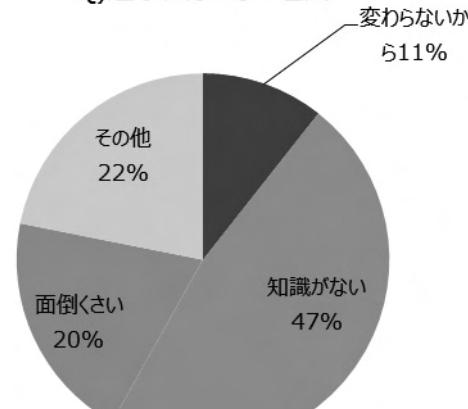


Q6、選挙権が18歳になります。あなたは選挙に行きますか？

Q)選挙に行きますか？



Q)選挙に行かない理由



Q7、あなたは休日にどのような過ごし方をしていますか？

- ・家族と出掛ける・友達と遊ぶ・読書・ゲーム・買い物

Q8、今、自由に使えるお金が1000万円あったら、あなたは何に使いますか？

- ・自分の力だけで生きて行こうとしたい。(無力さを理解したい)
- ・家康プレミアムチケット交換。
- ・学校を中退して、1日何もしない生活送る。
- ・耐震工事を完璧にした家を建てる。近くに高い建物を建て津波で死なないようにする。
- ・1万円課金。
- ・何か創作する。
- ・募金をする。・家のローン・大学資金・親のローン・貯金

Q9、浜松市を今よりも魅力ある街にするには、何が欲しいと思いますか？

- ・スタジアム、サイクリングロード、若者向け商業施設、たくさんの人が訪れる何かをつくる、(テーマパーク) プール、109、多くの人が集まるドーム、コストコ、ビバリーヒルズ。
- ・若い人材。
- ・公園を増やす。(袋井の親水公園のようなもの)
- ・観光地
- ・お金、予算。経済的成長。
- ・駐輪場、駐車場。
- ・今あるものをもっとアピールする。マスメディアを使ってもっと広める。(音楽や自動車など)
- ・海外の交流、グローバル化。
- ・古い建物を建て直す。若しくは更地にする。
- ・緑を増やす。
- ・街の臭いにおいをなくす。コンクリートの汚れを落とす。
- ・水族館。
- ・エコ活動。
- ・特産物を増やす。
- ・愛
- ・選挙に関わるモラルの徹底。
- ・シンボル的なもの。

Q7. 今よりも魅力ある街にするには、何が欲しいと思いますか？

Q8. あなたは将来浜松に住みたいですか？

Q9. 浜松市を今よりも魅力ある街にするには、何が欲しいと思いますか？

Q10. もしあなたの街に引っかかる、どんな実現的にしたいですか？

以上でアンケートは終了です。お疲れ様でした。最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。

このアンケートとともに毎日、各種SNSの bersy と浜松市内会員登録者によるグループチャットを行っています。ご参加頂ける方には毎日学びを通じて成長させていただきたく思いますので、ご意向をお聞かせ下さい。また、「参加できます」とご連絡頂いた方が、通常用にご登録をお願いします。

アンケート用紙に記載されたコメント

- ・佐鳴湖公園をきれいにして観光スポットにする。
- ・公共のサービスを増やす。
- ・ラーメン屋などの飲食店を増やす。
- ・いろんな場所を簡単に誰でも借りれるようにする。
- ・流行の先端のものを取り入れる。

Q 10、もしあなたが市長になったら、どんな浜松市にしたいですか？

- ・第2のディズニーランドつくる。レジャーにあふれる市。観光客の多い市。
- ・NO MORE 過疎化スパイアル。
- ・日本経済中心になれるような浜松市。
- ・高齢者の一人暮らしの人でも安心して暮らせる町。
- ・人口の流出が少ない町
- ・住民の幸福度が高い浜松市。平和な市。治安が良い市。
- ・みんなが浜松市について考えられる市。市民の意見を聞いてよりよい市。
- ・浜松市を静岡県の県庁所在地にする。
- ・農業従事者の補助。
- ・飲食店を気軽に立ち上げるように支援したい。
- ・海に面しているのでもっと海産物を有名にしたい。
- ・浜松市をから出でてしまった人がもう一度住みたいと思える市。
- ・密度の高い街。
- ・外国人に優しい浜松市。グローバルな市。

- ・松菱跡地に何か建てる。
- ・CDショップがたくさんほしい。
- ・ムクドリのふん便の異臭対策をする。

- ・飲食店が並ぶところにたくさんのベンチやテーブル、屋根も付けて雨でも人が集えるところをつくる。
- ・工業と観光地を主軸とし、商業も盛んな市にしたい。
- ・街中に福祉施設や障がい者施設をつくる。
- ・地震や津波対策をする。
- ・ゴミが少なく犯罪がない市。
- ・バリアフリー。障害がある人でも住みやすい市。
- ・スポーツが活発な市。
- ・いろいろな施設と繋がりコラボレーション出来る市。
- ・浜松まつり以外の時も人が集まる市。
- ・市民がもっと政治に参加できる市。
- ・若者（子供）が活躍できる市。
- ・自慢できる市。
- ・音楽のまちを有名に

浜松市内 高校生の意識に関するアンケート		浜松商工会議所青年部 政策委員会					
<p>この度は、私たち浜松商工会議所青年部政策委員会のアンケートにご協力頂きありがとうございます。 私たちは浜松市をより良い街にするために、毎年アンケートに対して政策提言を行っています。 今年度は「10年後の元気な浜松『誇るための『人づくり』』『まちづくり』について調査研究を行っています。 そのため、10年後にどちらで『誇る』高校生の特徴が目標どおりお答えをお持ちの方のかお聞かせ頂きたくと想い、今回アンケートを実施させていただることになりました。</p> <p>皆様に回答いただきたいのは、政策提言に関する資料の目的以外では使用致しません。 又、書き込んだ箇所については、厳重に管理し、政策提言に関する資料の目的以外では使用致しません。 是非、10年後の元気な浜松を担う、高校生の皆様のありのまま『お聞かせ下さい』。</p> <p style="text-align: right;">浜松商工会議所青年部 政策委員会 委員長 安井孝治</p>							
<p>学校名を記入ください</p> <table border="1"> <tr> <td>普通・選抜・特進 等</td> <td>○で囲んでください</td> </tr> <tr> <td>学年</td> <td>男 女</td> </tr> </table> <p>●あなたの就職観・進路観についてお聞かせ下さい。</p> <p>Q 1. 平素からの進路及び行き先と、そこに迷った理由を教えて下さい。 選択 行き先(地名) 1 進学 — A 浜松市内 B 首都圏 C 名古屋方面 D 関西方面 E その他() 理由() 2 就職 — A 浜松市内 B 首都圏 C 名古屋方面 D 関西方面 E その他() 理由() 3 その他 — ()</p> <p>Q 2. 1の質問で「進学」は進学後、「就職」は卒業後、「その他の」の方のどちらか あなたは将来、「どこで」「どんな」仕事に就きたいですか？ ○を付けてください。 どこ？ A 浜松市内 B 首都圏 C 名古屋方面 D 関西方面 E 海外 F その他() どんな仕事に？ A 公務員 B 大企業 C 中小企業 D 経営者(起業する・家業を継ぐ) E その他(医師・弁護士等)</p> <p>●あなたの結婚観・育児観についてお聞かせ下さい。</p> <p>Q 3. あなたは将来結婚したいと思いますか？ ○を付けて下さい。 1 結婚したいと思う — A ~20歳までに B ~25歳までに C ~30歳までに D ~35歳までに E 特に決めていない</p> <p>2 結婚したいと思わない</p> <p>Q 4. あなたは将来何人子供が欲しいですか？ ○を付けて下さい。 A 1人 B 2人 C 3人以上 D 子どもはない E 特に決めていない</p> <p>●あなたの価値観についてお聞かせ下さい。</p> <p>Q 5. あなたは你自身にどのような過ごし方をしていますか？</p>		普通・選抜・特進 等	○で囲んでください	学年	男 女	<p>Q 6. 今、自由に使えるお金が1000万円あったら、あなたは何に使いますか？</p> <p>Q 7. 選挙権が18歳になります。あなたは選舉に行きますか？ その理由を記載して下さい。 A はい () B いいえ ()</p> <p>●あなたの浜松市に対するご意見をお聞かせ下さい。</p> <p>Q 8. あなたは浜松市に住みたいですか？ 住みたい場合いつ頃浜松に移りたいと思いますか？ ○を付けて下さい。 1 住みたい — A 高校卒業後 B 大学・専門学校卒業後 C 結婚・独立する時 D 退職後(老後) 2 住みたくないと思わない 理由()</p> <p>Q 9. 浜松市を今よりも魅力ある街にするには、何が欲しいと思いますか？</p> <p>Q 10. もしあなたが市長になったら、どんな浜松市にしたいですか？</p>	
普通・選抜・特進 等	○で囲んでください						
学年	男 女						
<p>以上でアンケートは終了です。お疲れ様でした。最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。</p> <p>このアンケートをもとに後日、各高校の代表者と浜松市内企業経営者によるグループミーティングを行います。 参加頂ける方には後日学校を通じて連絡させていただきたいと思いますので、ご意向をお聞かせ下さい。 また、「参加できます」とご回答いただいた方のみ、連絡用にお名前をご記入下さい。 (各校男子2名、女子2名を予定しています)。 参加希望者多数の場合には当方で選抜させていただきますのでご了承下さい。</p> <p>開催予定： 10月24日(土) 13:30～15:30 (場所：JR浜松駅構内予定) グループミーティングに 参加できます ・ 参加できません お名前()</p> <p>● 当アンケートに関する連絡先・お問い合わせ…… 浜松商工会議所青年部 事務局 053-452-1113 (政策委員会)副委員長 高橋志乃江 (事務局)小田木</p>							

アンケート用紙

調査記録		資料2-2
テーマ	高校生グループミーティング	
日 時	2015年10月24日(土) 13:30~15:30	
場 所	遠鉄百貨店本館 13階会議室	
記録者	大庭小奈代	
	記録	
(グループミーティングの経緯)		
私たちは「10年後の元気な浜松、人づくりモノづくり」をするには今現在の高校生が何を考え、どんな価値観を持っているのか、何に興味があるのか、今の社会をどのように考えているのか知る必要があった。		
しかし、そのターゲットである高校生の実態の資料が少なく、分析が出来ないという事で私たち商工会議所青年部政策委員会が、浜松市の進学校、北高、西高、南校、市立、日体、学芸の高校二年生対象に2102人のアンケート実施後データー作成。		
そして、そのデーターを元にさらに深掘りするために、グループミーティングを実施した。		
(実施内容)		
構成メンバー：アンケート調査を行った学校各4名程参加。シャッフルして1グループ6人4グループに分かれ、商工会青年部政策委員会メンバーがファシリテーターとサブ、各グループに2名ずつ付いた。		
グループミーティングの内容：4つの項目に絞り込んだ。		
① アンケートのデーターで進学希望が98%であることをうけ、進学先とその理由について、グループミーティングでは、41%と圧倒的に首都圏希望が多く、続いて名古屋、関西、浜松も少人数いた。		
理由としては 首都圏…沢山の大学が有る、メディアに強そうなイメージ、浜松の良さを知るために一度浜松から出てみたい。 名古屋…名古屋大学に行きたい。浜松から近いので里帰りしやすい。 関西…関西の街が好き。趣が有る。関東はゴミゴミしている感じがするので関西が良い。 浜松…浜松医科大学が有る。実家から通学が出来て経済的。		
② 就職先の地域とその理由。		
アンケートのデーター結果としては、浜松市34% 首都圏32% 名古屋13% 関西6% その他13% 海外2%。		
(理由として) 浜松市…両親が近くにいるので安心だ。浜松の金融関係に就きたい。市役所に勤めて政策に関わりたい。 首都圏…貿易が盛んで海外と結ぶ都市である。首都圏に住んでいる人は志が高い方々が多いと思うから自分自身も成長できそう。専門職が多い。 名古屋・関西…就職したい企業がある。浜松には魅力的な会社がない		

(就職先とその理由)

公務員…浜松市役所に勤めて、その後政治家になりたい。安定している。

大企業…福利厚生がしっかりしていて、安定している。

中小企業…女性が活躍できそう。個人の意見が通る。少人数なのでチームワークが

経営者…人に指示したい。

③ 将来浜松に住みたいか、住みたくないかとその理由。

住みたい…結婚、子供、親、親戚（助けを求めることができる）

浜松まつりを後世に継承したい。

住みたくない…もっとたくさんのモノを見たい、経験したい。文化、食品や嗜好品などに触れたい。浜松だと

企業志向のある若者がまだまだ前に出ずらい雰囲気を感じる。

④ まとめ。『浜松に戻るきっかけは？どうしたら浜松に戻ってきたいか？』

10年後の浜松に大都市やほかの都市よりも魅力が必要である。

5つの視点から考えた。

1、活性化。テーマパークや浜松周辺の施設を充実させる。ZAZAとアクトのテナント、街中の活性化や百貨店の誘致。中心部以外の場所、北区、天竜区等の活性化も必要。

2、交通。浜松の運賃を安く。遠鉄バスは浜松駅と縦の路線しかないのでヨコ方面の路線も設けてショートカット出来るようにする。新幹線ではのぞみ号が停まるようにする。

3、イベント。大道芸や国際的なイベントを開催する。発信力を付ける。宣伝力を付ける。
(インターネット動画配信、フラッシュモブ)

4、教育、育児。保育園の受け入れや教育施設の充実。レベルの高い学校。有名大学の浜松キャンパスが有る。

5、安全。自転車の車道の細さや段差があり危険。道路整備をしっかりとする。

地震、水害対策。今行っている災害対策をもっとアピールする。

※浜松ヘリターンするのも大事だが、外部から浜松に人を誘致することも大事ではないかという意見もあった。(外国人や地方出身者)

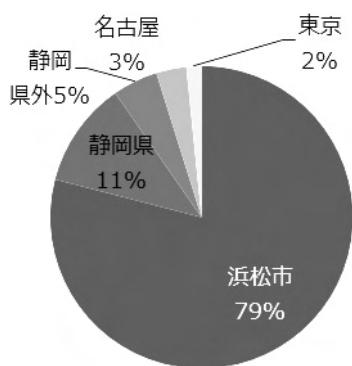
高校生のグループミーティングを行い、浜松に対する将来のイメージを膨らませる情報が足りなく知識がないので想像して議論することはとても難しそうだったが、商工会青年部メンバーと一緒にを行い、浜松市の政策や方向性について彼らのアイデアを出し合い話し合うことがとても有意義で一人ひとりの顔が充実していた。

今後も、将来の方向性として必ず首都圏ではなく浜松を離れなくても道は開かれるという考え方、浜松の中小企業をもっとよく知るためのきっかけ、浜松市の政策の方向性が自然と入ってくるような制度、設備、仕組みを独自の発想で話し合い、若い彼らが10年後住みたくなるような「まちづくり」を参画する為の、グループミーティングを定期的に開催することはとても大切である。

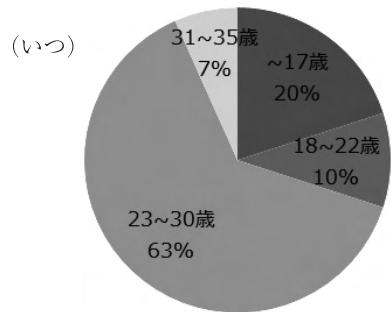
調査記録		資料2-3
テーマ	鯖江市役所 市民協働課（JK課）	
日 時	2015年8月25日(火) 午後2:00~5:00	
調査先	鯖江市総務部 市民協働課 課長 金子明裕様 課長補佐 高橋藤憲様 参事 橋本和久様	
調査場所	鯖江市役所	
記録者	長谷川角弥	
記録		
<p>JK課とは、市が母体となる高校生目線によるまちづくり活動であり、硬くならないあくまでゆるい町づくりをめざす、市民を巻き込むことを主体とした計画である。</p> <p>JK課は鯖江市によって設置されましたが、プロジェクト名であって部所ではありません。提案者は若新雄純さん（慶應義塾大学特認助教授・福井大学客員准教授・ニート株式会社代表取締役）で、鯖江市の未来を見据えた考え方から市民を巻き込むことを提案。ゆるいまちづくりを実行するにあたり職員（大人）の考えでは硬くなってしまい、市民を巻き込むには共感をもたれにくいということで、女子高生（JK）が主体となって、事業政策を提案、実行するということで「JK課」が誕生致しました。</p>		
<p>・JK課発足による世論と苦悩</p> <p>JK課発足に対し様々な異論が勃発致しました。「名前が不順（JKリフレ、JKおさんぽなどの名称と同類語と指摘）」、「女子高生にまちづくりなどできない」、「学習への妨げとなる」など、硬い考え方やこじつけ、心無い誹謗や中傷などが飛び交いました。</p> <p>これにより鯖江市の未来のために勇気と熱意をもって手を上げたJK課員18人名中5名が辞めることとなりました。内3人は、生徒が通う高校の校長によって、高校の名に傷がつくとして辞めさせられました。</p>		
<p>・不満の声の世論に対して市長が発言</p> <p>「JKに大人を変えてもらいたい。町や大人に変化を起すことが目的である。いまこそやるべきだ！」</p> <p>こうした市長の熱意と意気込みに、風当たりの冷たい世論や不満の声に対して、JKメンバーは「覚悟を決めた！」と立ち上りました。</p>		
<p>・JK課の方針と目標</p> <p>活動を市民におしつけず、ゆるく市民を巻き込んで協働します。</p> <p>JK課は政策活動に短期的なゴールを設定しておりません。あえて言うならJKが大人をえることがゴール！であります。</p> <p>彼女たちをプロが教育を致しません。あくまで彼女たちから出る発想を尊重します。</p> <p>服装・髪型等を押し付けたりもせず、会議中にお菓子も必須です。彼女たちにとって興味のない（面白くない）ことには目もくれません。このような環境の中で、彼女たちは日常的なおしゃべりをし、その中にヒントをつけます。</p>		
<p>・JK課によって、図書館の空席状況確認アプリ「Sabota」誕生</p> <p>図書館へ勉強をしに行っても席がない。この不満と解消から図書館の空席状況確認アプリ「Sabota」誕生しました。携帯電話についてでも図書館の空・満席がリアルタイムで確認できるシステムのアプリです。企画から機械の設置の現場作業に至るまで、彼女たちは携わりました。</p>		
<p>・活動として（1年目）</p> <p>会議79回、イベント22回を行ないました。企画や活動でコラボしてJK課の仲間として市長、市役所職員からはじまり警察官、消防士、官僚、大学生、お坊さん、パティシエ、新聞記者、IT社長、グローバル企業、ふなっしー、その他多数へ広がりました。</p>		
<p>・JK課に触発されて</p> <p>わたしたちもやりたい！とOC課が発足（非公認）。OC課とはオバチャン課であり、そのパワーと調査、提言により、企画に対して市は協議し予算を作つて実施しております。</p>		
<p>・JK課の現在</p> <p>JK課は現在2期生が活動中であります。その募集に一期生が声をかけ、集めました。卒業生はまちづくりを学ぶ大学等へ進路をとつておらず、まちづくりという活動をし、やりがいをみつけた結果があらわれております。硬い考え方やこじつけ、心無い誹謗や中傷などが飛び交っていた当時の不満の声や世論は絶賛へ変わりました。「あえて言うならJKが大人をえることがゴール！」に一歩近づいたのではないでしようか。</p>		

調査記録		資料3-1
テーマ	「学生が考えるビジネスプランについて」に関するアンケート	
日 時	2015年11月2日～9日	
場 所	浜松商工会議所青年部会員62名	
調査方式	無記名、選択式（一部コメント記載あり）	
	G o o g l e フォームを利用	

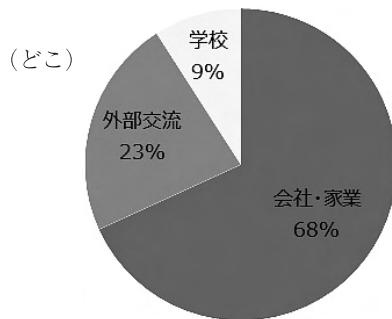
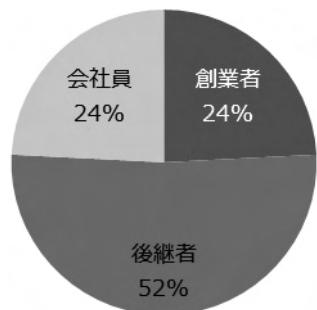
Q1. あなたの出身地はどこですか？



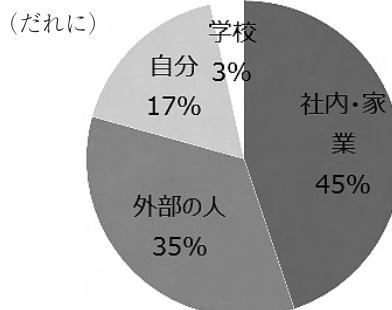
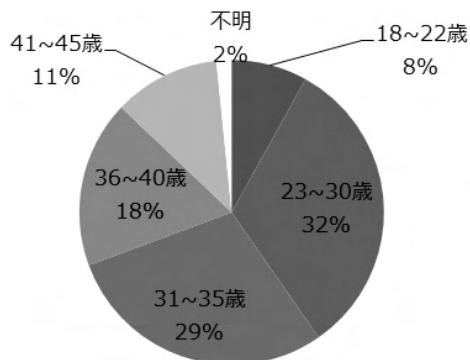
Q4. あなたは今のビジネスプランを
「いつ」「どこ」「だれに」で学びましたか。



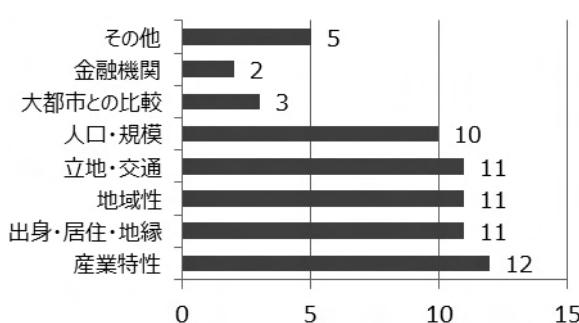
Q2. あなたは『創業者』ですか？



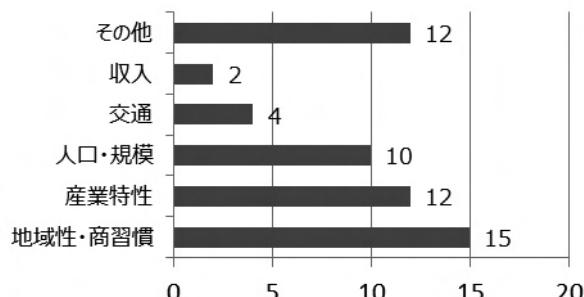
Q2. あなたの今現在のビジネスは
何歳から始めましたか？



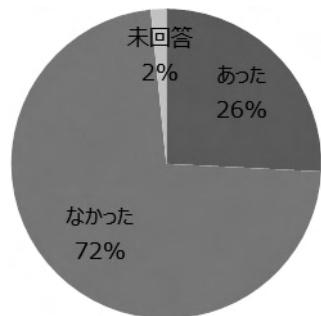
Q5. 浜松で起業する（事業を行う）メリットは何だとお考えですか？



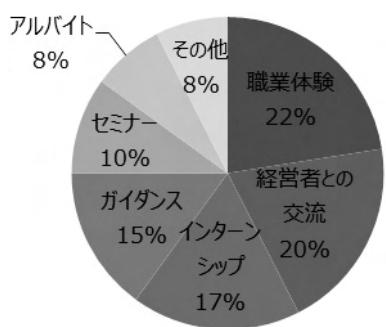
Q6. 浜松で起業する（事業を行う）デメリットは何だとお考えですか？



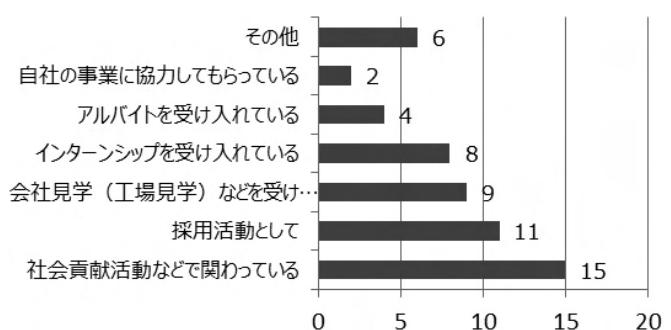
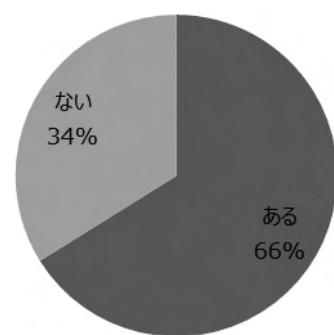
Q7. あなたが学生（高校・大学・専門学校等）時代に「ビジネス」について学ぶ機会はありましたか？



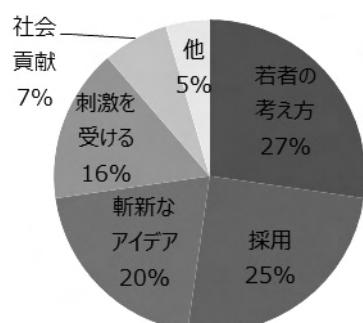
Q8. 学生時代にどんな機会があれば良いと思いましたか。



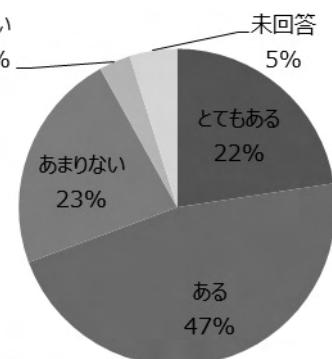
Q9. 「学生との関わり合い方」についてお伺いします。
現在、あなたは学生との接点をお持ちですか。
(複数回答可)



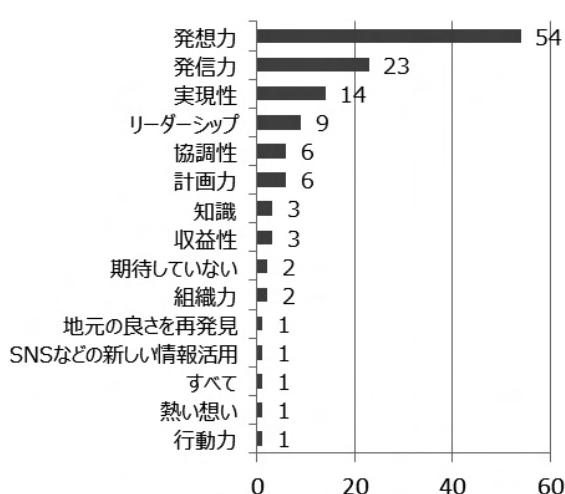
Q10. 学生との関わり合いを持つメリットについてお考えをお聞かせ下さい。



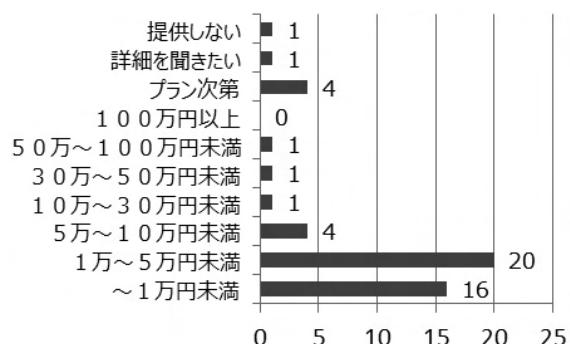
Q11. 「学生が考えるビジネスプラン」に興味はありますか？



Q12. 「学生が考えるビジネスプラン」にはどのような事を期待しますか。(複数回答可)



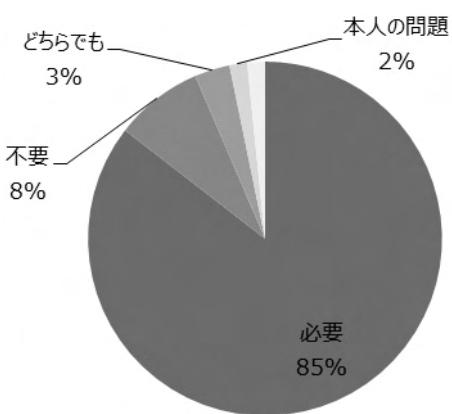
Q13. 「学生が考えるビジネスプラン」コンテストへの資金提供をお願いされた場合、どのくらいご提供頂けますか。



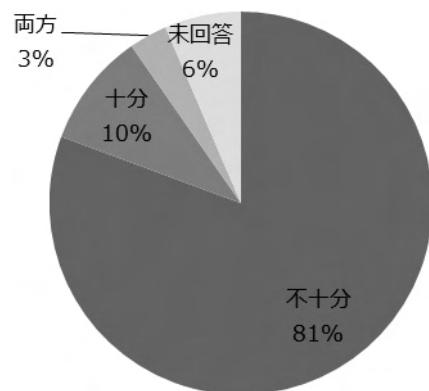
Q14. 「学生が考えるビジネスプラン」に良いプランがあった、場合どのようにされたいとお考えですか？



Q15. 学生がビジネス（商売・起業）について考え方、体験・実践する機会が必要だと思いますか？



Q16. 今の学生にとって、ビジネス（商売・起業）について学ぶ環境は十分であると思いますか？



全国ビジネスプランコンテスト一覧

地域	コンテスト	主催	地域	コンテスト	主催
全国	鳥取市ビジネスプランコンテスト	鳥取市 経済雇用戦略課	関東	日本工業大学ビジネスプランコンテスト	日本工業大学 産学連携起業教育センター
	グローバル エンタープライズ チャレンジ	NPO法人 アントレプレナーシップ開発センター		茨城県立市町ミニユービジネス	一般社団法人 地域再生ミニユービジネス推進協会
	ユース エンタープライズトレード フェア	トレードフェア実行委員会 (NPO法人アントレプレナーシップ開発センター)		起業プランコンペ	(財) 茨城県中小企業振興公社
	次世代スマートチャレンジ	京都スマートシティエキスポ運営協議会事務局		いばらきビジネスプランコンテスト	宇都宮市・宇都宮ベンチャーズ
	ビジネスコンテスト「ワーリング」	マイリンク運営事務局		宇都宮市・宇都宮ベンチャーズ	高崎商科大学
	関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC	関西大学		ビジネスアイデアコンテスト	新潟県立十日町
	キャノバベンチャーグランプリ	日刊工業新聞		ビジネススクラブルin新潟 NB-1 グランプリ	新潟県立新潟市
	女性新ビジネスプランコンペティション	株式会社日本政策投資銀行 女性起業サポートセンター		ソーシャルビジネスストライアル 東海・北陸リーグ	ソーシャルビジネスネットワーク大学 東海・北陸キャンパス
	高校生ビジネスグランプリ	株式会社日本政策投資銀行		信州ベイチャーコンテスト	信州大学 SVBL
	University Venture Grand Prix	経済産業省、大学・大学院起業家教育推進ネットワーク		福井県ビジネスプランコンテスト	特定非営利活動法人アントレセンタ一事務局
	ID 連携トスマフレームワーク・ビジネスモデルコンテスト	経済産業省		とやまビジネスプランコンテスト	富山大学、富山県
	TOKYO STARTUP GATEWAY	東京都		クリエイティブベンチャーシティ金沢ビジネスプラットフォーム	金沢市
	みたかビジネスプランコンテスト	株式会社まちづくり三鷹		革新的ベンチャービジネスプランコンテストいしかわ	公益財団法人 石川県産業創出支援機構
	川崎起業家オーディション	(公財) 川崎市産業振興財団		まほんちチャレンジグー	浜松信用金庫
	大学生観光まちづくりコンテスト	大学生観光まちづくりコンテスト運営協議会		SOHO静岡 /B-net 静岡市産学交流センター	浜松信用金庫
	高校生ビジネスグランプリ	株式会社日本政策投資銀行 女性起業サポートセンター		東三河ビジネスプランコンテスト	東三河ビジネスプランコンテスト実行委員会
	高校生ビジネスグランプリ	経済産業省、大学・大学院起業家教育推進ネットワーク		ビジネスコントラクト	磐田信用金庫
	旭川ビジネスプランコンテスト	旭川市経済観光部産業振興課		しうざん起業家大賞	静岡銀行
	ビジネススキティアコンテスト	旭川ビジネスプランコンテスト担当		スポーツビジネスプランマッチングコンテスト	静岡県中部地域スポーツ産業振興協議会
	とかひビジネスプランコンテスト	パラショートグリーン		高校生「ものづくり・こどづくり」プランコンテスト	静岡理工科大学、浜松市
	高校生によるビジネスプランコンテスト	十勝観光と地域人材育成のための拠点づくり実行委員会		浜松ビジネスの駒場掘コンテスト	浜松ロータリークラブ
	ビジネスモチールコンテスト	札幌国際大学観光学部		ソーシャルビジネスストライアル 東海・北陸リーグ	ソーシャルビジネスネットワーク大学 東海・北陸キャンパス
	先端経営学科ビジネスプレゼンテーションコンテスト	北星園大学 経済学部経営情報学科		信州ベイチャーコンテスト	信州大学 SVBL
	スポーツを活用した札幌産業活性化事業	北海道情報大学		経営学部ビジネスプランコンテスト	静岡産業大学
	ビジネスモデルコンテスト	札幌市経済局産業振興部ものづくり産業課		焼津地域活性化プランコンテスト	浜松大学
	東北復興ビジネスプランコンテスト	Mobile Creators Summit		伊豆ビジネスコンテスト「ハズコン」	静岡地場活性化プランコンテスト実行委員会
	若者発あおもとベンチャー大賞～夢起業ビジネスプランコンテスト	青森県		皇學館大学ビジネスプランコンテスト	株式会社ワークイン・ヘッス・アドバンス
	いわてアプロコンテスト	岩手県		皇學館大学企画部	皇學館大学 大企画
	松島地域活性化プランコンテスト	M Leaders		しづくじ温泉のそれ香森ビジネスプラン	滋賀県
	古牧温泉のそれ香森ビジネスプラン	アピタタホスピタリティ		NEWビジネスプランコンテスト	滋賀県
	関東	なかのライフサポートビジネス創造塾	中野区	SRC グループ×神戸市 連携企画「神戸祭! めぐせセリコン! (レー!) 学生起業プランコンテスト」	SRC グループ
	ビジネスプランコンテスト	早稲田大学産官学研究推進センター	新宿区	宝塚商工会議所ビジネスプランコンテスト	宝塚商工会議所
	早稲田大学ビジネスプランコンテスト	インキュベーション推進室	新宿区	知府ビジネスプランコンテスト	京都市商工会議所
	起業チャレンジ	スカイライトコンサルティング株式会社	新宿区	テクロジー & ビジネスプランコンテスト	京都リサーチパーク株式会社、合同会社 SARR
	荒川区ビジネスプランコンテスト	荒川区経済部経営企画課 提携「産業活性化係	新宿区	みえぎんビジネスプランコンテスト	株式会社三重銀行、株式会社三重銀総研
	大田区ビジネスプランコンテスト	大田区、公益財団法人大田区産業振興協会	新宿区	新・なら案内人	奈良県
	革新的ベンチャービジネスプランコンテスト	（財）石川県産業創出支援機構	新宿区	ビジネスプランコンペ	奈良県
	いしかわ	高校生ビジネスグランプリ	新宿区	関西アーバン DCP ビジネスプランコンテスト	SRC グループ
	青山学院大学ビジネスプランコンテスト	青山学院大学ビジネスプランコンテスト実行委員会	新宿区	ピザンロード・大阪	大阪商工會議所、関西アーバン銀行
	若手社会人のための実業ビジネスコンテスト	株式会社バグジー、株式会社ウェイビー	新宿区	ビジネスプランコンテスト	ピザの会
	維新	ワーマンズビジネスグランプリ	新宿区	龍谷大学 ビジネスアイデアコンテスト	龍谷エクステンションセンター (REC)
	商人輩出プロジェクト	株式会社セブテニ・ホールディングス	新宿区	経営学部ビジネスプランニングコンテスト	京都学園大学経営学部
	ユニバーサルベンチャー・ビジネスプランコンテスト	世界銀行	新宿区	同志社大学ビジネスプランコンテスト	同志社ベンチャートレイン、同志社大学
	A-1 グランプリ	株式会社農業技術通信社	新宿区	New Island Contest	リエゾンオフィス
	eco japan cup	エコジャパン官民連携協働推進協議会	新宿区	立命館大学 ベンチャーコンテスト	立命館大学 リサーチオフィス (KBC)
	Japan Venture Awards	独立行政法人 小企業基盤整備機構	新宿区	龍谷大学ビジネスプランコンテスト「プレゼン瘤」	龍谷エクステンションセンター (REC) / 「プレゼン瘤」学生実行委員会
	学生・一般アイデアコンテスト	国立大学法人電気通信大学	新宿区	追浜学生ビジネスプランコンテスト	追浜門学院大学 ベンチャービジネス研究所
	一橋大学学生ビジネスプランコンテスト	一橋大学	新宿区	大蔵大ビジネス・アイディアコンテスト	大阪産業大学
	ビジネスアイデアコンテスト	東京成徳大学	新宿区	ビジネスプランコンテスト	大阪成蹊大学 マネジメント学部 起業塾
	立教 × 産能 Idea Contest	立教大学経営学部	新宿区	桃山学院大学ビジネスプランコンテスト	桃山学院大学
	専大ベンチャービジネスコンテスト	学校法人専修大学	新宿区	KGビジネスプランコンテスト	関西学院大学
	起業アイデアコンテスト	大東文化大学	新宿区	神戸研究学園都市大学セミミ対抗企画	流動科学大学
	野鳥記念 Business Award	中央大学野鳥記念 Business Award 実行委員会	新宿区	高校生ビジネスプランコンテスト	帝塚山大学
	ビジネスプラン発表会	デジタルリカルド大学大学院	新宿区	ピジョン奈良	奈良県
	ビジネスアイデアソーシャルプラッシュアップコンテスト	ピラース・ブレイクスルーハウス	新宿区	留学生起業コンテスト	大阪市・財団法人大阪国際交流センター
	ビジネスプランコンテスト	明星大学 経営学部	新宿区	京丹波市起業アドバイセニアコンペティション	京丹波市
	CEATEC JAPAN ビジネスコンテスト	立教大学経済学部セミナー	新宿区	三木市新産業育成事業ビジネスプランコンテスト	三木市
	コミュニケーションビジネスコンテスト	板橋区、産業経済部 産業振興課	新宿区	京都府地域活性化プランコンテスト	学生団体京都地場活性化プロジェクト
	ビジネス創造コンテスト	産業支援グループ	新宿区	成美大学地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」	成美大学
	ビジネスプラン&ビジネスプランコンテスト	一般財團法人品川ビジネスクラブ	新宿区	高校生ビジネスプランコンテスト	長浜商工會議所青年部
	カレージャー＆ビジネスプランコンテスト	RAGEBLUE BOYS CURRY 事務局	新宿区	松江オーブンース活用ビジネスプランコンテスト	松江市役所
	カレージャー＆ビジネスプランコンテスト	K-POWERS BUSINESS BRAIN	新宿区	実行委員会事務局 (松江市しまね OSS 協議会)	島根県
	医療ビジネスコンテスト Perry	Perry実行委員会 (学生)	新宿区	おかやま備中・ビジネスプランコンテスト	岡山県備中県民局、笠岡市、新見市
	学生のためのビジネスコンテスト KING	KING実行委員会 (学生)	新宿区	ソニーピザコンテスト	岐阜の郷定住対策実験ブースト推進係
	全国学生環境ビジネスコンテスト em factory	全国学生環境ビジネスコンテスト em factory (学生)	新宿区	島根県立大学産業コンテスト MAKE DREAM	はまだ産業振興機構
	学生向けビジネスプラン合宿「FF Camp」	特定非営利活動 (NPO) 法人 FRIS&Associates	新宿区	島根県ビジネスプランコンテスト	島根県地域振興部地域政策課しまね暮らし推進室
	新興国ビジネスコンテスト ディベロッピン!	ピラース・ブレイクスルーハウス	新宿区	ソーシャルビジネスコラボ「Go-Con」	高崎市
	日本創生ビレッジ ビジネスコンテスト	三ヶ所 〒日本創生ビルレッジ	新宿区	尾道市	尾道市
	創業プランコンテスト	足立区、産業経済部中小企業支援課	新宿区	ピジョン奈良	奈良県
	インターネットビジネスプランコンテスト	株式会社エアリア	新宿区	留学生起業コンテスト	大阪市・財団法人大阪国際交流センター
	湘南ビジネスコンテスト	湘南新産業創出コソーシアム	新宿区	京丹波市起業アドバイセニアコンペティション	京丹波市
	横浜ビジネスプラン	(財) 湘南産業振興財團	新宿区	三木市新産業育成事業ビジネスプランコンテスト	三木市
	SBI グループビジネスプランコンテスト	公益財団法人 K-POWER	新宿区	京都府地場活性化プランコンテスト	学生団体京都地場活性化プロジェクト
	神奈川大学経営学部 ビジネスプランコンテスト	神奈川大学	新宿区	成美大学地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」	成美大学
	ビジネスプランコンペティション	関東学院大学	新宿区	高校生ビジネスプランコンテスト	長浜商工會議所青年部
	かながわビジネスオーディション	神奈川県 公益財団法人神奈川産業振興センター (KIP)、かながわビジネスオーディション実行委員会	新宿区	ピジョン奈良	奈良県
	ビジネススタートアップオーディション	横須賀市	新宿区	松江オーブンース活用ビジネスプランコンテスト	松江市役所
	しばざん、学生版ビジネスアイデアコンテスト	株式会社 千葉銀行	新宿区	実行委員会事務局 (松江市しまね OSS 協議会)	島根県
	ベンチャーカップ CHIBA	(財) 千葉市産業振興財團	新宿区	おかやま備中・ビジネスプランコンテスト	岡山県備中県民局、笠岡市、新見市
	学生ビジネスコンテスト in CHIBA	財団法人千葉市産業振興財团、千葉市	新宿区	ソニーピザコンテスト	岐阜の郷定住対策実験ブースト推進係
	那須塩原市地域活性化アイデアコンテスト	那須塩原市	新宿区	高知県コンテンツコンテスト	高知県
	輝け! 能干プランニング・コンテスト	駿河台大学、飯能信用金庫・飯能商工會議所、飯能青年会議所、駿大地域フォーラム、飯能ケーブルテレビ・文化新聞	新宿区	特定非営利活動 (NPO) 法人 FRIS&Associates	徳島活性化学学生委員会
	獨協大学ビジネスコンテスト	獨協大学	新宿区	公益財団法人 高知県産業振興センター	公益財団法人 高知県産業振興センター
			新宿区	産業連携推進部 振興課	産業連携推進部 振興課
			新宿区	大学発ベンチャービジネスコンテスト	大学発ベンチャービジネスコンテスト実行委員会
			新宿区	ニュービジネスプランコンテスト	鹿児島市役所 産業創出課
			新宿区	ジョコウ@福岡 ビジネスプランコンテスト	株式会社サイバーエージェント
			新宿区	長崎県ビジネスプランコンテスト	長崎県
			新宿区	北九州未来ビジネスプランコンテスト	財団法人 北九州産業技術推進機構
			新宿区	GBS ビジネスプラン・コンテスト	九州大学ビジネス・スクール
			新宿区	九州工業大学ビジネスプランコンテスト	九州工業大学
			新宿区	佐賀ビジネスプランコンテスト	国立大学法人 佐賀大学
			新宿区	大分大学発ベンチャービジネスプランコンテスト	大分大学ベンチャービジネス・ラボラトリー
			新宿区	九州共立大学発ベンチャービジネスプランコンテスト	九州共立大学
			新宿区	ビジネスプランコンテスト	福岡大学ベンチャービジネスコンテスト
			新宿区	APUEビジネスプランコンテスト	立命館アジア太平洋大学
			新宿区	学生版ベンチャービジネスコンテスト	立命館アジア太平洋大学
			新宿区	大分県ビジネスプランコンテスト	大分県
			新宿区	門司区地域活性化プランコンテスト	門司区地域活性化プランコンテスト実行委員会
			新宿区	久留米地域活性化プランコンテスト	久留米市
			新宿区	有田地域活性化プランコンテスト	有田地域活性化プランコンテスト実行委員会
			新宿区	系島市地域活性化プランコンテスト	糸島市
			新宿区	ソーシャルビジネスストライアル 沖縄リーグ	ソーシャルビジネスネットワーク大学
			新宿区	沖縄学生ビジネスプランコンテスト	沖縄キャンパス
			新宿区	琉球大学産学官連携推進機構	琉球大学

調査記録		資料3-3
テーマ	鯖江市地域活性化プランコンテスト	
日 時	2015年8月25日(火) 午前9:30~10:30	
調査先	NPO法人エル・コミュニティ 代表 竹部美樹様	
調査場所	福井県鯖江市商工政策課	
記録者	伊藤有子	
	記録	

講師の竹部美樹様は鯖江市出身。地域を活性化させる一つのきっかけとして、「鯖江市地域活性化プランコンテスト」を平成20年から開催しました。1回目は市からの援助を受けなかったため、地元優先ではなく全国から学生を集めることができました。

コンテストについて

参加数は24名(3名×8チーム)で毎年9月に2泊3日の合宿を行います。市長の講義や市内各地の聞き込み調査を行なながらプラン作成します。公開プレゼンテーションにて最優秀賞を決めます。毎年3倍近いエントリー数があり、近年は地元学生の参加も出てきています。参加学生の特徴は、京都大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学などが多くオピニオンリーダーとなる学生であり、就職希望先は大手企業、官僚志向です。このコンテストの凄いところは、8つのプラン全てを鯖江市が具現化できるか検討し、ホームページに公開することです。

優秀プランが市民の手により実現

都会の学生からしてみると駅の2階が空いているのはもったいないとプラン化。それを聞いた地元NPO団体が賛同し、市へ提案。事業化されることとなり、駅2階にライブラリーカフェをオープンしました。その他、参加学生から鯖江市の評判を聞き、鯖江市に事務所を開設した弁護士もいます。

他地域への展開

昨年第7回大会の最優秀チームの一人に静岡市三保出身者がいました。その学生の要望で、「世界遺産×地域活性化三保を描き創る3日間」というコンテストを開催することになりました。その他福岡県北九州市、福岡県糸島市、佐賀県有田市でもコンテストが実施され他地域へも展開が広がっています。

参加学生たちの展開

過去参加したOB/G学生がメンターとして参加しプランの質を高めています。また、参加OB/Gが鯖江を盛り上げようと東京大学駒場祭やロック・イン・ジャパン・フェスで「サバエドッグ」を販売したほか、社会人向けの「鯖江市地域活性化プランコンテスト大人版」開催など派生しています。地元学生も刺激を受け、運営スタッフとして参加するようになりました。そして、学生団体を立ち上げ、事業化に採用されたプランを主体となって活動を行っています。

調査記録		資料3-4
テーマ	学生まちづくりコンペティション	
日 時	2015年8月23日(日) 午後6:15~6:45	
調査先	株式会社まちづくりとやま 吉池奈央様	
調査場所	富山まちなか研究室MAG.net	
記録者	阿部真也	
	記録	
富山まちなか研究室MAG.net		
<p>富山市が50%、商工会議所が16.7%出資する株式会社まちづくりとやまが2011年に中心市街地活性化の為に開いた交流スペースです。若者のまち離れに歯止めをかけるべく、無料で立ち寄って、ゼミ・研究活動やサークル活動、学生団体の打合せができるスペースを提供しています。その他、商店街や企業の人たちとの交流・情報共有の場としても利用されています。</p> <p>賃料や人件費は富山県と富山市の助成によって賄っているが、そろそろ助成の目途が見えてきているところで、今後民間への移行が課題です。</p>		
学生まちづくりコンペティション		
<p>■概略</p> <p>学生から富山の市街地を活性化させるアイデアを募り、優秀な企画には補助金を交付するコンペティション。学生のクリエイティビティを生かし、社会と繋がり、これからの人としての成長を担うプロジェクトであり、学生たちがまちへ繰り出し、富山に潜在する魅力を発掘し、あたらしい魅力創出を目指してそのアイデアを競いあいます。企画の提案募集に始まり、実施に向けての検討を行ったうえで、公開プレゼンテーションによる審査を行います。公開プレゼンテーションは、入場が無料で観客も投票を行うことができます。採択される企画は5つ程度で、補助金が交付されます。これを原資として企画を実施し、その報告までを行います。企画の募集から事業報告までは1年間かけて行われます。</p>		
<p>採用事業の一つ：間伐材のベンチを商店街に設置</p>		
<p>■コンペティションの詳細</p> <p>時期：毎年4月から12月 開催場所：富山国際会議場ほか 応募期間：2か月 応募資格：学生（大学、短大、高等専門学校、専門学校、専修学校、高校などの学生団体または個人） 参加費：無料 定員：企画採用は5企画</p>		
<p>■分析</p> <p>目的に、富山の市街地活性化と学生の成長を掲げています。学生が、自由な発想で企画し、それを実施させる点に大きな特徴があります。特に公開プレゼンテーションまでは、説明会や相談会、フィールドワーク等、毎月1回程度必ずイベントがあるため、かなり手厚いフォローが行われています。企画の採択後は、連携団体などのサポートが入り、富山中心市街地で確実に事業が実施されている。2015年度においても5企画が採択され、アーケードでウエディングを行うイベントなどが実施されています。</p> <p>募集から事業終了までは1年間にわたり、事業の最後に事業報告まで行うため、必ず1年で完結させる仕組みとなっています。</p> <p>コンペティションは2012年度から始まり、今年度も行われているため、認知度の高いイベントになっていることがうかがえます。また、後援に富山市及び富山県が名を連ねているので、行政からも認知された企画と言えます。</p> <p>募集する企画がビジネスに特化したものではなく、あくまでも街中に限定した地域活性を求めている点にも特徴があります。</p>		

調査記録		資料3-5
テーマ	はままつ起業家カフェ	
日 時	2015年11月30日(月)午後7:00~9:00	
調査先	浜松市産業部産業振興課 森隆仁様	
調査場所	はままつ起業家カフェ	
記録者	神村秀和	
	記録	

浜松市における法人開業率

平成25年度の開業率は3.72%、廃業率4.31%と法人者数もこの年まで減少を続けていました。平成26年度は、開業率4.52%、廃業率4.05%と逆転し、景気動向の上昇が見られます。

はままつスタートアップ

浜松地域における起業しやすい環境づくり、ベンチャー企業の成長支援のため、地域産業界、経済団体、金融機関、産業支援機関・団体、大学・研究機関による「はままつスタートアップ体系」を構築しています。

はままつ起業家カフェ

はままつスタートアップの中心機関として、「はままつ起業家カフェ」を浜松市と浜松商工会議所と浜松地域イノベーション推進機構による共同設置しました。全国の政令指定都市の中では初のワンストップ施設です。

場所／浜松商工会議所会館1階

開館時間／平日 午前9:00~午後7:00（土日祝祭日、年末年始は除く）

スタッフ／浜松市2名、浜松商工会議所1名、浜松地域イノベーション推進機構2名

事業内容／創業希望者等への場の提供

相談、アドバイスの実施

創業セミナー等の開催

起業セミナーや起業サロン等で起業予備軍を発掘し、実践サロン、メンター企業支援、ビジネスプラン発表会等により企業へ向けたステップアップを行っています。創業後、ベンチャーミーティング等を開催し、金融機関や商工会議所・商工会と連携して軌道に乗るまでの支援を行います。

浜松市における創業支援事業

インキュベーション施設（浜松イノベーションキューブ、テクノフロンティア浜松、浜松市ソフトインキュベートルーム）の紹介し、賃料の一部を助成する浜松市創業支援事業費補助金の受付を行っています。また、開業のために必要な資金の融資も行っています。

起業の目標

浜松市全体での平成27年度新規起業数目標は、650社。その内、はままつスタートアップ事業による目標は100社。潜在的起業希望者（約1,000人）に対し啓発をし、

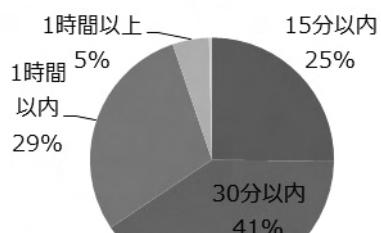
起業準備者（約200人）に対しサポート、起業・創業100社の誕生を目指します。

平成27年7月から10月の実績で、13社の起業がありました。相談件数も92人、183回、男女比は1:1と成果が表れています。相談者に大学生・高校生は今のところいないのが現状です。開業資金やビジネスプラン面で学生の起業は難しいため、直接的、具体的支援事業は行っていないとのことです。

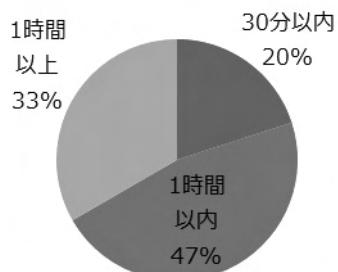
浜松市が関わっているものとして、静岡理工科大学・浜松市主催「高校生ものづくりことづくりプランコンテスト」がありますが、会場提供のみであり運営には参加していません。はままつ起業家カフェ森所長は審査員として参加します。

調査記録		資料 4 - 1
テーマ	「浜松に住もう・働く=生きる～地方代表「浜松」の価値観～」に関するアンケート	
実施日	2015年11月30日～12月6日	
調査協力	浜松商工会議所青年部会員50社 536名 · 大都市大企業某H社本社勤務 30名	
調査方式	無記名、選択式（一部コメント記載あり） Google フォームを利用	

Q1) 通勤時間に何分要しますか？

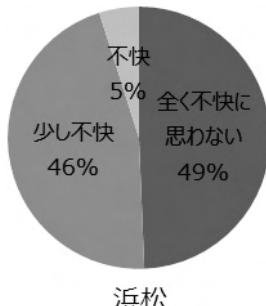


浜松

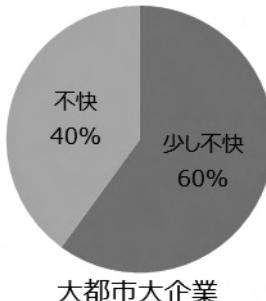


大都市大企業

Q2) 通勤時に感じる不快の度合いを教えてください。

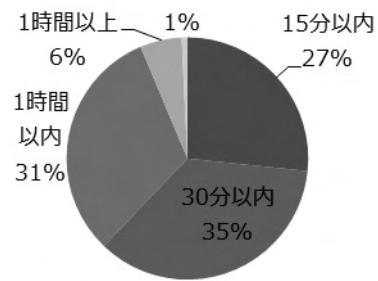


浜松

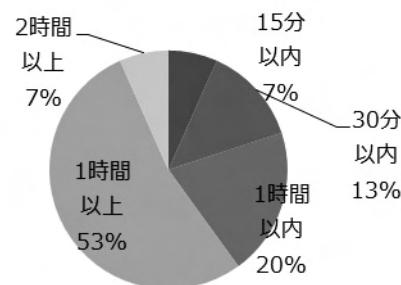


大都市大企業

Q3) 喧騒から離れた自然（海・山など）まで、自宅からどの程度でアクセスできますか？

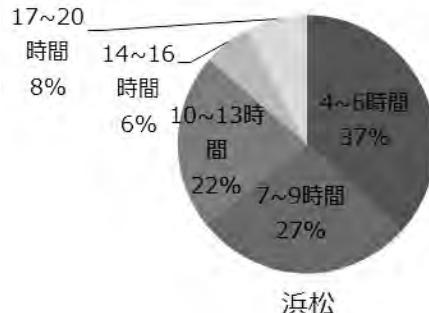


浜松

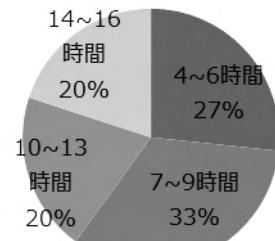


大都市大企業

Q4) 平日(仕事日)に、仕事以外の時間は?(時間/週)

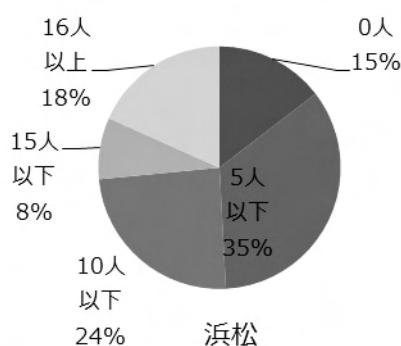


浜松

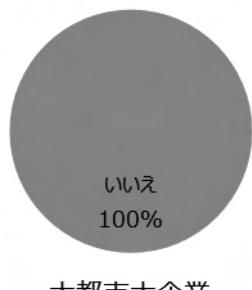
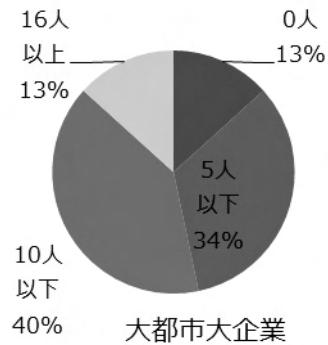
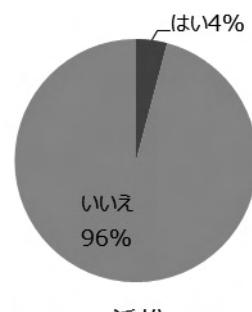


大都市大企業

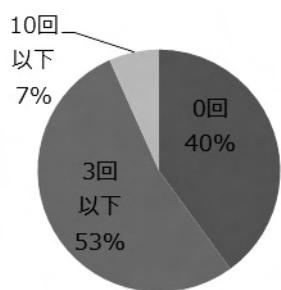
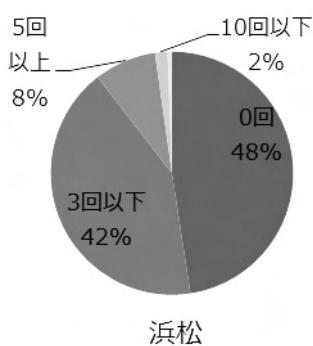
Q5) 過去3か月で仕事関係以外の友人と何人会いましたか？（帰省時を除く）



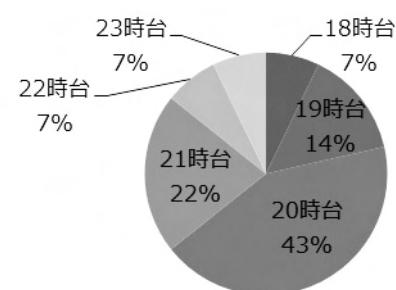
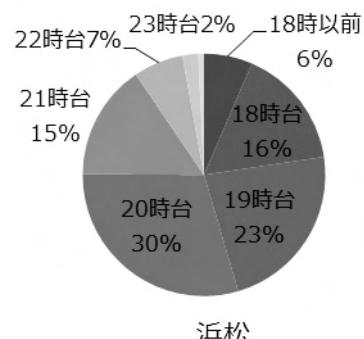
Q9) 「プレジャーボート」を所有、または共有していますか？



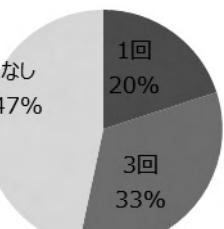
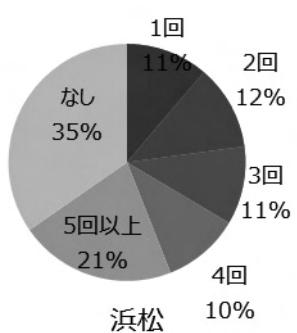
Q8) この1年間で、何回バーベキューをしましたか？



Q10) 平日(仕事日)の、平均帰宅時刻を教えてください。



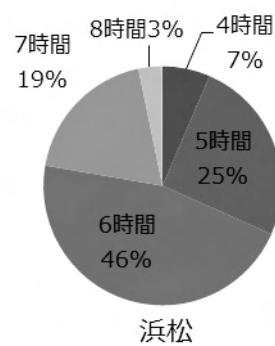
Q11) 平日（仕事日）に、家で家族と一緒に夕食を何回りますか？（回／週）



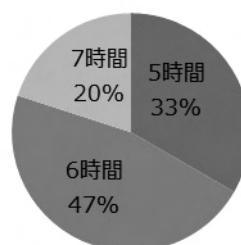
浜松

大都市大企業

Q13) 平日（仕事日）における、理想の睡眠時間は何時間ですか？

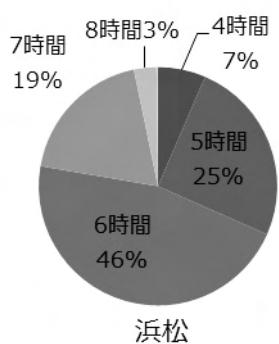


浜松

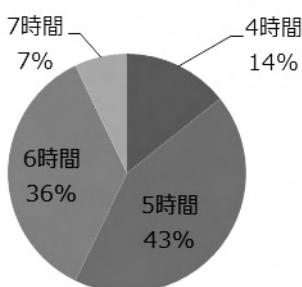


大都市大企業

Q12) 平日（仕事日）における、実際の睡眠時間は平均で何時間ですか？



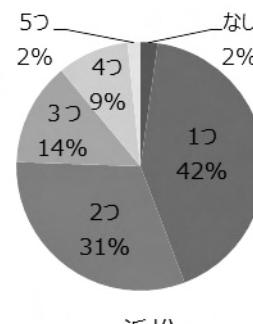
浜松



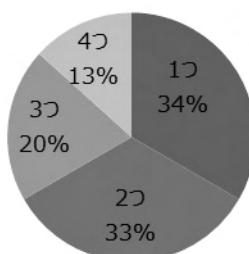
大都市大企業

Q14) 地域とのかかわりで実際に得られるものは何ですか？(複数選択可)

- [選択肢] 1. きずな 2. 住みやすさ 3. 助け合い
4. 安全性 5. その他

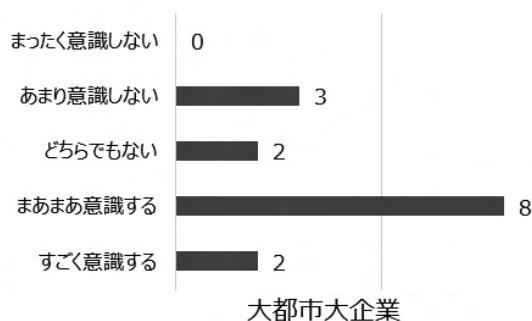
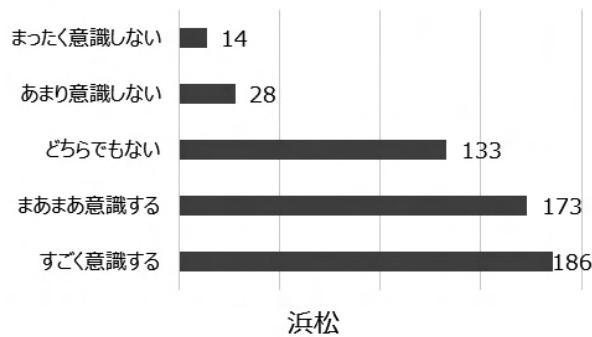


浜松



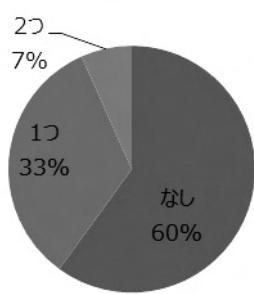
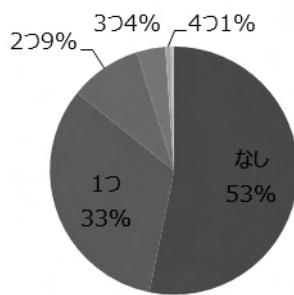
大都市大企業

Q15) 災害時における地域とのかかわりの重要性を意識しますか？

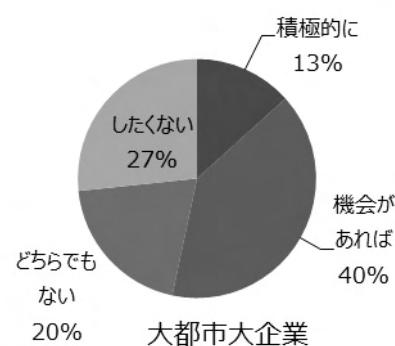
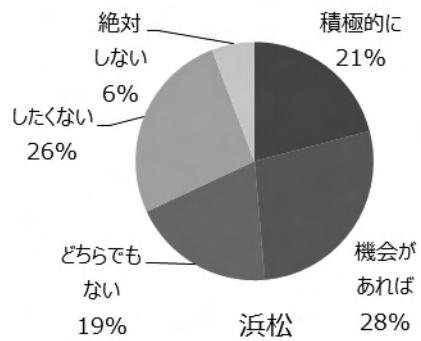


Q16) 現在、参加している地域コミュニティーはありますか？（複数選択可）

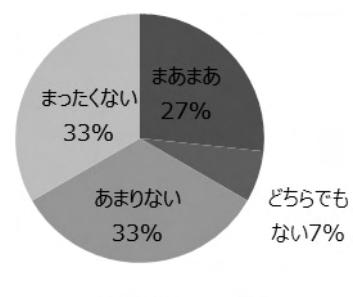
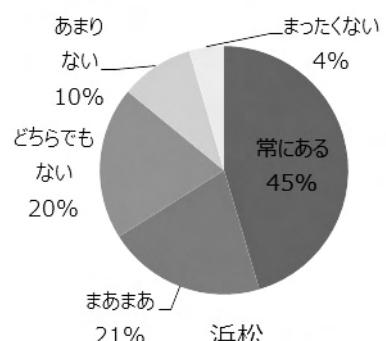
[選択肢] 1.町内会 2.子ども会 3.PTA
4.ボランティア 5.消防団



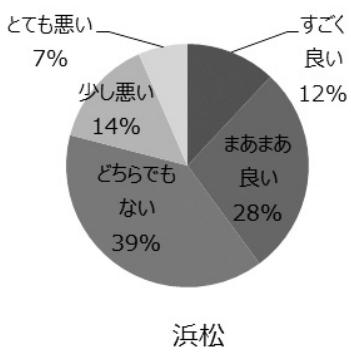
Q17) 地域のお祭りに参加していますか？



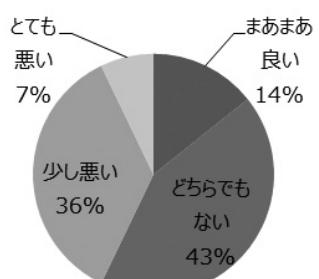
Q18) 社長に会えますか？（話をする機会はありますか？）



Q19) あなたの会社は「風通し」が良いですか?
(声が通りやすいですか?)

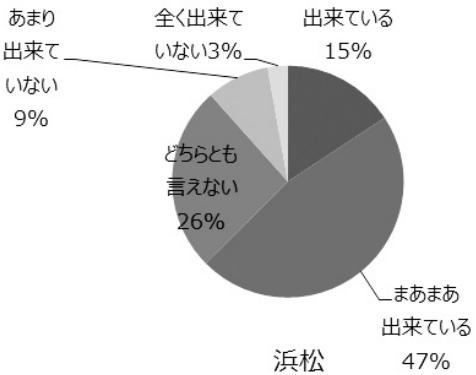


浜松

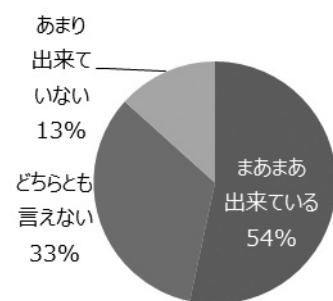


大都市大企業

Q21) 勤務先で「やりたい仕事」ができますか?

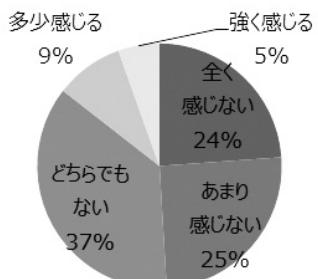


浜松

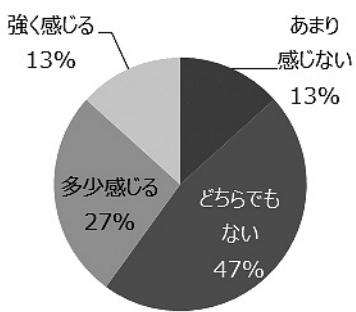


大都市大企業

Q20) 勤務先の企業は「人員整理」のリスクを感じえますか?

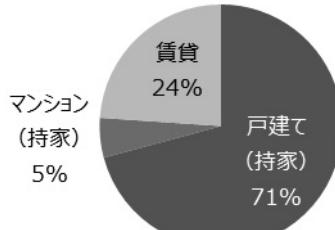


浜松

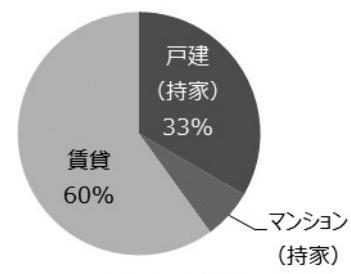


大都市大企業

Q22) 現在のお住まいは?

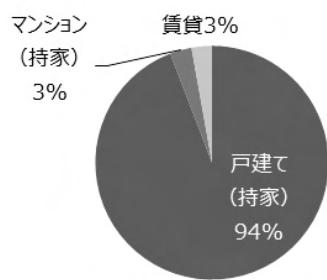


浜松

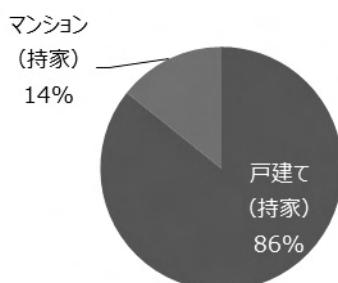


大都市大企業

Q23) 子育てにおいて、理想の住まいは？

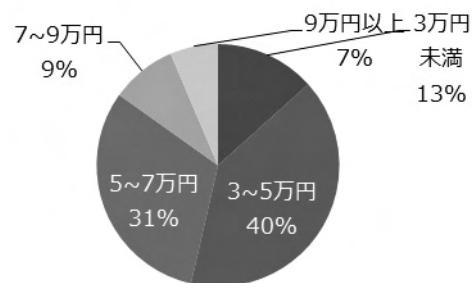


浜松

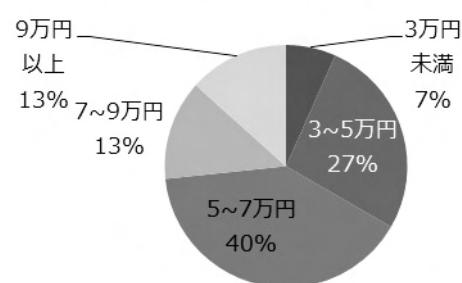


大都市大企業

Q25) 1ヶ月の食費はいくらですか？

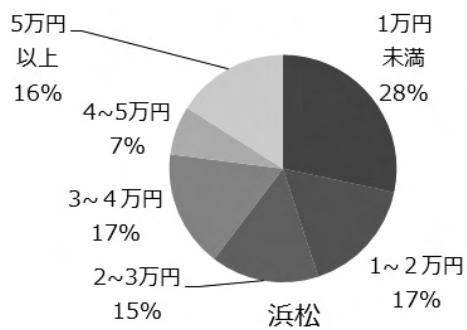


浜松

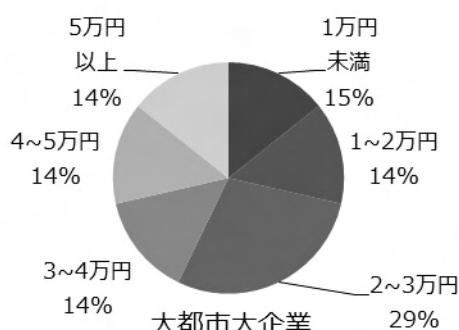


大都市大企業

Q24) お子さま1人あたりの教育費はいくらですか？

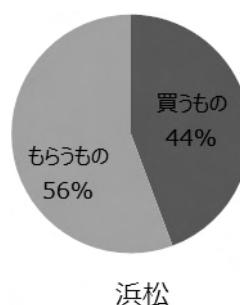


浜松

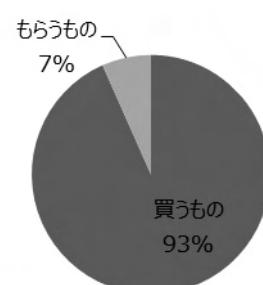


大都市大企業

Q26) あなたにとって「みかん」とは？

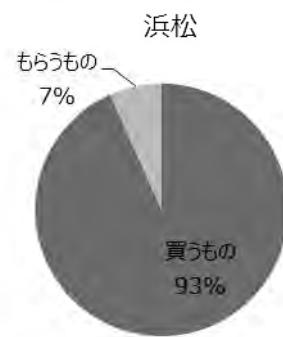
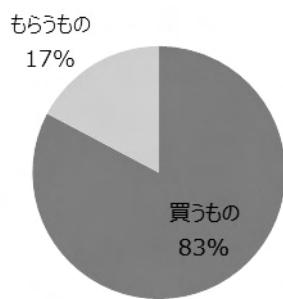


浜松



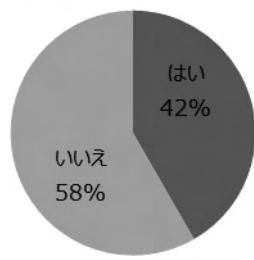
大都市大企業

Q27) あなたにとって「じゃがいも」「たまねぎ」とは？

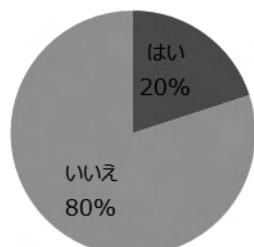


大都市大企業

Q29) 実家にお住まいですか？

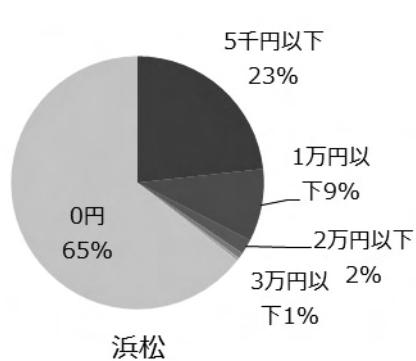


浜松

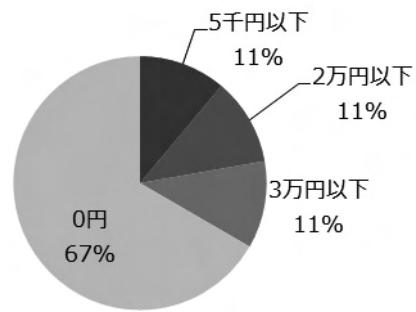


大都市大企業

Q28) 駐車場代はいくらですか？

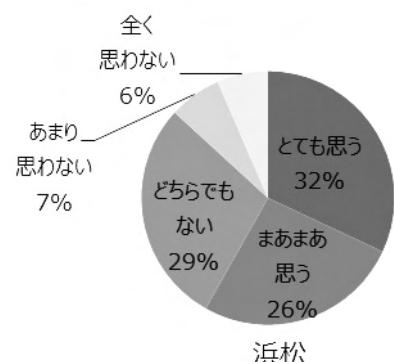


浜松

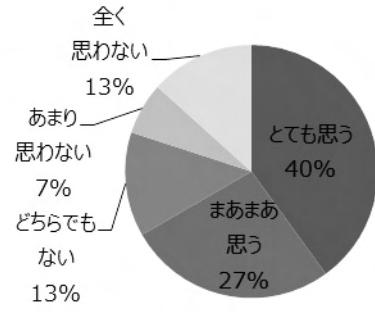


大都市大企業

Q30) 実家に住むことで、より貯蓄ができると思いますか？

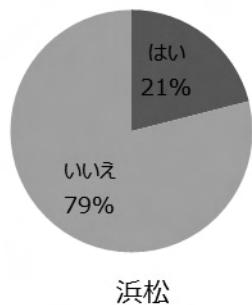


浜松



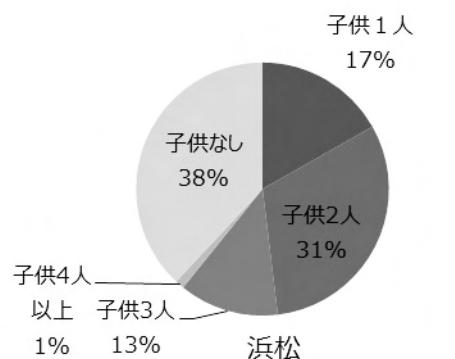
大都市大企業

Q31) 現在、(義理の) 親御様と同居していますか?

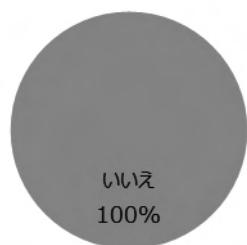


浜松

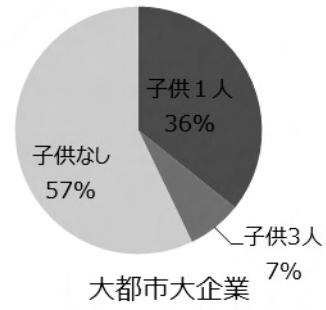
Q35) あなたの家族構成を教えて下さい。



浜松

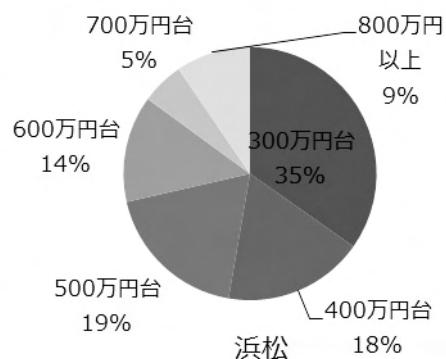


大都市大企業



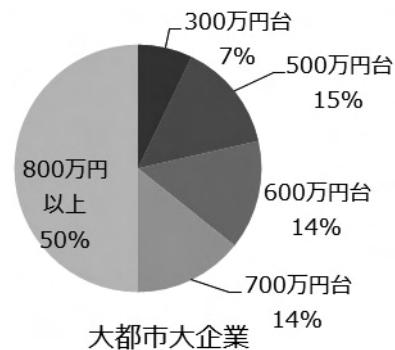
大都市大企業

Q34) あなたの年収をお聞かせ下さい。



浜松

(注) Q6,7,32,33 は省略



大都市大企業

アンケート結果寸評

A: ワークライフバランス	AH	H社	差異	オール浜松	H社	総合考察
10問・計100点	63	44	19			
【質問1】通勤時間に何分要しますか?	9.4	5.3	4.1	7割の従業員が通勤時間「30分以内」。	8割の従業員が30分以上2時間以内。	往復約2時間の差が週5日間×52週=520時間(21日分)少なくとも浜松にはそれだけの時間的価値がある。
【質問2】通勤時に感じる不快の度合いを教えてください。	17.1	13.0	4.1	「全く不快に思わない」従業員が全体の半数を占める。	「全く不快に思わない」従業員が0%。	通勤・帰宅の往復で考えると、時間的価値以上に不必要的心的ストレスを受けない浜松に価値がある。
【質問3】喧騒から離れた自然(海・山など)まで、自宅からどの程度でアクセスできますか?	14.1	8.1	6.0	6割が30分以内、9割が1時間以内に自然へアクセス出来る。	半数が1時間かかる。	相対的に見て、自然のアクセスに関して浜松に利がある。ひいては住環境、子育て、趣味の実現においてもプライオリティがあるのでは。また距離だけでなく、アクセス方法の違いも考慮を入れたい。車であれば行先・荷物量・時間の自由度なども融通が利く。
【質問4】平日(仕事日)に、仕事以外の時間の合算値	2.3	2.5	-0.2		6割が4時間~9時間ある。	通勤時間にかかる時間や、帰宅時間の遅さがあるにも関わらず、大都市大企業の従業員の方が時間の使い方が上手いのでは。睡眠時間も浜松より短い。また、自己啓発にかける時間が大都市大企業の従業員の方が長い。
【質問5】過去3か月で仕事関係以外の友人と何人会いましたか?(帰省時を除く)	2.8	2.7	0.1			どちらも、一定数が友人と関りを持たない人がいる一方で、どちらも一定数の交友関係を構築している。差はない。
【質問6】この1年間で、何回バーベキューをしましたか?	4.3	4.3	0.0	約半数がバーベキューをせず。	約4割がバーベキューをせず。	個人宅保有率が高く、またBBQをするロケーション(自然)により恵まれている浜松の方が、実施率や回数が上回ると思ったが、結果としては全く同じ。
【質問9】「プレジャーボート」を所有、または共有していますか?	1.2	1.0	0.2	4%の人(20人)が所有。	所有していると答えた人がいなかった	プレジャーボートを持っている人の趣味は「釣り」の人が大方。海へのアクセス条件が良い中で、より趣味の追求が出来る環境にあるという結果と捉える事が出来る。また、海(湖)へのアクセスはもとより安価に停められる係留所の充実があるのでと考えられる。
【質問10】平日(仕事日)の、平均帰宅時刻を教えてください。	3.3	2.5	0.8	18時以前に帰宅出来る人が6%20時までに帰宅する人がほぼ半	半数以上の人が21時までに帰宅。	浜松と大都市では、企業毎の始業時間の差があるものの、結じて浜松の方が帰宅時間は早いと言える
【質問11】平日(仕事日)に、家で家族と一緒に夕食を何回りますか?	5.2	1.9	3.3	稼働日ベースで毎日家族と夕食を共にしている人が2割いる。	半数がなし。(独身一人暮らしもその理由)	今回のアンケートは浜松・大都会共にほぼ同じ幅の世代が対象となつたが、大都会の方が独身・一人暮らし率が高いこともあり、この様な結果となった。また、帰宅時間の早さが浜松の数字を押し上げていることも指摘出来る。家族と過ごす時間は、浜松の方が長い。
【質問12】と【質問13】との差異	3.7	3.2	0.5	平均睡眠時間6時間以上。	平均睡眠時間5時間台。	共に実際の平均睡眠時間にプラス1時間を希望する人が多かった。それでも、平均睡眠時間に差がある為、大都会の大企業勤めの人は、短い睡眠時間に順応しているとも言える。しかし、この1時間の差が、週5日間×52週=260時間(11日分)睡眠が健康維持にも繋がる事を伝えたい。
B: 所得(表面/実質)	AH	H社	差異	オール浜松	H社	総合考察
9問・計100点	51	51	0			
【質問22】現在のお住まいは?	12.6	8.8	3.8	持ち家の人は全体の8割近く。その中で大半が戸建て。	持ち家率は4割。	地価が安いため、利便性の良い立地で持ち家購入可能。子育てにおいても十分なスペースを確保できる。
【質問24】お子さま1人あたりの教育費はいくらですか?	2.6	1.1	1.5		ばらつきが大きい。1万円未満と回答する人がいる一方、4万円以上かけていると回答した人もいる。	グラフ上の割合からすればそこまで大差はないが、配点結果を見ると開きがある。また、今回の結果では大都会の人は浜松よりも比較的お金のかからないであろう幼年代の子どもが多いものの、より高い教育費を捻出している傾向がある。
【質問25】1ヶ月の食費はいくらですか?	3.2	3.0	0.2	3~5万円が中心	5~7万が最も多く、3~5万が続いている。	ボリュームゾーンについて、浜松が食費3~5万円が4割に対し、大都会は5万~7万となっている。しかし、他の質問結果で出ている家族構成まで踏まると圧倒的に優位な結果を感じる。
【質問26】あなたにとって「みかん」とは?	6.7	5.7	1.0	5割強が「もらうもの」	若干数を除いて「買うもの」と回答	浜松がみかんの生産地と言えばそれまでだが、地域や身近な人との「おすそ分け」文化がまだ残っている証拠であり、それが見えないところでの家計簿やGDP、「実質的な収入」としてみることが出来る。
【質問27】あなたにとって「じゃがいも」「たまねぎ」とは??	1.7	1.2	0.5	5割強が「もらうもの」	若干数を除いて「買うもの」と回答	地域や身近な人との「おすそ分け」文化がまだ残っている証拠であり、それが見えないところでの家計簿やGDP、「実質的な収入」としてみることが出来る。
【質問28】駐車場代はいくらですか?	4.4	2.4	2.0	借りる際の駐車代は5~1万円が相場。	借りる際の駐車場代は1~2万	浜松と大都市圏の地価相場とほぼ比例し、大都市圏の方が駐車場代が格段に高い。また、浜松は安いので維持費を抑えるられる事から保有率も高い。
【質問29】実家にお住まいですか?	7.0	5.0	2.0	実家4割	実家2割	地元で就職する方が、当面実家に住む確率が高くなる。→家族と過ごす時間、家賃・食費等にメリットか。
【質問30】実家に住むことで、より貯蓄ができると思いますか?	3.5	3.7	-0.2	6割が思う。	7割が思う。	約6割の人達が実家に住むと貯蓄が出来ると考えている事から、実家率の高い浜松は貯蓄し易い環境にある。
【質問34】あなたの年収をお聞かせ下さい。	9.1	20.1	-11.0	年収400万円以下が半数。	年収800万以上が半数。	浜松については業種、職種が多方面に亘っているため社会全体の賃金相場通りの回答となった。一方、大都市しかも有力企業となれば世間相場とはかなりかけ離れた数値となる。

C: やりがい	AH	H社	差異	オール浜松	H社	総合考察
4問・計100点	71	54	17			
【質問18】社長に会えますか?(話をする機会はありますか?)	19.5	11.3	8.2	7割近くの人が社長と顔をあわせ、かつ会話をする機会がある。	7割近くの人がほとんど社長と顔を合わせる機会もない。	トップと顔を合わせ、かつコミュニケーションを図れることが仕事へのモチベーションを上げることにつながるかも知れない。
【質問19】あなたの会社は「風通し」が良いですか?(声が通りやすいですか?)	16.2	12.3	3.9	「風通しがすごく良い」が12%(64名)いる。また、4割以上が一定以上の風通しの良さを感じている。	4割強が風通しの悪さを感じている。	従業員数の数という差もあるが、所謂中小企業クラスの人数規模の方に風通しの良さがうかがえる。
【質問20】勤務先の企業は「人員整理」のリスクを感じえますか?	17.3	13.0	4.3	半数以上が「人員整理のリスク」を感じない。	4割の人人がリスクを感じている。	自分の仕事の出来と直接関わりのない理由で人員整理されるリスクは、他人事でなく不安を感じる大きな要因となっている。
【質問21】勤務先で「やりたい仕事」ができていますか?	18.1	17.0	1.1	「全く出来ている」が15%(42人)いる。また、一定以上やりたい仕事が出来ている人は全体の6割強。	一定以上出来ていると感じている人は全体の半数。	一定以上のやりたい仕事を出来ている人の割合はほぼ同等だが、「全く出来ている」と言える人は大企業においては皆無だった。
D: 人生設計 / 人間形成	AH	H社	差異	オール浜松	H社	総合考察
7問・計100点	54	43	11			
【質問14】地域とのかかわりで実際に得られるものは何ですか?	1.9	2.3	-0.4	6割が複数回答。	7割が複数回答。	浜松の人以上に、特に東北震災に間接的に関わった(東京の)大都会人の方が、地域との関りをより強く求める傾向が強い。
【質問15】災害時における地域とのかかわりの重要性を意識しますか?	3.9	3.6	0.3	すごく意識するの割合が高い。	全く意識しないのはゼロ。	(東京の)大都市の人が実体験もあってか、意識する傾向は強いものの、結果として同様にかかわりの重要性を認識している。
【質問16】現在、参加している地域コミュニティーはありますか?	1.2	1.1	0.1	5割強が所属せず。	6割が所属せず。	無所属・一つのみ所属の割合は変わらないが、複数の地域コミュニティーに所属している人は、浜松が圧倒的に多い。
【質問17】地域のお祭りに参加していますか?	3.3	3.4	-0.1	ほぼ半数が参加したい。	ほぼ半数が参加したい。	どちらの地域も、それぞれ同等の割合で参加・不参加の意思があるものの、浜松には地域全体で行う「浜松まつり」があるせいか、より積極的な人の割合が多い。
【質問22】と【質問23】の差異	33.0	25.3	7.7	現実と理想が一致している人が大半。中には理想の子育てに賃貸を挙げた人が実際には賃貸住まいという人も。	理想の子育ては「持ち家」という人が100%。	地域差による土地・住宅価格の差もあり、浜松の大多数の人は子育てにおける理想を現実のものにしている。
【質問31】現在、(義理の)親御様と同居していますか?	7.0	5.0	2.0	2割が(義理)親と同居。	親との同居が全くない。	子育てにおいて親に助けて貰えるメリットがある。介護が必要となった際に遠方では費用もかさむ。
【質問35】あなたの家族構成を教えて下さい。	3.4	2.1	1.3	子ども2人以上が4割強	子ども2人以上は1割未満	結果として見れば、浜松の出生率と同様の結果であり、子育ての環境の良さの証では。大企業と比較して年収は低くても、子供2人を養っていく環境が整っている。安心して子供を産めるのは現代において非常に価値のある事である。

例会



4月例会は44名出席のスタート。



4月、5月例会では、ワールドカフェ形式によるグループミーティングを開催し「10年後の“元気な浜松”」のイメージを構築しました。



月々の例会は高い出席率で、各小委員会に分かれたグループミーティングでは活発な議論が交わされました。

小委員会

例会日以外にも、各小委員会ごとに集まり、それぞれのテーマについて熱く議論を交わしながら各提言を構築しました。



榎本貴文小委員会



高橋志乃江小委員会



阿部真也小委員会



鈴木敏明小委員会



スタッフ合宿

提言視察研修



富山市岩瀬のまちづくり視察。富山 YEG の五十嵐亮副会長様にご案内頂きました。



長田鉄工所・アイアンプラネットで溶接体験。



富山まちなか研究室 MAG.net



福井 YEG の皆様に「アントレキッズ」の概要等についてお話を伺いました。



福井市教育委員会では、福井の教育の強さの秘密を教えていただきました。



鯖江市地域活性化プランコンテストについて、竹部美樹様からお話を伺いました。



鯖江 YEG の皆様と地域活性に関する意見交換をさせていただきました。



鯖江市市民協働課では JK 課の取組みについて伺いました。

取材



浜松わくわく探検隊について。水野久美子様。



未来授業について。黒柳誠様。

政策提言発表会



あとがき

本年度方針のキーワード“地域を元氣にする”政策とは一体どんなものであろうか。委員会全体でたどり着いたのは「人づくり」でした。2014年の自治体消滅論をうけ、安倍内閣は「まち・ひと・しごと創生本部」を設置して、地方創生政策が展開されることになりました。大都市集中を是正しながら人口維持と地域経済活性化を同時に実現し、地方分散型社会へと結びつけていく。この実現のために必要な財源や権限を官邸主導で執行して国全体の発展を成し遂げる力強い政策です。ここで重要なのは「全国画一的な支援」ではなく、「地方自治体の創意工夫に応じて支援されるボトムアップ型の支援」という点です。この創意工夫の対象は“地方安定雇用の創出・流入人口の形成”、即ち当提言の核的要素であります。さらに求められる“地域間連携”の側面から、民間である我々各層との横断的協同体制が含まれる今回の政策は、官民双方にとって価値あるものと考えます。一年間、委員長の確かなリードのもと、4名の副委員長が各フェーズをチームメンバーとともに熱く議論しながら、「書いては消し、消しては書き」を繰り返し今日にいたりました。浜松商工会議所青年部、歴代続く伝統の政策委員会、第30回目に足る提言が整ったのではと自負するところではありますが、周年の節目に今後のありかたを考えるきっかけを頂きました。「人づくり」は「地域づくり」であると同時に「企業づくり」であります。我々一人一人がその真理を理解して行動し続けることが何よりも重要であると強く感じた次第です。長文ご拝読賜りましたこと、委員会メンバーと共に、厚く深く感謝申し上げます。



浜松商工会議所青年部
政策委員会担当副会長 **伊藤友輔**



政策委員会委員長 **安井孝浩**

政策提言チームメンバー

提言1 キャリア教育を通じた「郷土愛」「職業観」の育成～産学官連携のキャリア教育実施～

担当副委員長 **榎本 貴文**

メンバー 有澤宏和、伊藤真、加藤雅士、神村明洋、佐藤信一、鈴木健司、内藤照幸、
中村恭英、深田昌克、松井孝倫、山下正剛、若松久智

提言2 高校生が主役のまちづくりを～浜松市高校生連盟（仮）プロジェクト～

担当副委員長 **高橋 志乃江**

メンバー 内山勝広、梅原志穂子、大庭小奈代、川合貴久、黒金瞬介、鈴木基信、
中山知子、長谷川角弥、疋田通丈、平野圭吾、福智みほ、藤島智美、牛田達樹

提言3 全国の大学生。浜松に注目！～浜松やらまいか学生プランコンテスト～

担当副委員長 **阿部 真也**

メンバー 飯田紀行、伊藤有子、大高美紀、小栗侑実、神村秀和、棟敷龍欣、鈴木秀信、
中村英治、新田義仁、松本力洋、村野友紀、森下泰由紀

提言4 「浜松の魅力」を発見・発信

～U・I・Jターン対策 若者世代へ就職に対する新しい「ものさし」を明示～

担当副委員長 **鈴木 敏明**

メンバー 天野尚紀、内田弘守、江口訓生、大城剛、岡島直樹、小山太郎、清水俊之介、
外山武志、鳥居大資、早川博、藤城貢治、山下雄也

事務局担当 **小田木俊郎**

<事務局>

浜松商工会議所会員共済課

〒432-8501 浜松市中区東伊場二丁目7番1号

TEL : 053-452-1113 FAX : 053-452-6685

青年部 Email : yeg@hamamatsu-cci.or.jp

青年部HP : <http://www.hyeg.jp/>



浜松商工会議所青年部 平成27年度政策委員会

Hamamatsu Young Entrepreneurs Group